

「上田市歴史文化基本構想」(案)

平成 30 年 12 月
上田市教育委員会

上田市歴史文化基本構想 構成案

第1章 上田市歴史文化基本構想策定の目的...P4

- 1 策定の背景と目的
- 2 行政上の位置付け 上位計画・関連計画との関係

第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状...P10

- 1 上田市の概要
 - (1) 上田市の社会環境 位置・人口・行政単位の変遷・土地利用・産業・交通
 - (2) 上田市の自然環境 地質・地形・山・河川・気候・動植物
 - (3) 上田市の歴史環境 旧石器時代から近代まで
- 2 上田市の歴史と文化の特徴
 - (1) 時代的特徴 年表添付
 - (2) 地域的特徴 エリアごとの歴史と文化を中心に記述
 - (3) 歴史文化の特性 「上田の歴史文化とは何か」を簡潔にまとめる。
- 3 上田市の文化財保護施策
 - (1) 文化財マップと指定文化財一覧表
 - (2) 現状と課題
 - ・現在の行政組織体制と文化財の保護
 - ・地域や種類における分布

第3章 文化財把握の方針...P47

- 1 文化財調査の履歴 過去の市町村の調査履歴
- 2 実施中の文化財調査
 - (1) 仏教文化財(仏像)調査
 - (2) 蚕都上田に関わる養蚕家屋等調査
- 3 今後実施すべき文化財調査
 - (1) 指定の指標づくりに向けた調査
 - (2) 早急に行うべき記録等の調査
- 4 まとめ

第4章 文化財の保存・活用の基本方針...P51

- 1 基本目標の設定
- 2 基本方針
 - (1) 調査・研究の推進
 - (2) 文化財の保存と活用の推進
 - 文化財指定の推進と再構築
 - 情報発信
 - 博物館機能の充実
 - 地域内分権を活用した文化財の保存・活用
 - 防災・防犯

(3) 文化財と周辺環境の一体的な保全

・ 文化財の背景にある自然・歴史・景観・風土・社会を一体に捉えた保護

(4) 歴史文化の学習と人材・後継者の育成

生涯学習・公民館活動等における地域学習の推進

有形文化財保護における守り手の育成

無形文化財伝承における後継者育成

(5) 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針

行政の連携体制

市民、研究会、大学等との連携

第 5 章 関連文化財群の設定...P57 (1) 概要 (2) 基本的な方向性

関連文化財群- 1 信濃国分寺と仏教文化財群

関連文化財群- 2 水と信仰の農業開発文化財群

関連文化財群- 3 真田氏の活躍と城郭文化財群

関連文化財群- 4 地域の核となる城下町群と街道筋の文化財群

関連文化財群- 5 蚕都上田の蚕業文化財群

関連文化財群- 6 近代の保養・観光開発の文化財群

第 6 章 歴史文化保存活用区域の設定...P84

地域自治エリアとの関連づけ。

第 7 章 保存活用計画策定に向けて...P104

1 基本的な考え方

2 保存活用計画に定める事項

第 8 章 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針...P105

1 文化財保護行政の体制と課題

2 地域内分権における文化財保護

第1章 上田市歴史文化基本構想策定の目的

1 策定の背景と目的

上田地域の歴史は古く、奈良時代には国分寺、国分尼寺が建立され、信濃国で最初の国府が置かれた地ではないかとも考えられている。鎌倉時代に入ると、幕府の信濃守護職、北条氏が市内の塩田平に居を構えて、三代 60 年に渡り鎌倉の仏教文化を花咲かせた。現在『信州の鎌倉』と称される塩田平には、安楽寺の木造八角三重塔（国宝）をはじめ、数多くの歴史的建造物、史跡が残されている。戦国時代の天正 11 年（1583）には、真田昌幸によって上田城が築かれ、城下町が形成された上田の地は、政治・文化の中心、物資の集散地としてその後長く栄えることとなった。真田一族らの活躍を描いた池波正太郎の『真田太平記』には、上田城のほか、別所温泉や安楽寺などが物語の舞台として登場している。明治から大正時代にかけては、全国有数の蚕種の生産地となり、全国の蚕糸業を支える「蚕都」として隆盛を極めた。

こうした上田地域の歴史研究の集大成として、合併前の旧 4 市町村（上田市・丸子町・真田町・武石村）は、それぞれに市町村誌を刊行している。また、上田市には現在、約 300 件の指定あるいは登録された文化財があり、ひとつひとつが上田地域の多様かつ豊かな歴史と文化を反映したものである。

現在の上田市は、平成 18 年に上田市、丸子町、真田町、武石村が新設合併した新上田市の誕生から約 10 年が経過し、東信地域の中核都市としての歴史をさらに発展させるための歩みを始めている。

菅平高原や美ヶ原高原などの雄大な自然、開湯時期が古代にさかのぼるといわれる別所温泉や鹿教湯温泉、交流文化施設サントミューゼや信州国際音楽村、塩田平の仏教文化財群、上田城を始めとする城郭群、蚕都の面影を伝える近代の産業遺産など、観光資源が数多く存在している上田市は、年間約 400 万人の観光客が訪れており、現在は観光をリーディング産業として位置付けている。このほか、晴天が多いという気象上のメリットを生かして、映画・テレビのロケ撮影を官民一体となって支援するフィルムコミッション活動に積極的に取り組み、劇場公開された著名な作品も多い。

こうした地域の個性を生かした産業振興やまちづくりにおいて、上田市に存在する多くの文化財は「強み」として認識されるものであり、積極的に文化財を活用できる機会を増やし、情報を発信することの必要性が高まっている。

一方、都市の発展・人口減少・生活スタイルの変化など、昨今の社会情勢の急速な変化は、文化財を守り伝えるための技術や担い手の減少にも影響を与えるものであり、文化財保護のより充実した対応が必要と考えられるが、これまでどおり上田市内の文化財の管理を、旧自治体ごとに把握するだけでは限界がある。

各種施策と連携して、一貫性を持った文化財保護施策を推進するには、市域全体の

文化財の保存・活用を取り巻く課題を確認したうえで、総合的な文化財保護施策を定める必要がある。このため、上田市における文化財保護のマスタープランとしての役割をもつ「上田市歴史文化基本構想」を定めるものとする。

「上田市歴史文化基本構想」は、文化財保護のマスタープランとして以下の点に留意して定めることとする。

(策定の方針)

文化財保護施策を一貫性を持って進めるための構想とする。

未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図るための構想とする。

文化財とそれをとりまく環境の一体的な保護を図るための構想とする。

個々の文化財の価値や性質を十分踏まえた構想とする。

文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有するための構想とする。

2 行政上の位置づけ

「上田市歴史文化基本構想」は、上田市において「第二次上田市総合計画」と「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」を上位計画として定めるものである。

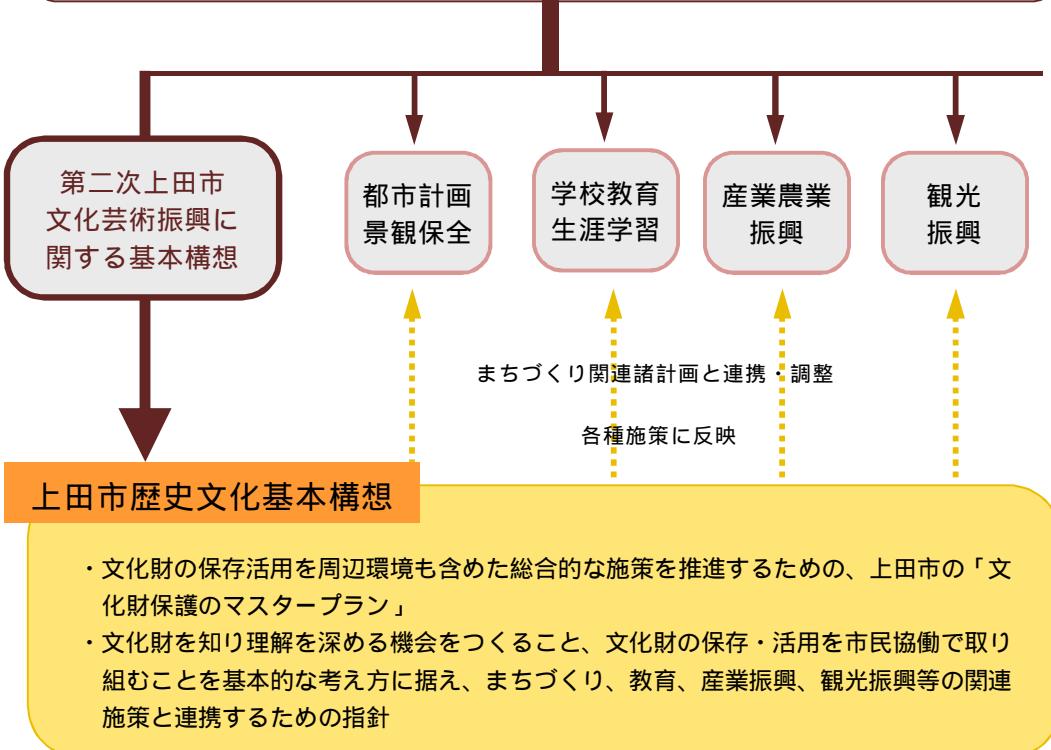
平成13年(2001)に公布された「文化芸術振興基本法」では、文化芸術の振興にあたって、多様な文化芸術の保護及び発展や、各地域の歴史、風土等を反映した特色ある文化芸術の発展を図ることなどが基本理念として掲げられ、文化財の保存・活用に関する基本的施策として、国が有形及び無形の文化財及びその保存技術(以下「文化財等」)の保存・活用を図るため、文化財等に関し、修復、防災対策、公開等への支援等の施策を講ずることとしている。したがって、歴史文化基本構想は、文化芸術振興基本法で提唱されたこれらの基本理念、基本的施策等を背景として、地域の様々な文化財等とその周辺環境を、各地域の歴史や風土の特徴を活かしながら総合的に保存・活用していくために策定するものと位置付けられる。

本構想で定めた事項の実現に向けては、文化財保護行政のみならず、観光やまちづくり、産業振興・農業振興など関連分野における施策との横断的な取組が不可欠であり、既存の関連計画である「上田市都市計画マスタープラン」や「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「上田市中心市街地活性化基本計画」等、あるいは今後認定にむけて取り組む「歴史的風致維持向上計画」とも密接に連携を図っていくものとする。

第二次上田市総合計画(計画期間:平成28年度～37年度)

将来都市像:「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市」
住んでよし 訪れてよし
子どもすくすく幸せ実感 うえだ

基本理念:市民力、地域力、行政力、それぞれが役割を果たし、
協働のもと、まちの魅力と総合力を高めます。



第二次上田市総合計画

上田市は市政運営の基本的指針となる第二次上田市総合計画（計画期間：平成 28 年度～37 年度）において、10 年後の目指すべき将来都市像として「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市」を掲げている。市民一人ひとりがライフスタイルにあつた幸福を感じ、健康に暮らし、将来にわたって活力と笑顔あふれるまちを実現するため、推進する 6 つの施策の方向性と基本目標（施策大綱）を定めており、このうち、文化財に関連する施策は、「文化を育み、交流と連携で風格漂う魅力あるまちづくり」のなかに含まれる。



▶ 施策の方向性・展開

基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します

①地域の歴史と文化を知る機会の創出

- 市誌編さん時の史資料の公開とともに、博物館、公民館、図書館などの学ぶ機会の提供を通して、市民の学習・研究活動を促進します。
 - 学校教育において、地域の歴史・文化・自然、優れた業績を残した先人などを教材とする学習を充実します。
 - 市民が伝統行事などに参加しやすい環境づくりを進めます。

②市民協働による文化財の保存

- 地域の歴史的・文化的遺産などに関する基礎資料の収集、調査、記録保存を行い、文化財指定などを通じて適切に保全管理します。
 - 文化財所有者が行う修理をはじめ、市民や企業などが自主的に行う文化財保護活動を支援します。
 - 伝統芸能の保存団体や指導者、後継者を支援し、団体間の交流促進も含め、地域に根ざした継承活動を促進します。

基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます

①市民協働による歴史的・文化的遺産の活用

- 文化財を市民の学習活動や文化活動の場として積極的に活用できるよう整備します。
 - 地域の特色ある文化遺産を、まちづくりや観光の資源として活用されるようにします。

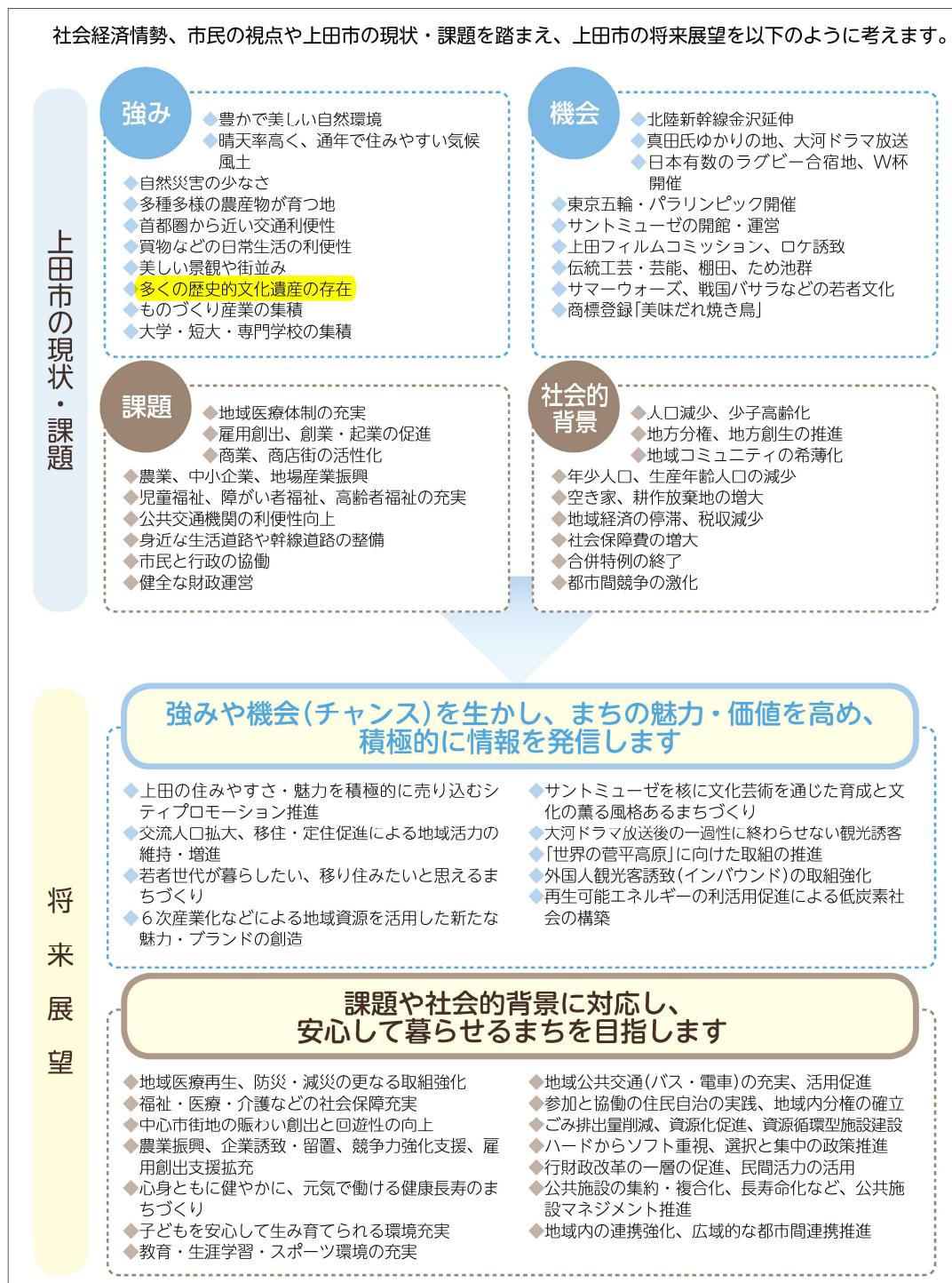
②文化遺産の継承と活用に関する基本構想の策定

- 総合計画に基づく個別計画として「上田市文化芸術振興に関する基本構想」を策定します。
 - 文化財保護に関するマスター・プランとして「歴史文化基本構想」を策定し、周辺環境も含めて総合的に保存活用する施策を進めます。

文化財保護行政の施策項目である「文化遺産の継承と活用」においては、地域の歴史・文化を知る機会を創出し、歴史的・文化的遺産の活用と継承に向けた取組を推進することを掲げている。そのための基本施策を設定した中に、「歴史文化基本構想を策定して文化財の保存活用を周辺環境も含めた総合的な施策を推進する。」ことを定めている。

〔参考〕

上田市の現状・課題において、「多くの歴史的文化遺産の存在」は上田市における強みとして認識されている。

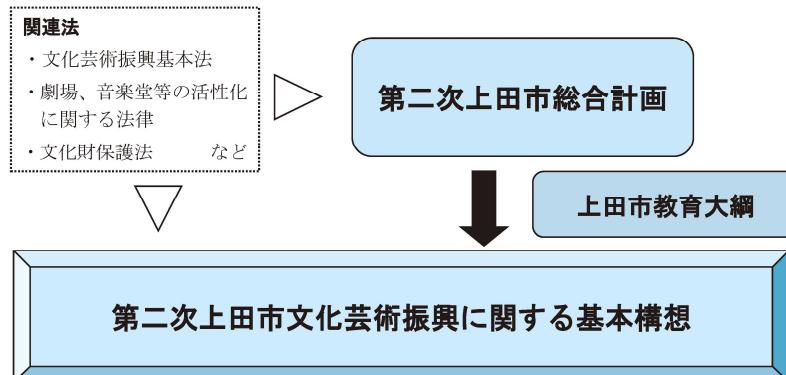


第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想（上田市教育委員会文化振興課）

この基本構想は、市政運営の基本となる第二次上田市総合計画を踏まえ、上田市の文化芸術分野における中長期的な視点に立った基本施策や方向性を定めるものであり、文化芸術振興基本法第4条の規定に沿うものである。

【文化芸術振興基本法（平成13年12月施行）第4条】

「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術の振興に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」



この基本構想においては、文化芸術の継承と創造のための基本的施策を、「1. 文化遺産の継承と活用」、「2. 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造」という、2つの項目に整理している。このうち、「1. 文化遺産の継承と活用」の項目において定めた各種施策は、地域の歴史的・文化的遺産を後世に残すため、まずは文化財を知り理解を深める機会をつくること、多くの文化財は民間が所有しているという現状を踏まえ文化財の保存・活用を市民協働で取り組むことを基本的な考え方としている。これらは、すべて歴史文化基本構想において検討する必要がある施策である。

1. 文化遺産の継承と活用	
基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します	基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます
地域の歴史と文化を知る機会の創出	市民協働による歴史的・文化的遺産の活用
《基本的な施策》 史資料の積極的な公開 社会教育機関における史資料を活用した学習機会の提供 学校における郷土の歴史や文化を知る学習 伝統的な芸能に触れる機会の創出 先人・偉人の顕彰	《基本的な施策》 歴史的・文化的遺産の情報発信 文化遺産の文化活動での利用 文化遺産の観光資源としての活用 地域の特色のある文化遺産を連携させた、まちづくりへの活用
市民協働による文化財の保存	
《基本的な施策》 デ・タの収集・集積と情報の整理 文化遺産の保護と保全 地域に残る伝統芸能の継承と活動の促進 仮称「公文書館」の設置 各分野における後継者の育成	

第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状

1 上田市の概要

(1) 上田市の自然環境

気象

上田市は内陸性の気候で、夏には気温の日較差が大きく、日中の気温に比べると夜間は比較的過ごしやすいのが特徴である。年間平均気温は11.8℃で、年間平均降水量は900mmと全国的にみて少雨地帯である。日照時間は年2,000時間以上あり、快晴の日は年間約80日に達する。菅平高原は冬期の気温が-20℃を下回ることもあり、全国でも有数の厳寒地帯となっている。風は年間を通じて東や西からの風が多いことが特徴で、これは、南や北に山々が連なっている地形の影響を受け、風が千曲川に沿って東西に吹き抜けるためと考えられる。上田市域は標高差が2,000m弱をはかり、山々や平坦地の地形の変化も著しい。したがって、地域ごとの変化が大きいのも特徴である。こうした地域ごと、季節ごとの特徴を端的にあらわすことわざとして、春には、「八十入夜の別れ霜」や「九十九夜の泣き霜」と遅霜の被害を警告する。また、夏の別所温泉を襲う夕立については、「別所の夕立と隣のボタ餅はきっとくる」とか、浅間山方面の入道雲に対しては「浅間かみなり音ばかり」ということわざや「黄金沢・太郎山から夕立がくると大雨大風になる」「美ヶ原からの夕立は最も強い」「別所と小牧の夕立きっと来る」などがある。冬の降雪についても、「浅間山や烏帽子岳に3回雪が降ると里にも降る」という。さらに地域ごとにも。「太郎山に逆さ霧かかると雨」、「太郎山に逆さ霧かかると寒くなつて霜がおりる」など数多くの言い伝えやことわざがある。

地形と地質

北に太郎山(1,164m)、北東に四阿山(2,354m)、東に烏帽子岳(2,066m)、南に美ヶ原高原(最高峰は王ヶ頭の2,034m)、西に夫神岳(1,219m)など1,100~2,300m級の山々に囲まれた上田盆地には、中央を千曲川が北西行し、東に神川、西に産川、浦野川などが流れ、河岸段丘が発達している。このほか、断層活動による段丘状の崖地形も見られるほか、盆地を囲む山々の谷口や崖地形が発達しているところでは扇状地が広がっている。

上田盆地の南側には塩田平と呼ばれる平坦な地形が広がり、川筋などに湖成層が露出しているところがある。盆地内の地層や地形は、第四紀に湖や川、火山、断層、火碎流、火山泥流などによって形成されたものである。

植生

植物区系では、上田市周辺は太平洋区系区と日本海区系区の境目にあたり、また、フォッサマグナ亜区系区と中部山岳区系区にも重なっており、多様な植物分布が見られるのが植生の特徴である。市内の平地は標高500m前後に位置し、垂直分布では丘陵帯から低山帯へと移る付近に相当する。山地にはアカマツが多く、里山ではコナラ

やクヌギ林を多く見ることができる。通称染屋台といわれる大段丘沿いにはケヤキ林が帯状に続き「グリーンベルト」と呼ばれる特徴的な景観となっている。

(2) 上田市の歴史環境

旧石器時代～縄文時代

上田盆地周辺で石器が出土する地層で最も古いものは、約2万年前の旧石器時代のものである。遺跡は菅平高原（学校敷地遺跡・唐沢B遺跡ほか）や、隣町の長和町の和田峠周辺などの高地に多く分布しているが、塩田平（堰口ノ一遺跡ほか）や傍陽（新地蔵峠遺跡ほか）本原扇状地（境田遺跡）などでもこの時代の石器が発見されている。

土器を使い始めた縄文時代草創期（15,000～12,000年前）の遺跡は、菅平高原（小島沖遺跡ほか）などに知られるが、石器が出土したのみで、竪穴建物跡や土器の発見には至っていない。続く早期（12,000～7,000年前）の遺物は、菅平高原（大松山遺跡ほか）や殿城（大日ノ木遺跡）上田原から別所（上田原遺跡群ほか）等、高原だけでなく標高の低い台地からも発見されている。前期（7,000～5,500年前）もほぼ同様ではあるが、真田地域の四日市遺跡では集落跡が発見されている。

長野県を含む中部高地は縄文時代中期になると人口が増え、見事な模様の縄文土器や土偶が出現するなど、縄文文化の栄華を極めていた。市内でも前期末から中期（5,500～4,500年前）に集落が増え、神川流域（四日市遺跡・八千原遺跡・浦沖遺跡）や黄金沢扇状地（八幡裏遺跡群）武石川から依田川流域（岩ノ口遺跡・中丸子遺跡ほか）で大きな集落遺跡が発見されている。後期（4,500～3,300年前）の遺跡には、八千原遺跡、八幡裏遺跡群、丸子地域の深町遺跡、真田地域の雁石遺跡があるが、この頃になると集落の数が減り、人口も減ったことが推定されている。続く晩期（3,300～2,800年前）は浦野川流域の下前沖遺跡、上田原遺跡群、大日ノ木遺跡、雁石遺跡、四日市遺跡等で遺構や遺物が見つかっているが、隆盛を極めた縄文文化の面影は既になくなりつつあったようである。

弥生時代

千曲川流域に稻作が伝えられた時期は明確ではないが、弥生時代中期になると善光寺平や佐久平で大規模な集落が営まれるようになり、上田盆地では後期後半になってようやく集落が出現したようである。集落は河岸段丘上や自然堤防など、冠水しにくく、稻作に適した低湿地の近くに場所が選ばれている。この後期後半には、急速に大勢の人々が開墾をはじめ、いくつもの集落が営まれるようになったと考えられる。

浦野川流域（琵琶塚遺跡ほか）や産川流域（浦田遺跡ほか）が最も利用されており、千曲川右岸でも下町田遺跡（信州大学繊維学部遺跡）や秋和の宮原遺跡等に、大規模な集落遺跡が分布している。また、室賀川の段丘上にある岳の鼻遺跡から出土した遺物・遺構からは、複数の集団による稻作や機織りなどが行われていた生活の風景が想像され、弥生後期の大規模な拠点集落とみられている。

このほか太郎山中腹には、弥生終末期から古墳時代初頭の上平遺跡がある。時代

の転換期の短い間に出現した高地性集落で、外部からの侵入者に対する緊張関係をうかがわせる。

古墳時代

市内の古墳で最も古いものは、4世紀後半に築造された秋和大蔵京古墳（方墳）である。上田地方の古墳の形は5世紀後半まで方墳のままで、前方後円墳への変化が大きく遅れている。これは上田地方が中央政権の影響下に置かれるのが他地域に比べて遅かったためと考えられている。東信地方で唯一の前方後円墳である二子塚古墳は黄金沢川扇状地の扇央部に位置しており、6世紀前半から中墳の築造と考えられている。ほかにも、帆立貝式の王子塚古墳、円墳の吉田原古墳、神川流域の新屋古墳群、他田塚古墳や塚穴原一号墳をはじめとする下之郷古墳群などが知られている。

長野県の古墳からは馬具の出土が多い。上田市域の古墳においても、飾り馬の埴輪の破片、馬具、馬の頭部の骨が出土しており、馬が飼育されていたことが推測される。また、5世紀中ごろの鳥羽山洞窟遺跡は、古墳以外の葬送儀礼を知ることができる点、貴重である。

前期の集落には小規模なものが多く見られるが、後期になると大規模な集落が出現する。その代表的な例が国分寺周辺遺跡群で、居館の濠とみられる方形の溝が発見されている。また、丸子地域の社軍神遺跡からは玉作り工房跡が検出され、玉造の専門技術者の存在も想定される。

律令期

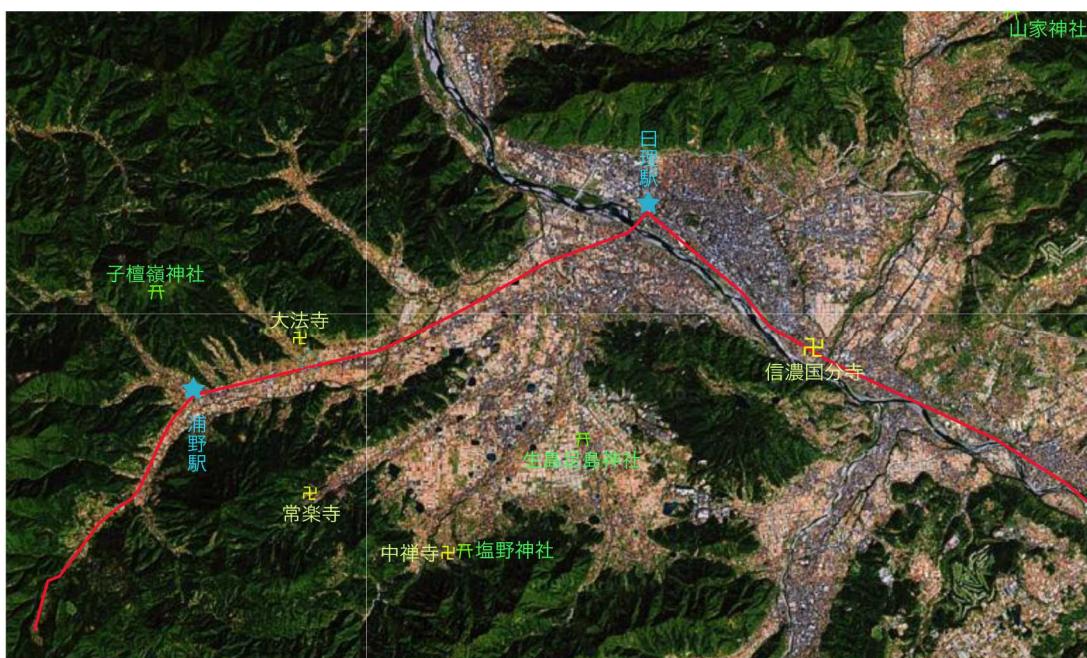
奈良時代になると、大宝律令のもとで信濃国にも国府が設置され、中央から国司が派遣された。国府の遺構は明らかではないが、「和名類聚抄」には筑摩郡（松本市）にあったと記されている。信濃国分寺跡は上田市に所在したことが明らかであり、国府と国分寺は近接して設置されるのが一般的であることから、国府は上田から9世紀頃に筑摩郡に移ったと考えられている。上田における国府の所在地は、関連地名や条里的遺構の痕跡が残る染屋台や、信州大学纖維学部周辺が有力とされている。

畿内と東山道諸国の国府を結ぶ道としての東山道の経路については諸説あって、初期の東山道は伊那郡から直線的に佐久方面へと抜けていたようであるが、官道として整備された後は筑摩郡を経由するようになり、この時点で上田地方を通過するようになった。道路遺構そのものは確認されていないため、詳細な位置は不明ながら、信濃国分寺跡に近い千曲川沿いを東に向かって上野国へ抜けていたことは確かで、当時の上田盆地は信濃国の政治・経済の拠点であったと考えられる。

信濃の政治の中心となった小県郡には、童女、山家、須波、跡部、安宗、福田、海部の7つの郷が置かれ、このうち海部郷を除く6郷が上田市域と重なる。塩田地域には信濃国の古社・生島足島神社が祀られ、その付近一帯には「あそ（阿曾・安曾）」という地名や、「他田塚」と言われる古墳なども残されている。これはいずれも信濃の造に関係があると考えられており、塩田地方にいた国造（地方豪族）は、次第に中央政

府の支配下に入り、代わって中央から各國に派遣された役人（国司）が治めるようになる。

古代の牧としては、塩原牧が青木村の小檀嶺岳（駒の守護神の意）の山麓一帯に残されている馬越（上田市浦野）や牧寄など牧に関する地名の分布や、馬背神社（上田市浦野）の存在などを考え合わせると、古代の勅旨牧の一つの塩原牧があったと考えられる。牧の管理には、高度な技能を持つ人たちが必要で、渡来人か、その系を持つ人たちが携わっていたことも考えられる。

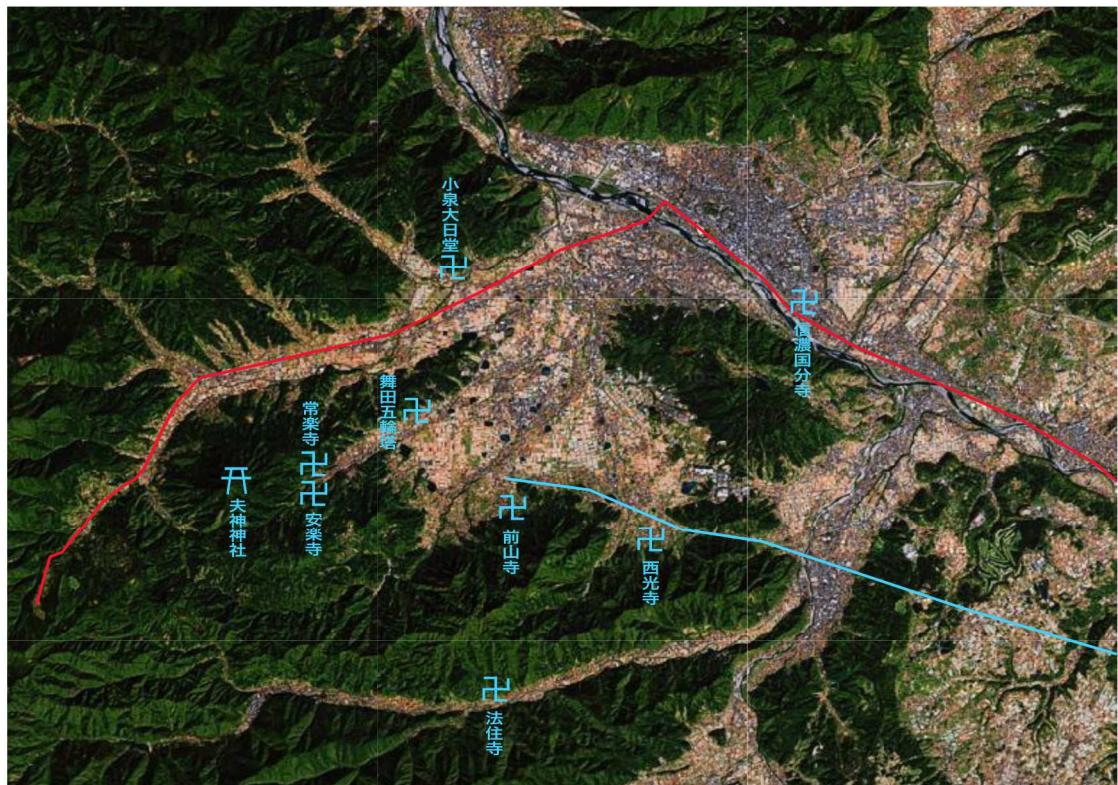


古代の上田（東山道と文化財）

中世

律令制度が崩壊に向かう平安時代末、上田小県地方でも開発領主の寄進により貴族や寺社が経営する荘園が数多く成立した。「吾妻鏡」には、当地方には八条院領常田庄や最勝光院領塩田庄など6つの荘園と3か所の牧の名が見られる。この時代には地元に所領を持つ地方武士達が勢力の増大を目指して都に向かったが、治承4年（1180）に木曾義仲が依田庄の依田館（丸子地域）を根拠地にして兵力を集めた。木曾義仲は上洛していったんは政権の中枢に座ったが、その後敗北して源氏の世となると、武士達は鎌倉御家人を指向するようになった。このような武士としては、海野氏、祢津氏、泉氏、浦野氏などが挙げられる。一方、それまで有力者だった塩田氏などは義仲にくみしたために所領を失う結果になったとみられている。

鎌倉時代の塩田平では幕府の重臣である島津氏、その後は北条氏が地頭職をつとめ、北条義政がここに移り住んでからは塩田北条氏が三代60年間にわたって多数の寺社を建立し、仏教・学問を志す者が遠方から集まる場となった。今日でも塩田平には安楽寺八角三重塔をはじめとして、中世の数多くの歴史的建造物、史跡が残されている。



中世の上田（鎌倉道と文化財）

鎌倉幕府が滅亡して信濃から北条氏の勢力が消滅すると、在地の領主による争乱の時代に入る。荘園の消滅と並行して新たな守護と国人領主の対立が激化するなか、坂城町にある葛尾城を本拠とする国人領主村上氏が支配を広げた。その後、甲斐の武田信玄が信濃に進出し、天文 17 年(1548)の上田原合戦と、天文 19 年の砥石攻め等の激戦を経て、遂に天文 20 年(1551)に攻略された。

真田家はこの頃に武田氏に仕えるようになり、次第に頭角を現していったが、武田滅亡後の戦乱の世を、主家を次々と変えることで巧みに切り抜けたことでも知られている。真田昌幸は天正 11 年(1583)には上田城の築城を開始し、間もなく小県郡一円を支配下に収めた。また、現在の市街地の骨格をなす城下町づくりも行った。

真田は上杉に臣属したために徳川から攻められ(天正 13 年(1585)第一次上田合戦)、関ヶ原合戦でも昌幸・信繁父子が西軍に加わったために上田城は徳川勢の攻撃(慶長 5 年(1600)第二次上田合戦)にさらされたが、よくそれをしのいだ。東軍勝利の後は、真田信之が沼田・小県を合わせた 9 万 5 千石を領して上田城主となり、領域支配を確固たるものとした。



戦国期の上田（軍事道路と城郭）

近世

徳川幕府の時代には、城主が真田氏から仙石氏、松平氏と代わる中、城下町は物資の集散地として栄えた。現在の上田城は仙石忠政が復興したもので、城下町の整備も寛永頃までにはおおむね完成した。上田は城下町であると同時に北国街道の宿駅を兼ねており、流通の拠点となった。また、松本に向かう保福寺道には浦野宿が設けられたり、上州に向かう上州道、別所に向かう別所道、北国街道の北に平行して小諸に向かう祢津道、上州街道から分かれて善光寺平に出る大坂道、諏訪へ向かう大門街道など、交通の要衝として栄え、様々な産業が育った。

近世にはいると、上田藩でも麻布は次第に生産が減少し、変わって木綿布が急速に生産を伸ばした。一方、絹や紬は徐々に生産量を増やし、藩からのまとまった需要にも応えるようになっていく。17世紀中ごろには、上田地方の村々では、絹・紬の生産の材料となる、養蚕と桑の栽培が広く普及していたと考えられる。上田地方で生産された繭は、上田縞などに利用され、その外は上州方面の商人に売り渡されていた。上田の名産である上田縞は、17世紀中頃には、広く町人の間で常用されており、全国に送り出された。

また、上塙尻村の蚕種商人塙田与右衛門が宝暦7年（1757）にまとめた『新撰養蚕秘書』を出版する。このことは、18世紀中頃になると、上田地方の蚕種屋が自分なりの養蚕が優れている点を吹聴しつつ、次第に販路を広げていた状況を示している。

なお、現在の上田市域のほとんどは上田藩領であったが、丸子地域の一部は岩村田藩や小諸藩の藩領であった。



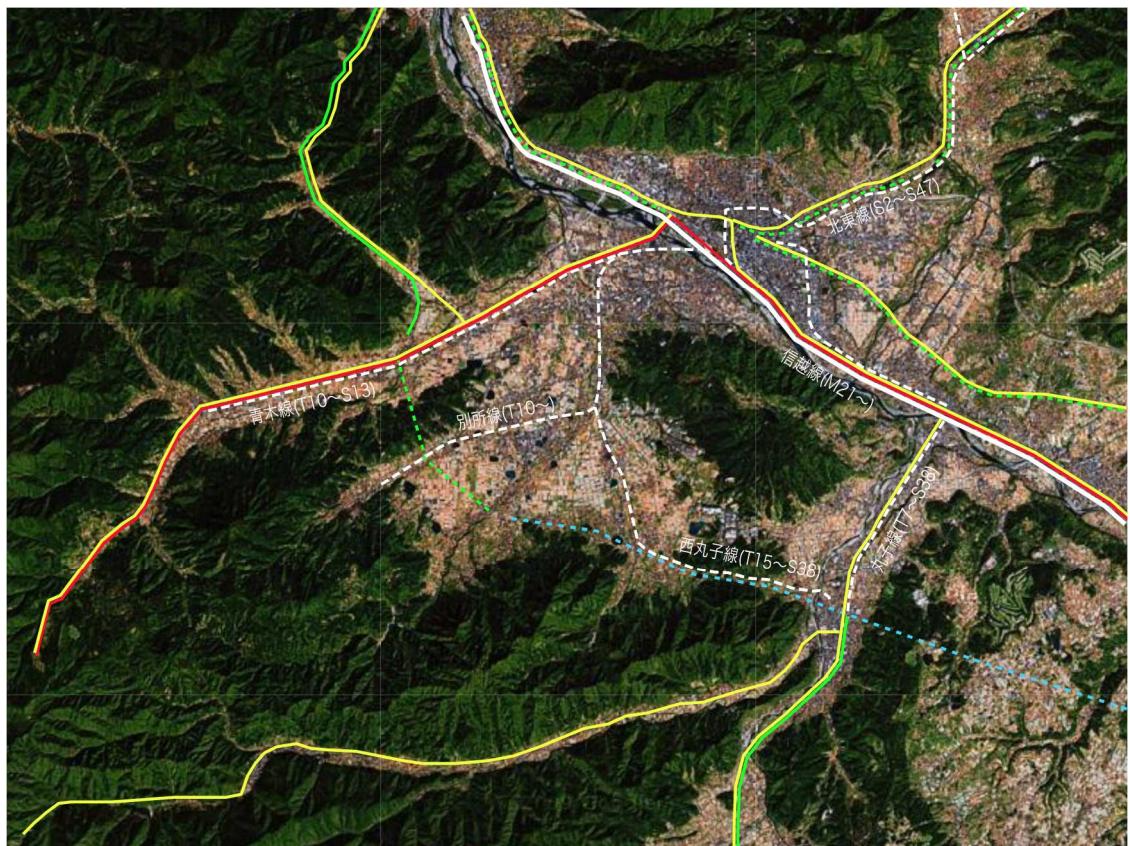
近世の上田（北国街道・往還と文化財）

近代

日本の近代化にあたり、政府は生糸製糸業の振興に力を注ぎ、明治 5 年(1872)官営富岡製糸場を設置し、製糸の機械化と大量生産をはかる。当時、長野県は全国でも有数の養蚕地域であり、上田地域は特に蚕種製造においてすでにヨーロッパを凌駕する技術を有し、この蚕種が蚕業の隆盛を支え製糸業の発展の礎となっていた。

上田地域の近代蚕業の発達に、決定的な役割を果たしたのが信越線の開通である。明治 26 年(1893)、信越線は上野 - 直江津間が全線開通し、輸出港である横浜まで直結する輸送路が確立し、世界的な商圈の拡大につながった。

明治 40 年(1907)、帝国議会は国富を支える蚕業をさらに発展させるため、蚕糸専門学校の設立案を可決した。可決と同時に長野県への設置が内定し、県内の設置場所を巡っては、上田町とともに小県郡や上田商工会議所も加わった熱心な誘致運動により、明治 41 年(1908)上田への設置が決定し、明治 44 年(1911)開校となる。こうした産学官あげての蚕業振興策が上田を「蚕都」と呼ばれるほどの地位にのし上げたのである。



近代の上田（鉄道網）

こうした都市の発展とともに、上田地域では大正時代に、民衆の自己教育を基礎に、労働と結びついた生涯にわたる民衆の学習機関を創造しようとした「自由大学運動」が盛んとなり、「上田自由大学」が設立された。内容は、哲学、文学論、倫理学、心理学などの人文社会科学系の講義とし、長期間、働きながら学習できる機関として運営された。上田自由大学は、高等教育の機会に恵まれなかつた青年たちが、自らの手で、学習の場を創造していった運動であり、知的欲求の向上と自己成長のための学習運動として展開され、上田の生涯学習の先駆的活動といえる。この運動の中から「児童自由画運動」、「農民美術運動」も誕生し、「己の住む地域を自らの手で良くしたい」という明確な理念をもつっていた。

第二次世界大戦の戦況が悪化すると、疎開工場が上田にも出来、陸軍上田飛行場に供給する飛行機製造の地下工場が仁古田や東塩田の山中に造営された。この当時のいわゆる『戦跡』も市内には数多く残っている。

戦後は、別所温泉や鹿教湯温泉郷などの温泉資源と、菅平高原や美ヶ原高原などの観光開発がすすみ、戦前からの地域ローカル鉄道の拡充・延伸も企図される。

2 上田市の歴史と文化の特徴

(1) 時代別特徴

旧石器時代～縄文時代

山岳部や菅平高地地帯に、旧石器時代のナイフ形石器を中心とした後期の石器〔市指定〕や、鳥帽子山麓に縄文中後期の敷石住居群が数多く見られたり、真田の雁石遺跡では、魚形土製品〔市指定〕が出土している。

弥生時代

上田盆地では後期後半になってようやく集落が出現したようである。集落は河岸段丘上や自然堤防など、冠水しにくく、稻作に適した低湿地の近くに場所が選ばれている。上田市域は、千曲川水系の「箱清水式土器文化圏」に属し、断続的に営まれてきた集落が、短期間のうちに爆発的に出現し、増加したとみられる。川西地域では琵琶塚遺跡や岳之鼻遺跡、城南地域では浦田遺跡、中央では下町田遺跡などが拠点的集落として想定されている。

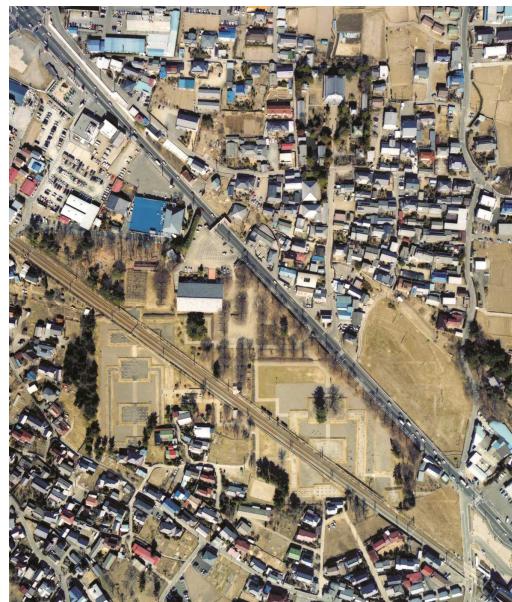
古墳時代

上田市域における古墳の築造は遅く、中期以降にはじまる。市内の古墳で最も古いものは、4世紀後半に築造された方墳の秋和大藏京古墳〔市〕がある。また、東信地方で唯一の前方後円墳である二子塚古墳〔市〕、帆立貝式の王子塚古墳〔市〕、円墳の吉田原古墳〔市〕、神川流域の新屋古墳群〔市〕、他田塚古墳〔市〕や塚穴原一号墳〔市〕をはじめとする下之郷古墳群などが知られ、市の史跡に指定されている。

上田市域の大型単独古墳はまず方墳という形で出現したことになり、前方後円墳より数段ランクが下がる墳形の古墳が当地域の支配者の墳墓であった。すなわち、同じ千曲川水系にある、森将軍塚古墳（千曲市）などを築いた更埴地方のように大きな政治的権力は育っていなかったことを物語っている。大和政権の機構の一部として、部民を率いたり管理して従属していった。国造には、金刺氏や他田氏のような旧来からの在地首長が任命され、その下の県主には小地域の首長が任命された。また、社軍事遺跡で製作された装飾品が、奈良の纏向遺跡から出土しており、初期ヤマト政権との繋がりも想定されている。さらに、丸子地区腰越の鳥羽山洞窟は、5世紀中頃の古墳以外の葬所として注目され、遺跡は国、遺物は県の指定となっている。

律令期

中央集権国家の地方統治のツールとして、七道が設けられた。東山道は、畿内から東北地方を繋ぐ道として上田の地を通り、中央の文化を伝えた。信濃国分寺の建立以後、上田に仏教を中心とした文化が栄え、信濃国分寺のある豊殿地域の法楽寺遺跡からは銅三尊仏〔市〕が出土しているほか、四阿山を白山に見立てた白山信仰も流入し、真田地域実相院の木造十一面觀音立像〔県〕



信濃国分寺跡とその周辺

や同地域の銅製十一面觀音像御正体〔市〕などにその痕跡が見える。また、生島足島神社・塩野神社・山家神社の延喜式内社の存在もまた、朝廷との繋がりを示すものである。

遺跡関係では、豪族の居館跡と思われる遺構が国分寺周辺遺跡群に検出されているほか、前述の法楽寺遺跡からは、豪族の銅印〔市〕も出土しており、地域豪族の繁栄が知られる。

中世

古代末から中世にかけて、塩田地域は後白河法皇や平家の影響下にある最勝光院領となり、その中に中禪寺が置かれた。同寺には、薬師堂〔国〕とともに薬師如来坐像〔国〕、金剛力士立像〔県〕が伝わり、いずれも古代の様式を伝える仏像群となっている。

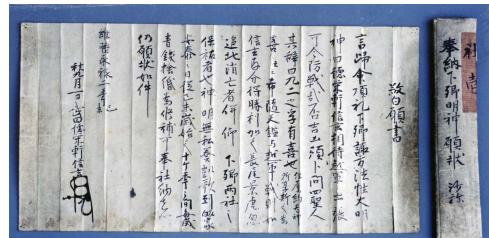
鎌倉幕府と地方を結ぶ鎌倉道も整備され、塩田平に、北条義政がここに移り住んで、塩田北条氏が三代60年間にわたって仏教文化を花開かせた。今日でも安樂寺八角三重塔〔国〕、同寺の木造惟仙和尚坐像〔国〕・木造惠仁和尚坐像〔国〕をはじめとする数多くの仏教文化財が残されている。

鎌倉幕府が滅亡して信濃から北条氏の勢力が消滅してもなお、上田地域には仏教文化が栄え、信濃国分寺三重塔〔国〕や前山寺三重塔〔国〕、法住寺虚空藏堂〔国〕をはじめとした建造物や、塩田地域舞田の石造五輪塔〔県〕をはじめとして、常楽寺石造多宝塔〔国〕などの石造文化財、善光寺式の銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像も中央地域の願行寺に伝わる。さらに武石地域妙見寺には、鳴龍もあるなど、質・量ともに豊富である。

塩田地域を代表する岳の幟祭礼行事〔国選択〕や、信濃国分寺の蘇民将来符頒布習俗〔国選択〕も中世室町期に興った行事と伝える。

当方も地方領主による争乱の時代に入ると、主要道を見下ろす峰々に山城や見張りが築かれた。在地の村上氏らの山城を巡って武田・上杉・真田らが争奪戦を繰り広げ、その遺構は塩田城跡〔県〕、砥石城跡〔県〕などに残り、ひとつの到達点として真田氏館跡〔県〕に居を構えていた真田氏が上田城跡〔国〕に堅牢な城を構えたのである。

武田氏の東北信進出の過程で、各地の武将から出された血判の起請文を中心とする紙本墨書き生島足島神社文書〔国〕や、寺院への寄進・安堵の朱印状などは当時の戦の有様を伝えている。



紙本墨書き生島足島神社文書

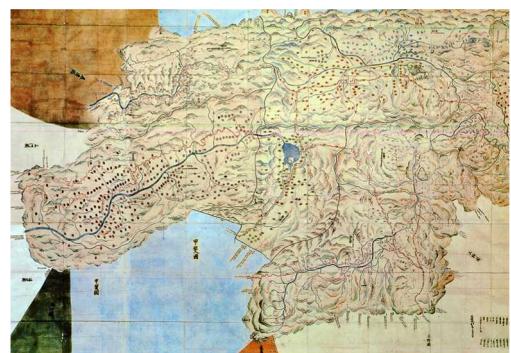
近世

上田城築城の際に舞われ、真田地域上原の三頭獅子〔市〕に発するといわれる常田獅子〔市〕や房山獅子〔市〕は、現在も上田市の大好きな行事では、地固めや竣工の祝いなどで舞われている。こうした三頭獅子は、東日本に特徴的な芸能で、祇園祭などを中心に、市内にはほかに六箇所で伝えられ、いずれも市指定となっている。



常田獅子

上田には、中山道脇往還の北国街道が敷かれ、城下からは松本や上州に向かって街道が整備された。政治関係では、正保4(1647)年の正保信濃国絵図〔県〕をはじめ、元禄14(1701)年の元禄信濃国絵図〔市〕、天保9(1838)年の天保信濃国絵図〔市〕、藩政の中心施設である上田藩主居館表門及び土塀・濠・土壘〔市〕、地域を監理した大庄屋の遺構旧倉沢家住宅主屋及び客座敷〔県〕、そして当時の村々の要覧である上田藩村明細帳〔市〕、真田の領地支配の様子が知られる真田氏給人知行地検地帳〔市〕、貫高制を示す蔵前の大樹〔市〕など、豊富な資料がある。



正保信濃国絵図

さらに、町人らの動向を知る海野町柳沢家日記(本陣日記)〔市〕や原町滝沢家日記(問屋日記)〔市〕、宗教活動を示す信濃国分寺勧進帳〔市〕や幾多の指定建造物など、上田城下町や村々の様子が豊かに伝わっている。



蔵前の大樹

近代

明治21(1888)年開通した信越本線と上田駅開業は、城下町の様相を一気に近代化させる。上田駅近くに開業した常田館は、諏訪の製糸場笠原組を誘致したもので、その遺構は旧常田館製糸場施設〔国〕として残る。また、丸子地域依田川水系の良好な水質を利用した製糸場依水館客殿及び玄関〔市・登〕、カネタの煙突〔市〕なども特徴的である。上田の蚕業、特に蚕種製造は幕末以来の高品質により世界を席巻し、その品質を保つために建てられた上田蚕種協業組合事務棟〔登〕、蚕業教育の信州大学繊維学部の旧千曲会館〔市〕と3つの登録文化財など、上田の産学官連携の歴史はここに始まる。文明開化の象徴ともいえる電気も明治34(1901)年操業の畠山発電所跡〔市〕や、キリスト教の旧宣教師館〔市〕、旧常田幼稚園舎〔登〕など、いわゆる蚕都上田の繁栄の遺構は未指定も含めて枚挙にいとまがない。



旧宣教師館

蚕糸業で栄えた農民の中から、あらたな思想や学問を

学ぶ気風が芽生える。神川村の青年、金井正と山越脩蔵は、哲学者西田幾多郎の存在や社会主義を学び、軍拡反対と普通選挙実施を訴えていた。そうしたなか、ヨーロッパ留学から戻った山本鼎と知り合い、児童自由画教育と農民美術運動を興すとともに、猪坂直一とともに信濃自由大学も開講し、これらの運動は、全国的に広がっていく。

上田市年表（参照：上田市誌）

年代	記事	キーワード	文化財名称
1600万年前ころ	独鉱山塊弘法山一帯が海底にあって噴火したころ、斜長石2個の結晶「ちがい石」ができる	ちがい石	ちがい石の産地〔市〕
1400万年前ころ	鴻の巣一帯が海底だったころ、遠い所から運ばれてきた礫が堆積して鴻の巣(青木層)が形成される	鴻の巣	鴻の巣〔市〕
20000年前ころ	菅平高原や和田峠・大門峠周辺にナイフ形石器を中心とした後期旧石器文化が開けた	旧石器文化	石器〔市〕
13000年前ころ	菅平高原などに、神子柴型石器と呼ばれる大型石器文化がみられた	大型石器	
縄文時代	前期に上田原台地や塩田平に、纖維を混入した縄文前期の土器文化がみられる。 中期には、塩田平や豊殿地区に縄文中期の集落がみられ、豊富な土器や各種の石器使われていた。漆戸地区八千原遺跡、緑が丘の八幡裏遺跡などでは、竪穴住居の床面に平らな石を敷いた敷石住居や坑墓が造られるようになった。 後期になると、上田盆地も気温が冷涼化し、冷温帯落葉広葉樹林の分布が拡大し、晚期には浦野の下前沖遺跡ほか数か所が確認されるだけとなる	縄文前期	雁石遺跡魚形土製品〔市〕
弥生前期	遠賀川系土器や条痕文系土器が上田原遺跡や浦田遺跡に伝わり、縄文晚期の土器とともに使われる。	遠賀川系	
弥生中期	水稻農耕がひろがり、沖積地を中心に遺跡が急増する。栗林式土器文圏に属する 八幡裏遺跡・赤塚遺跡(上田市)・陣の岩岩陰遺跡・唐沢岩陰遺跡(真田町)	栗林式文化	菅平唐沢岩陰遺跡〔県〕

西暦	和暦	記事	キーワード	文化財名称
200	(弥生後期)	このころ、千曲川の河岸段丘上・自然堤防上や沖積平野縁辺部に規模の大きい集落が営まれた。それらは、櫛描文と赤色塗彩を特徴とする箱清水式土器文化圏に属する	箱清水文化	巴形銅器〔市〕
300	(古墳前期)	このころ、上田原遺跡に、円形や方形の周溝墓が営み、主体部に土器とともに鉄釧・ガラス小玉を副葬する。また、周溝墓周辺の施設に鉄矛を埋納する	周溝墓	鉄矛〔市〕
400	(古墳中期)	上田小県地方でも、首長墓である方墳の築造が始まる 遺跡数が増加し、国分寺周辺遺跡群では、豪族居館址と思われる遺構を発掘した 林之郷・琵琶塚・大道下遺跡・国分寺周辺遺跡群(上田市)、市の町遺跡・鳥羽山洞窟(丸子町)、風呂川古墳・和合將軍塚古墳(上田市)	大藏京古墳	秋和大藏京古墳〔市〕
		方墳に代わり、首長墓として帆立貝式古墳の王子塚古墳(前方後円墳の一種)を築く(上田市内最大の古墳)	王子塚古墳	王子塚古墳〔市〕
500	(古墳後期)	鉄製農具の発達と普及により開発が進み、遺跡数が増えるとともに大規模集落が営まれ、古墳の築造が増える	鉄製農具	
500	(古墳後期)	古墳は、埋葬施設に追葬が可能な横穴式石室を採用する この時代の遺跡：林之郷・東之手西之手・下町田(信大織維学部敷地)・琵琶塚・大道下・和手・西光坊遺跡・社軍神・井下・宮原遺跡	横穴式石室	
500	(古墳後期)	定型化した唯一の前方後円の二子塚古墳を築く(上田市・大型首長墓の最後)	二子塚古墳	二子塚古墳(前方後円墳)〔市〕
500	(古墳後期)	このころ、直径20m前後の規模をもつ、地域の盟主的な円墳を築く	盟主的円墳	赤坂將軍塚古墳〔市〕 下青木吉田原古墳〔市〕 広山寺古墳〔市〕 神宮寺古墳〔市〕 塚穴原第1号古墳〔市〕 皇子塚古墳〔市〕 岩谷堂岩窟古墳〔市〕
西暦	和暦	記事	キーワード	文化財名称

西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
500	(古墳後期)	有力農民が、家族墓として古墳を築くようになり、直径 10m 前後の小規模円墳による群集墳を築くようになる(上田市内の多くの古墳はこの時期に属する)	群集墳	新屋古墳〔市〕 矢花の七つ塚〔市〕 舟窪古墳群〔市〕
500	(古墳後期)	氷沢古墳群・下郷古墳群・新屋古墳群・矢花古墳群・舟窪古墳群・下之郷古墳群・日向小泉古墳群(上田市)、下原古墳群(真田町)		辰ノ口高塚〔市〕 塚穴古墳〔市〕 タタラ塚古墳〔市〕 藤沢古墳 1号・2号〔市〕
702	大宝 2	初めて、美濃国岐蘇の山道を開く(当時木曾は美濃国に属していた)のとき、保福寺峠を越え新しく東山道が開削される。次第に浦野駅・日理駅も整えられる	岐蘇山道	
741	天平 13	聖武天皇、諸国に国分寺・国分尼寺建立の詔を発する	国分寺詔	
744	天平 16	信濃等各國別に正税 2 万束を割いて国分寺の造立費に充てさせる	国分寺	信濃国分寺跡〔国〕
763	天平宝字 7	天平勝宝一天平宝字(750~765) 年代正倉院藏紐心麻綱に「信濃小県郡海野郷の戸主爪工部君の調」と記されている	海野調布	
781	天応 1月 1 日	信濃国生嶋足嶋の神に、封子 1 戸が施入される(新抄格勅符抄)	生嶋足嶋	
938	天慶 5月 22 日	承平年間に『倭名類聚砂』が成立する 県郡内の郷名 7 郷童女・山家・須波・跡部・安宗・福田・海部(以上高山寺本は 7 郷、流布本は絵戸を加える) 平将門、関東から京に上る平貞盛を追ってきて国分寺辺で戦う。貞盛方の他田真樹、矢に当たり死す。貞盛山中に逃れ、将門関東に還る	郷名 将門の乱	
1174	承安 4	9/8、寄進状を差し出して、最勝光院領塩田庄が成立する	塩田庄	
1175	安元 7月 28 日	史料に前斎院序が初めて見え、同院領依田庄がこのころ成立する	依田庄	
1176	安元 2	常田庄が官符を帯さない荘園として八条院領「官省庄々目録」に載る	常田庄	
1180	治承 4	義仲、8 月、木曾で旗揚げをし、国府と麻績で平家方を破り、9 月、川中島の市原で笠原氏を破る 義仲、10 月、上野に仲間を誘い、12 月、信濃に戻り以後依田庄に館を構える	義仲挙兵 依田の館	
1181	養和 7月 14 日	6/13、義仲横田川原に城氏の大軍を迎へ戦う。手塚・塩田・浦野・依田・長瀬・丸子等の諸氏、義仲に従う。 義仲軍の横田川原への道は塩尻狭間(塩尻岩鼻)を通る	横田合戦 塩尻狭間	
1183	寿永 2	3 月、源頼朝が木曾義仲攻める。義仲嫡子清水攻める。冠者義高を人質に鎌倉に差し出し海野幸氏は伴の者として従う。頼朝と和し、4 月、信濃を進発し、北陸路を都へ向かう 5 月、俱梨伽羅峠で海野・依田・丸子氏ら将として平氏と戦う 義仲軍、7 月入京し、28 日、後白河法皇から都守護を命じられる	清水冠者 海野幸氏 義仲京上 俱梨伽羅峠 義仲入京	
1184	元暦 4月 16 日	源範頼・義経の軍に攻められ、正月 20、木曾義仲は近江栗津に敗死し、義仲軍は滅亡する	義仲敗死 義仲軍滅亡	
1186	文治 2	惟宗(島津)忠久、鎌倉灘から塩田庄の地頭に任じられる 吾妻鏡「乃貢未済之庄々注文」に日吉社領浦野庄・最勝光院領塩田庄・一条大納言家領小泉庄・八条院領常田庄・殿下渡領海野庄・前斎院領依田庄と 28 か所の御牧を記す	塩田庄地頭 小県荘園	
1190	建久 4月 11 日	10/3、頼朝京都へ赴き、11/7、入京する。祢津・海野・泉・村上ら隨兵として従う	御家人	
鎌倉	前期	前山中禅寺の地に薬師堂を建てて木造薬師如来坐像を納める	中禅寺	中禅寺薬師堂〔国〕 中禅寺石造五輪塔〔市〕

西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1221	承久 3	承久の乱が起きる。大塩・櫻井・泉・飯沼氏ら鎌倉方に属し、命を懸けて戦う	承久合戦	
1227	安貞 12月 10 日	諸国国分寺で最勝王経を転読し風雨水干の難の祈禳を後堀河天皇が命じ、5/5、幕府が信濃等関東分国に命じて行わせる	国分寺	信濃国分寺石造多宝塔〔市〕
1262	弘長 2	別所常楽寺の火坑出現の地に一切経一部を埋納し石造多宝塔を造立する	多宝塔	常楽寺石造多宝塔〔国〕
1273	文永 10	塩田庄地頭北条義政、鎌倉幕府連署に就任する	義政連署	
1277	建治 3	4月、連署北条義政が出家し、5月、善光寺へ参詣してそのまま塩田庄に籠居する 4月を過ぎて間もなく、樵谷惟倦自ら開山となって臨済宗安楽寺を開く	北条義政 安楽寺	安楽寺蘭渓道隆尺牘〔市〕
1278	弘安 2/29	山口の白山比咩神社社殿を上田太郎大江佐泰が再建した記録札が残る	白山棟札	
鎌倉	中期	小泉庄域の舞田の地に、石造五輪塔を造立する	舞田五輪塔	金王石造五輪塔〔県〕
1285	弘安 8	3月、奈良尾の地に弥勒仏塔(石造七重多層塔)を建立する	弥勒仏	奈良尾石造多重塔(弥勒仏塔)〔市〕
1292	正応 5	某僧、別所常楽寺において「十不二門文心解」を書写する	常楽寺	絹本着色聖観音画像〔市〕
1301	正安 3	明空、『宴曲抄』を編む。上州から善光寺への道筋は、碓井山・離山ノキ(マキ科の高木櫟か)の松原・桜井・海野・岩下・塩尻・坂木を通る	善光寺道	
1315	正和 4	前隱岐守平繁長、内村の靈泉寺に木造阿弥陀如来像を造立し、11月、胎内に願文を納める。この時、靈泉寺比丘源興の経文奥書・五香・五玉・薬等も同時に胎内へ納入する	靈泉寺	靈泉寺五輪塔〔市〕
1320	元応 2	この年、丸子町長泉寺蔵の阿弥陀三尊の梵字を陰刻した板碑が造立される	長泉寺板碑	長泉寺板碑〔市〕
鎌倉	後期	別所安楽寺に八角三重塔を建立する(昭和27年国宝に指定)	八角三重塔	安楽寺八角三重塔〔国〕
鎌倉	後期	浦野の馬背神社に阿形・吽形・二体の木造狛犬が奉納される	馬背狛犬	木造狛犬〔市〕馬背神社
1333	元弘 3	5/21、新田義貞の軍勢に鎌倉を攻められ塩田道祐(国時)・俊時父子自害し果てる		
1349	正平 4	7月、常田庄の空阿、天長地久を祈り石造・切妻の幢を納める(宗吽寺蔵)	宗吽寺幢	宗吽寺石幢〔市〕
1366	貞治 5	真田町中原の地蔵堂の立つ位置に、道圏が大檀那となって、宝筐印塔を造立する	宝筐印塔	中原宝筐印塔〔市〕
1367	貞治 6	真田町傍陽の実相院に一結の施衆が、宝筐印塔を造立する	宝筐印塔	実相院宝筐印塔〔県〕
1376	永和 2	浦野庄奈良本郷龍泉寺において、住持全良・大檀那全賢、大工葛木朝宗に梵鐘を鋳造させて、7月、吉祥日これを架ける	龍泉寺	中山城跡〔市〕
1400	応永 7	3月、下総国吉祥禅寺に檀那祐寿が住持周建代に雲板を施入する(応永 6年に伊豆国中島の宝泉寺に再施入され、伊勢山の陽泰寺が現蔵する)	陽泰寺雲板	銅製雲板〔市〕陽泰寺
1400	応永 7	守護小笠原長秀の措置に反対し東北信の国人が連合、大塔で合戦をする海野幸義・同弥平四郎・祢津遠光・同法津・同時貞・浦野式部丞・岩下・深井・矢島・桜井・別府・実田・横尾・曲尾・望月・村上氏一族等参戦する	大塔合戦	
1403	応永 10	真田町穴沢の地に、この年、宝筐印塔を造立する(通称半田弾正の墓)	宝筐印塔	弾正塚宝筐印塔〔市〕
1437	永享 9	7月、現青木村当郷にあったと伝えられる浅井寺に、彦五郎が鰐口を施入する。(上田原觀音寺現蔵)	鰐口	銅製鰐口〔市〕觀音寺

西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1438	永享 10	8月、猿樂彦一・吉光らが四阿山御正躰を鋳造し信仰する	四阿懸仏	銅製御正躰(懸仏)〔市〕
1448	文安 5	文安年中、内村に他郷の兇徒乱入し、法住寺の堂塔残らず焼失する	法住寺焼失	
室町	時代	国分寺屋敷の現国分寺地籍に木造三重塔を建立する	信濃国分三重塔	信濃国分三重塔〔国〕
1452	享徳 7月 25日	妙賢禪門、この年の年号を刻し板碑を造立する(上塙尻真福寺跡から出土)	板碑	板碑〔市〕
1453	享徳 2	11/3、上田市前山中禅寺の鰐口が鋳造される	中禅寺鰐口	銅製鰐口〔市〕中禅寺
1466	文正 2月 28日	紀年記念銘寛正7年5月の大姥石仏(2月に改元、旧年号を記銘)を権大僧都真海法印が奈良尾に造立する	大姥石仏	石造大姥坐像〔市〕
1468	応仁 2	村上兵部少輔政清、峠を越え傍陽に攻め入り洗馬城の詰口を攻略する	洗馬城	洗馬城跡〔市〕
1480	文明 12	11/28、国分寺に伝わる「牛頭天王之祭文」が書かれ	牛頭天王祭文	牛頭天王祭文〔市〕
1486	文明 18	4/5、内村の法住寺、虚空蔵堂を建立する。住持什誓・大旦那平朝臣繁則小旦那堀内繁房法名道見・妻女妙圓の懇志による	虚空蔵堂	法住寺虚空蔵堂(附)厨子〔国〕
1493	明応 2	依田信蕃が使用したと伝える依田赴夫蔵・上田市立博物館所管の陣鐘、この年、近江国高野の鋳物師土方出羽正が鋸る	陣鐘	銅製陣鐘〔市〕
1541	天文 10	5月、武田信虎・諏訪頼重・村上義清連合して小県・海野平に攻め入る。海野氏は上野へ没落、祢津氏は召返し、矢沢氏は詫び言、浦野方面は村上氏の手中になる。海野棟綱に合力した真田幸隆も上野へ逃れ、長野業正を頼る	海野攻め	
1548	天文 17	2月、晴信、上田原に出陣、村上義清と戦う(上田原合戦)。晴信敗れ、かせ手を負い、板垣信形、甘利虎泰ら戦死する。村上方も雨宮三郎兵衛、小島権兵衛、屋代源吾らが戦死する	上田原合戦	
1549	天文 18	依田新左衛門、真田幸隆、この以前に武田氏に従う	真田出仕	真田氏文書〔市〕
1550	天文 19	7月、晴信、真田幸隆に諏訪形300貫横田遺跡上条都合千貫の地を宛行う	真田氏知行	真田氏給人知行地検地帳〔市〕
1550	天文 19	晴信、8月末日小県郡砥石城を攻め、10/1、兵を引く	砥石合戦	
1551	天文 20	5/26、真田幸隆、砥石城を乗っ取る	砥石乗取	
1553	天文 22	7月末、晴信小県に向かう。8/1、和田城、3日、鳥屋城、5日、塙田落城	塙田城落城	塙田城跡〔県〕
1553	天文 22	8/28、塙田城代飯富虎昌、室賀の本城に移る(岡城を指すか)	城代配置	岡城跡〔市〕
1562	永禄 5	6月、真田幸隆(蓮華院宮殿扉の文字は幸綱)と子信綱、蓮華童子院別当良叶四阿山頂の白山社宮殿を修造する	四阿白山社	
1562	永禄 5	11月、信玄、海野の開善寺に旧領安堵と隠居分五貫を約束する	海野開善寺	紙本墨書開善寺宛武田信玄判物〔市〕
1563	永禄 6	5月、晴信は、海野・祢津・真田氏らを上州吾妻郡鎌原城に在城させる	上州鎌原	紙本墨書開善寺宛武田信玄寄進状〔市〕
1566	永禄 9	8月、信玄、小県郡上田原の向源寺に陣をとることを禁じる	向源寺	紙本墨書武田信玄朱印状〔市〕
1566	永禄 9	8/23、武田信玄の家臣武藤常昭・三枝昌貞ら信玄に異心無きを起請し下之郷大明神(生嶋足嶋神社)に捧げる	起請文	
1567	永禄 10	8月、信玄の家臣、異心が無いことを起請し生嶋足嶋神社に納める。起請文を出しした近郷の武将は (単独)室賀信俊、望月信雅、海野幸貞、浦野幸次、祢津常安、和業繁、依田信盛、大井満安、麻績清長 (二名連署)小泉重永と宗貞、海野幸忠と信盛 (連署)室賀経秀等・真田石井桜井鉄砲衆・望月衆・海野衆・浦野官小泉被官	起請文	

西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1568	永禄 11	4月、信玄、小県郡五十郷(阿曽郷)を赤見七郎左衛門尉に宛行う 同月信玄、塩野神社に 10 貫文を寄進し、越後境に築城する普請の無事を祈る	阿曽郷 塩野神社 信玄願文	褐色緘唐冠崩し当世具足(市) 前山三頭獅子〔市〕 紙本墨書武田信玄の朱印状〔市〕
1569	永禄 12	この年より以前に、才應総芸、浦野に東昌寺を開き、この年 4月、法衣を新調する	浦野東昌寺	東昌寺僧具〔市〕
1570	元亀 1	9月、信玄、塩田西光寺に鎖張進上の褒美として普請役等を免除する	普請役免除	紙本墨書武田信玄朱印状(西光寺宛)〔市〕
1572	元亀 3	この年、諏訪上下社の造宮および御柱祭が行われ、小県郡内郷村が上下社に勤めた	上社造宮 下社造宮	紙本墨書武田信玄朱印状(小泉家)〔市〕
1574	天正 2	5/19、真田一徳斎幸隆が入寂する。後に墓塔を真田長谷寺に造立する	幸隆死去	真田幸隆・昌幸の墓〔市〕
1575	天正 3	真田信綱を、横尾の信綱寺に弔う 追号信綱寺殿大室道也	真田信綱	真田信綱の墓〔市〕
1580	天正 8	5月、武田勝頼、新寄進 3 貫を含め、前山寺領計 10 貫 490 文を安堵する	前山寺領	紙本墨書武田勝頼の朱印状〔市〕
1582	天正 10	同月、北条氏直、碓氷峠を越え神川まで軍を進める。昌幸北条方に従う	上杉進出	
1582	天正 10	同月 28 日、加津野信昌らが奔走し、真田昌幸を徳川方に属させる。家康は上野の長野一跡や甲州 2 千貫を昌幸に与える	真田徳川	
1582	天正 10	同月、真田昌幸、北条と絶ち、北条氏政方の祢津昌綱を攻める	真・北断絶	
1583	天正 11	1月、真田昌幸、丸子地方に兵を進め河南の者共と戦って依田窪地方を平定する	依田窪平定	
1583	天正 11	4/13、海津から景勝へ、「真田昌幸が、海士淵に築城中」との注進が送られる	築城工事	
1585	天正 13	天正 10 年 10 月、徳川・北条の上野・信濃の交換和議の約定成立以来、真田昌幸は北条氏や徳川氏に服従せず。これまで敵対した上杉景勝に入魂を誓う。	真田・上杉	
1585	天正 13	8月、徳川家康、真田昌幸討伐に向かう。真田昌幸は徳川軍の攻撃を受け、国分寺・神川・丸子表・丸子河原・祢津口において戦い、撃退する	上田合戦	
1585	天正 13	真田昌幸、伊勢崎に城を築く(現上田城)。	上田城築城	上田城跡〔国〕
1585	天正 13	常田獅子、房山獅子とともに、上田築城の祝いに演舞したことから始まったと伝える	獅子舞	常田獅子〔市〕 房山獅子〔市〕
1586	天正 14	8月、徳川家康が、真田昌幸への攻撃を企てる。	真田・羽柴	
1587	天正 15	3月、真田昌幸、駿府に出向き徳川家康に謁する	真田・徳川	
1587	天正 15	9月、下之郷大明神(生嶋足嶋神社)が、湯立釜をつくる	湯立神楽	鉄製湯釜〔市〕
1589	天正 17	1月、真田氏が徳川氏に出仕後の調停で、豊臣秀吉は、沼田城を含む上州領 3 分の 2 を北条氏に渡し、残る 3 分の 1 は真田氏の支配を認める旨の裁定を北条・徳川・真田三者に下す	秀吉裁定	
1589	天正 17	豊臣秀吉、北条氏の約定不順守を「惣無事令」違反として激怒し、11 月諸大名に小田原出陣の準備を命ずる	秀吉所轄	
1590	天正 18	2月、真田昌幸は、秀吉の命で北条氏討伐のため出陣し、上野に向かう。北条方の大道寺直正が守る松井田城を攻撃し、4月、箕輪城を攻略する	北条討伐	
1591	天正 19	4月、人別の耕地と持貫高を記した全 47 貫 276 文の野倉惣帳ができる	野倉惣帳	野倉惣帳〔市〕
1595	文禄 4	正月、秀吉、草津入湯の役割分担を定める。この中に真田安房守居城を始めて「上田」と記す	上田城初見	

西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1600	慶長 5	真田昌幸、信幸は、6月のころ、徳川家康から会津への出陣を命じられ、7月、信幸は、先陣の秀忠に従軍する。昌幸、信繁も下野に向かう。7/17、父子3人下野の犬伏に会す。7/24、昌幸、信繁陣中から上田に帰城する。信幸は徳川に従う	真田分立	
1600	慶長 5	9/5、真田昌幸、徳川秀忠に降参の旨を撤回、怒って秀忠上田城を攻める	上田合戦	
1600	慶長 5	家康の命により諏訪頼水、依田信守、大井政成ら上田城番として入り、上田城の堀を埋め堀を毀つ。武具は諏訪頼水に与えられる	上田城毀破	
1600	慶長 5	2/13、真田昌幸、同信繁、高野山に幽閉が決まり、この日上田を発つ。池田長門守以下16人が供入として従う	高野幽閉	
1600	慶長 5	この年、真田信幸、徳川家康から加封を受け、上田3万8千石・沼田2万7千石・増加3万石、計9万5千石を領す	信幸恩賞	
1601	慶長 6	この年の前半ころまでに徳川方によって上田城が破却される	上田城破却	
1602	慶長 7	6月、徳川家康は中山道の伝馬・駄賃の制と各宿場を定め、荷の重さを伝馬荷は32貫・駄賃荷は40貫・乗尻一入 18貫以内とし、奈良屋市右衛門・樽屋三四郎に命じて宿問の距離に応じて駄賃を決めさせる。	中山道開設	
1604	慶長 9	秀忠、江戸日本橋を起点に街道ごとに1里塚を築かせる。(上田の1里塚は、文化7年「東都道中分間絵図」に岩下村のみ確認される)幕府の奨励策により各地に並木の植樹がなされる。上田の並木は、踏入村と秋和村にあり、宝永3年には踏入村50本、秋和村267本の報告があるが、文化9年には10本と36本になった	並木	
1614	慶長 19	10/9、真田信繁、九度山を脱出し、同14日大坂城に入る。信繁、大坂城の南口の外に出丸(真田丸)を築く	信繁大坂入	
1614	慶長 19	12/4、徳川軍、大坂城の真田丸を攻めて大敗する	大坂冬の陣	
1615	元和	4/10、大坂夏の陣のため徳川秀忠江戸を発し、真田信吉らも従う。大坂方敗北。		
	7月 13日	5/7、大坂城落城し、信繁茶臼山の北、安居神社の辺りで戦死する。翌日大助、秀頼に殉じ自刃する	信繁戦死	
1622	元和 8	信之が10/20、松城城へ移る。代わって12月、小諸から仙石忠政が上田5万石、川中島1万石余、計6万石で上田に入部する	藩主交代	
1622	元和 8	「上田領惣貫高寄帳」が作成(真田・仙石両氏交代のときと推定される)され、領内村々の年貢米の収納状況や未納分・各種の免租地について書き上げる。免租地の中に上田城と城下町用として接收された分もあり、廃城となつた上田城跡地は「古城廻り」(明屋敷)という耕地となり鎌村で年貢を納入していた	古城廻り	
1626	寛永 3	忠政、將軍秀忠より銀子200貫目を与えられ、4/6、幕府から上田城修築の許可を得る。5/5、城郭修築の詳細な指示を普請奉行原五郎右衛門に示し工事が開始されるも、病気のため上田城復興は未完成に終わる	城郭修築	
1647	正保 4	この年、前年に幕府が諸大名に国絵図の作成を命じたことを請け、郷村帳・国絵図上田城絵図をつくる	国絵図	正保の信濃国絵図〔県〕
1650	慶安 3	8/14、矢代から追分までの北国街道8か宿12問屋が、大坂街道の仁礼・大坂宿を相手に「駄賃荷物の付通し禁止」の訴訟を起こし、幕府の絵図付き裁許状が出され、大坂街道が北国脇往還として認定される	大坂街道	大坂街道のシナノキ群〔市〕
1663	寛文 3	原町の滝沢家『問屋日記』を記し始める。(明治2年まで157冊現存)	問屋日記	原町滝沢家日記(問屋日記)〔市〕
1665	寛文 5	保福寺道の浦野宿、松本藩主が参勤交代時の定宿として活用する(明和8年(1771)まで)	浦野宿	
1672	寛文 12	寛文年間上塩尻村で蚕種製造始まる	蚕種製造	

1681	天和 9月 29 日	3/15、海野町の柳沢太郎兵衛『本陣日記』を記し始める。(明治 6 年まで 140 冊現存) 3/16、藩、前年の凶作のため諏訪部に「お助け小屋」を設置し施粥を行う	本陣日記 救済施粥	海野町柳沢家日記(本陣日記) 〔市〕
1684	貞享	この以前から祇園祭りを行う。6/9、この日両町祭りを執行する。山ざり・さらさら・御本丸道すじのおどりあり	祇園	保野の祇園祭〔市〕
1685	貞享 2	3/2、国分寺三重塔修復され、新たに大日如来像が造られ納められる	国分寺塔	信濃国分寺三重塔〔国〕
1686	貞享 3	8/14、政明、幕府から上田城本丸北方土橋の内水道・両脇の石垣修復工事を許可される	上田城修築	
1688	元禄	5月、紺屋町の八幡社に長谷川等栄作の黒鷹と白鷹の一対の絵馬が奉納される	八幡社	紺屋町八幡社絵馬〔市〕
1690	元禄 3	10月、藩、上田縞を買い上げる	上田縞	
1691	元禄 4	7/19、藩主、江戸の能役者を招き、町の老若男女に「難子」と「仕舞」を見物させる。翌年 3/9、役者長屋ができ、能役者の小野伊衛門、井田勘十郎らが入る	芸能	下之郷三頭獅子〔市〕
1702	元禄 15	幕府が元禄 9 年に改正国絵図の作成を命じ、上田藩仙石氏ら 4 藩が分担し、この年「元禄の信濃の国絵図」を作成提出する。これと合わせて作られたとみられる上田城下町絵図できる。武家屋敷割、藩の施設などが分かる	元禄国絵図	元禄信濃国絵図〔市〕
1706	宝永 3	1/28、政明、但馬国(兵庫県)出石の松平忠周と所領交替を命じられる	転封	
1706	宝永 3	5/15、上田領内の村々『上田藩村明細帳』をつくり差し出す 差出帳の街道並木の記事、踏入村 50 本・秋和村 267 本(文化 10 年には踏入 10 本、秋和 36 本に減る)	宝永差出帳	上田藩村明細帳〔市〕
1727	享保 12	築地の倉沢家で、母屋につないだ別棟座敷を新造する	別棟座敷	旧倉沢家住宅主屋及び客座敷〔県〕
1730	享保 15	12/25、藩主屋形が焼失する	火災	
1732	享保 17	三宅也来の『万金産業袋』に上田縞・上田紺が取り上げられる	上田縞	
1732	享保 17	常楽寺本堂を享保年代(1716~35)16 世翁玄の代に建てる	常楽寺	常楽寺本堂〔市〕
1742	寛保 2	7/20 から 8/1 まで降雨、上田領ほぼ全域で橋・道・堰・堤防の損壊を受ける。上田領内 684 軒流失・454 軒石入泥入漬れ家・201 人と馬 10 死流死・怪我人 58 人、拝借金 5,000 両	寛保洪水	
1748	寛延 7 月 12 日	7/21、塩田組、組中で一番高い尼が岑で千人籠りの雨乞いを行う	雨乞い	
1752	宝暦 2	10/29、大流行のはしか鎮静を願い奈良尾大圓寺の徳邦和尚が火定する	火定	徳邦和尚火定の跡〔市〕
1755	宝暦 5	5 月、上田町祇園祭礼につき躍番組を書き上げる	祇園祭礼	祇園祭礼屏風〔市〕
1757	宝暦 7	上塩尻村の塚田与右衛門、『新撰養蚕秘書』を刊行	養蚕書	掌善掌惡の碑〔市〕
1762	宝暦 12	5/20、藩、前山村の前山寺に命じて、雨乞祈時をさせる	雨乞	
1771	明和 8	加舎白雄、常田の井筒屋万七製本の俳書『田ごとのはる』を刊行する	田ごとの春	加舎白雄自筆画贊屏風〔市〕 加舎白雄自筆酒中仙屏風〔市〕
1771	明和 8	明和年間ころ上塩尻村の蚕種商人が、1 月に 20 人上野・武藏・甲斐・相模・美濃へ、3 月には 80 人が伊奈・木曾・佐久方面へ販売に行く	蚕種販売	
1783	天明 3	前年から始まった凶作のため上田領では損耗 3 万 7 千石余となる。浅間の大噴火の影響で同 7 年まで凶作となる(天明の飢饉と呼ぶ)	凶作	
1789	寛政 1 月 25 日	6/14、藩主館が全焼する。翌 2 年にかけて再築し、この時の表門が現存する	館の火災	上田藩主居館表門及び土塙・濠・土壘〔市〕
西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1818	文政	俳人小林一茶が、向源寺に滞在し、宮下弁覺らと交流	小林一茶	板絵着色劉備檀渓渡河の図

	4月 22日	する		〔市〕
1822	文政 5	1月、奥州・信濃・武藏・下野・上野・相模・甲斐の各蚕種商仲間總代、半取差止につき再議定書つくる	蚕種半取	活文禪師遺跡 2号 龍洞院敷地及び遺墨・遺品・文書〔市〕
1825	文政 8	3月、信濃国中の蚕種生産者と上州折茂氏と掛け合い、蚕種 200 枚くらいを 1 株とする持ち株を募り「神明講」や「別講」をつくる 神明講計 245 人 364 株 別講上塙尻 64 人 76 株 信濃国計 309 人 440 株 蚕種生産およそ 88,000 枚	神明講 蚕種生産	活文禪師遺跡 3号 岩門大日堂跡〔市〕
1829	文政 12	活文禪師、文政 2 年から上青木の龍洞院住持となり、文政 8 年岩門の大日堂に移り佐久間象山らを導き、このころ常田の毘沙門堂多聞庵に移住 16 年間多くの門人を教導する	活文禪師	活文禪師遺跡 1号 毘沙門堂〔市〕
1838	天保 9	松代・松本・上田三藩の分担調製により「天保の国絵図」ができる	天保国絵図	天保信濃国絵図〔市〕
1840	天保 11	舞田村の中村弥七郎、『天保蚕秘養蚕重宝記』を著す。(翌 12 年には上塙尻村の藤本善右衛門が『蚕かひの学』の養蚕技術書を、弘化 4 年上塙尻村の清水金左衛門が『養蚕教弘録』を著す)	養蚕書	
1841	天保 12	浦野の東昌寺鐘楼を、立川流大工宮坂常蔵が建てる	東昌寺鐘楼	東昌寺鐘楼〔市〕
1845	弘化 2	この年、上塙尻村の藤本善右衛門、蚕種改良で「信州かなす」をつくる	信州かなす	藤本蚕種株式会社保存蔵標本〔市〕
1847	弘化 4	3/24、善光寺大地震があり、上田城下でも櫓が傾き、住居が破損し、井戸の潰れ城内外共 50 か所などの被害が出る。4/3、藩、地震鎮静のため山川祭りを実施する。藩、井戸水水潤れにつき「新堰堀廻し用水引しの絵図」を制作する。上田領在町分潰家 663 軒、家流失泥水入 525 軒、死人 218 人、けが人 215 人、旅人死失 126 人等を幕府に届出る	弘化地震 絵図 地震被害	
1847	弘化 4	刀匠山浦真雄が、長さ 97.5cm・鎬造・庵棟・互の目・栗尻の「太刀」(上田市立博物館蔵)を鍛造する	山浦真雄	太刀〔県〕
1849	嘉永 2	刀匠山浦清磨が、長さ 70.2cm・鎬造・庵棟・二重刃・栗尻の「刀」(木村氏蔵)を鍛造する	山浦清磨	刀〔県〕
1853	嘉永 6	竹内善吾、算学家として天保 12 年「当時名人算者鑑」に最高位東の大関に載る。この年、病気のため卒す、行年 71 歳。呈蓮寺に葬る	竹内善吾	竹内善吾武信の墓〔市〕
1858	安政 5	6/2、領内產生糸を横浜の生糸売込商の中居屋重兵衛を通じ輸出する	貿易	
1860	万延	国分寺本堂を文政 12 年に発願、天保 11 年に起工してこの年竣工する	国分寺	信濃国分寺勸進帳〔市〕 信濃国分寺本堂(薬師堂)〔県〕
1862	文久 2	上田藩校文武学校に、兵学・算術・医学所を開設する	藩校	佐久間象山書五反幟〔市〕
1863	文久 3	赤松小三郎、藩に意見書を提出し、藩政改革の断行、文武の両道を督励し兵・器の改良を図るよう提案する。	赤松小三郎	赤松小三郎佩刀〔市〕
1863	文久 3	諏訪形荒神宮本殿を竹内八十吉が安政 4 年に請負い、この年完成する	荒神宮	荒神宮本殿〔市〕
1867	慶応 3	赤松小三郎、5 月に宰相六人・上下二局の議政局を建白し、9/3、帰藩直前に京都で薩摩藩士桐野利秋らにより暗殺される	赤松小三郎	赤松小三郎遺髪の墓〔市〕
1868	明治	1/9、上田藩主松平忠礼、幕府に忠誠を誓う。	藩主幕府方	成沢寛経翁奥城(墓)〔市〕
1869	明治 2	3/2、上田藩、藩籍奉還をする。6 月、旧藩主松平忠礼は新政府地方「上田藩知事」になる	藩籍奉還 藩知事	
1871	明治 4	7/14、廢藩置県により、上田藩が上田県となる。(この後 11/20、信濃北半を長野県・南半と高山を筑摩県とし、上田は長野県に入る)	上田県 長野県	
1871	明治 4	8 月、東京鎮台を置き、その「分管上田」が信濃を管轄し常備歩兵二小隊を上田城内に駐屯させ、乃木希典が配属される	上田分管	
西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1871	明治 4	上田で初めての風穴を利用して蚕種製造を、倉沢運平	風穴蚕種	

		が別所村氷沢で始める		
1873	明治 6	1/14、上田城本丸、二の丸の土地建物樹木一切払い下げとなる。価格 800 円という	上田城払下	
1873	明治 6	3月、名工竹内八十吉の彫刻で飾り太郎山神社本殿を再建する	彫刻	太郎山神社本殿〔市〕
1874	明治 7	7月、旧上田藩士稻垣信・坂巻淳一郎らはキリスト教宣教師から洗礼を受け、上田に於いて伝道を始め、明治 9 年 10 月にプロテスタント教会上田基督公会を常入村(金山町)に創立する	基督公会	
1874	明治 7	保野の塩野神社に廻り舞台を建てる	廻り舞台	塩野神社廻り舞台〔市〕
1878	明治 11	この年、上田で公娼を置く遊廓が造られ、上田城の櫓 2 棟が売却され使われる	遊廓	
1888	明治 21	信越線の工事を明治 18 年 7 月、直江津から着工、直江津～上田間が 21 年 8 月 15 日、開通する(同年 12/1、軽井沢まで)。上田駅と田中駅を設概	信越線開通	
1890	明治 23	4月、第二線路(明治 15 年県会議決、県内主要道開発優先順は小県東筑摩郡間が第二番目)が開通する。(後の県道上田一松本線。その後国道 143 号線)	第二線路	
1893	明治 26	信越線の開通により、丸子や諏訪地方の製糸工場へ向けて繭の輸送と、横浜向けの生糸輸送が急増する。鉄道を利用して群馬県・埼玉県から桑を大量に買い付ける	信越線利用	
1896	明治 29	1/5、信越線大屋駅が開設され、開通式を行う。(明治 24 年小県郡東北村・依田窪 2 町 9 村諏訪・伊那等 3,200 名が設置を請願、明治 28 年 3 月設置許可)	大屋駅	
1898	明治 31	五加の青年有志の汗と村の支援により 37 年をかけて竿石に「修善生洪福」(勝海舟揮毫)と刻した石燈籠がこの 5 月に完成する	石燈籠	五加八幡神社八幡社石燈籠〔市〕
1900	明治 33	3月、笠原善吉、上田に常田館製糸場(現笠原工業株式会社上田工場)を設立する。このころ上田には信陽館・常陽館・宮下製糸場・信精館など立ち並ぶ	常田館	旧常田館製糸場施設〔国〕笠原工業常田館製糸場〔市〕
1900	明治 33	10/27、海野町に上田電灯株式会社が設立される。同 34 年に畠山に発電所が建設される	電灯会社	畠山発電所跡〔市〕
1902	明治 35	5月、山口村の氏子の人々が太郎山神社に、太々神樂を奉納する	太郎山神樂	太郎山神社太々神樂〔市〕
1903	明治 36	4月、殿城の下郷字神林の畠から、約 6,800 枚の古銭が入った灰釉四耳壺を小菅房峯が発見する	古銭発掘	灰釉四耳壺〔市〕
1913	大正 2	この年、二の丸橋東に上田男子小学校同窓会が明治記念館を建てる。(後この建物は、上田市立図書館一石井鶴三美術館と変わる)	明治記念館	旧上田市立図書館〔市〕
1916	大正 5	丸堀の上田冷蔵庫が営業し、冷蔵蚕種として好成績をあげる。このため風穴利用は減少し衰微していく	冷蔵蚕種 風穴利用減	
1917	大正 6	5月、別所の花屋ホテル、県下で最初の株式会社組織のホテルを開業する	株式ホテル	
1918	大正 7	11.2、工藤善助を社長とする丸子鉄道株式会社が丸子線大屋～丸子町間を開業し(大正 6 年 5 月 1 日起工)蒸気機関車で走らせる	丸子鉄道	
1920	大正 9	1.5、小島大治郎を社長とし、上田温泉電軌株式会社を設立する	温泉電軌	カネタの煙突〔市〕
1920	大正 9	6.1、信越線北塩尻駅(現西上田駅)が竣工する	北塩尻駅	
1921	大正 10	6.17、上田温電(上田温泉電軌株式会社)が川西線を開業する。	青木別所線	小山真夫調査野帳〔市〕
1922	大正 11	9.1、関東大震災が起き、余震が 2、3 日続く。上田では、若干の墓石・塀の倒壊や瓦のずり落ちなどの被害が生ずる	関東大震災	
西暦		記 事	キーワード	文化財名称
1922	大正 11	9.12、震災で東京・横浜方面の生糸の輸出に支障が出	製糸 関西	

		る。関西地方でも蚕糸業が盛んになり、神戸港から生糸の輸出が始まる。浦里の北信館・川西社と室賀の室賀社、中塙田の塩田館、西塙田の下仁田社塩田組などが神戸と生糸取引を始める	で取引	
1923	大正 12	この年、上田温電天神町一城下間の千曲川に電車の鉄橋がかかる	鉄橋架設	
1924	大正 13	8.1、丸子鉄道が、上田東一大屋駅間を電化して開通し、丸子町と上田東駅とを直結する	上田東駅	
1926	12月 25日	8/12、東塙田村下之郷から二ツ木峠を越えて丸子町西丸子駅に通ずる西丸子線が開通する	西丸子線	
1927	昭和 2	上田駅から外堀・北上田を経由する電車北東線が伊勢山まで開通する	北東線	
1927	昭和 2	温電川西線は、この年、上田原駅から新城下駅にかけて、現軌道への工事が終了する	温電川西線	
1928	昭和 3	5/1、伊勢山トンネル・神川鉄橋が落成、上田一真田間に電車が開通する	北東線	
1930	昭和 5	この年、繭の市場価格が世界恐慌の影響を受け貫 3 円 14 錢に下落する	繭価下落	
1930	昭和 5	上田蚕糸専門学校は、講堂(木造 2 階建・切妻造・瓦棒鉄板葺)を建てる	信大講堂	
1931	昭和 6	6/1 の上田飛行場ができて祝賀式を行う。(10 月、上田飛行場の設置許可があり、11/1 を行う)	上田飛行場	
1933	昭和 8	4/3、上田飛行場を陸軍省に献納し、この日献納式を行う	飛行場献納	
1935	昭和 10	10月、上田進「おちかを廻って」など上田を舞台にした作晶を『文学評論』ほかに次々と発表する	上田進	旧千曲会館〔市〕
1937	昭和 12	6/1、上田飛行場を、熊谷陸軍飛行学校上田分教場とする	上田飛行場	
1942	昭和 17	小牧に美吉野炭鉱ができ、泥炭を採掘する	炭鉱	
1944	昭和 19	戦争のため石油資源が不足し、松根油・生の松脂採取が奨められる。(13 年ころから始まり、この年のころ最盛期となる)	松根油	
1944	昭和 19	2/9、午後 7:45、アメリカ軍の空襲で、小県蚕業学校が焼失する	上田爆撃	
1945	昭和 20	6 月、市郊外の川西・東塙田地区に地下航空機工場の建設工事を始める	地下工場	
1945	昭和 20	8/13、午前 6:30 ころ、アメリカ軍艦載機 12 機が上田に来襲、上田飛行場を爆撃・機銃掃射をうける。負傷者は 7 名	上田爆撃	
1947	昭和 22	7 月 18、19、上田で祇園祭が行われ、終日法被姿で神輿をねり歩く。(海野町・原町ともに御舟・御山の天王の曳行はない)	祇園復活	
1947	昭和 22	10/13、昭和天皇の国内事晴視察があり、この日、富士通信機・上田蚕糸専門学校等へ御巡幸される	天皇巡幸	
1948	昭和 23	10/1、常磐城新屋の地から旧上田城の南北両櫓を城跡に戻し、南櫓・北櫓が復元される。(昭和 24 年 6/11、移築工事が完了し落成式を行う)	上田城櫓	
1949	昭和 24	信州大学が発足し、上田纖維専門学校は、信州大学纖維学部となる	信大纖維	
1958	昭和 33	千曲自動車と川中島自動車が相互乗り入れをし臼田 - 上田 - 長野間のバス交通が可能となる。このころからバス交通の最盛期を迎える	バス交通	
1963	昭和 38	10/1、長野駅 - 上野駅間の電化が完成して、全線電車が走る。蒸気機関車の姿が消える	信越線電化	
西暦	和暦	記 事	キーワード	文化財名称
1963	昭和 38	1月、下之郷 - 西丸子駅間の電車路線、西丸子線を廃止する	西丸子線廃止	

1968	昭和 43	9月、菅平ダムが完成する。(昭和 41 年に着工)	菅平ダム	
1969	昭和 44	4/19、車社会となり、利用者減少して採算不足のため、上田丸子電鉄の丸子線を廃止する。7月、社名を上田交通に変える	丸子線廃止 上田交通	
1972	昭和 47	2/19、上田交通が北東線真田・傍陽線を廃止する	北東線廃止	
1984	昭和 59	3月、笠原工業(株)上田工場、製糸部門を終了する	笠原工業	
1996	平成 8	11月、高速道「上信越自動車道」(関越道上越線)上田菅平インターの供用を開始する。	高速道	
1996	平成 8	この年、塩田養殖協同組合が 37 年間に及んだ鯉の養殖事業を閉じる	塩田養鯉	
1997	平成 9	10/1、長野新幹線が開通する。信越線は篠ノ井一軽井沢間を第 3 セクター「しなの鉄道」として運行	長野新幹線 しなの鉄道	
1999	平成 11	上田市で最後の養蚕家が廃業する	養蚕家皆無	
2000	平成 12	原蚕種の製造を行っているのは日本国内で上田蚕種協業組合のみとなる	蚕種製造	
2004	平成 16	6/17、上田市・真田町・丸子町・武石村 4 市町村の法定合併協議会が設立され、合併の協議が行われる	法定合併協	

(2) 地域別特徴

中央地域

中央には、信濃国分寺(跡)〔国・県・市〕、上田城跡〔国〕、旧常田館製糸場施設〔国〕と、各時代を代表する文化財が数多く遺る。特に、上田城築城以来、中央地域には社寺が移築造営されたこと、北国街道が通り城下町が形成されたことにより、近世の文化財が数多く伝わっている。また、近代の鉄道敷設・上田駅設置により近代化遺産も多いことが特徴付けられる。



上田城跡



旧上田市立図書館

西部地域

西部地域は、上田城下の西側から坂城町までの地域にある。地域の中央を北国街道が横断し、街道筋の町並みや幕末以来の蚕種製造や養蚕家屋群が色濃く遺る地域である。



下塩尻民家群

城南地域

城南地域には、鎌倉時代初期の上田原石造五輪塔〔市〕や、武田氏と村上氏の激戦、上田原合戦が繰り広げられた古戦場がある。特筆すべきは、上田藩政において大庄屋を務めた旧倉沢家住宅〔県〕である。



旧倉沢家住宅

神科・豊殿地域

殿城山麓や虚空蔵山麓にある古墳群が市指定となっているほか、近代化遺産として畠山発電所が市指定となっている。また、この導水路も遺っている。



赤坂將軍塚古墳

塩田地域

国宝安楽寺八角三重塔をはじめとして、国指定8件、県指定8件、市指定13件、登録1、国選択1、計31件にのぼる文化財を有し、その多くが社寺にまつわる文化財である。また、全国有数の寡雨地帯として、岳の幟祭礼行事〔選〕などの雨乞い行事も伝わっている。



安楽寺八角三重塔



岳の幟祭礼行事

川西地域

川西地域は、古代には東山道が、中世戦国期には武田が善光寺平に向かって通過した地域であり、近世には保福寺道が通った交通の要衝である。延喜式内社馬背神社や東山道沿線には古社寺と文化財が遺る。中世の遺構として岡城跡〔市〕があり、武田流の築城が見られる。また、善光寺平へと繋がる室賀の谷には二つの三頭獅子〔市〕が伝承されている。



下室賀三頭獅子

丸子地域

丸子地域もまた仏教文化財が数多く遺る。一方、この地域は近代に製糸工場が数多く建てられ、その遺構として力ネタの煙突〔市〕、依水館客殿及び玄関〔市・登〕がある。また、尾野山三頭獅子〔市〕、尾野山式三番叟〔市〕、腰越諏訪神社御柱祭御練り〔市〕、依田神社大神樂獅子舞〔市〕などの民俗芸能が多く遺るのも特徴的である。



腰越諏訪神社御柱祭御練り



力ネタの煙突

真田地域

真田地域は、真田氏発祥の地として、真田氏にまつわる城館跡が主体となっている。また、四阿山を白山に見立てた白山信仰に関わる実相院の木造十一面觀世音立像〔県〕や三島神社の銅製十一面觀音像御正体〔市〕が知られる。



真田氏館跡

武石地域

7年に一度執り行われる子檀嶺神社御柱祭行事〔市〕は、地域を挙げて取り組まれる神事であり住民活動である。また、美ヶ原高原を背景にして樹木の天然記念物も多いのが特徴である。さらに、妙見寺の鳴龍〔市〕は、日光産、京都相国寺、青森龍泉寺とともに「日本四方鳴龍」の一つに数えられる。



信広寺シダレザクラ



妙見寺の鳴龍

3 上田市の文化財保護施策

(1) 指定文化財等一覧

上田市には、平成 29 年 3 月現在、国宝を含む国指定・選定・登録等の文化財が 36 件、長野県指定文化財（選択含む）は 27 件、上田市指定文化財は 238 件、合計で 301 件である。

文化財件数（平成 29 年 3 月現在）

区分		種類		国指定・選定 () は国宝数	県指定・選択	市指定	合計
文化財の類型	有形文化財	建造物	7(1)	10	38	55	
		美術工芸品	7	9	85	101	
	無形文化財		0	0	4	4	
	民俗文化財	有形	1	0	14	15	
		無形	0	0	14	14	
	記念物	史跡	3	4	45	52	
		名勝	0	0	7	7	
		天然記念物	3	3	31	37	
	文化的景観		0				0
	伝統的建造物群		0				0
	登録選択他	有形文化財建造物（登録）	9				9
		無形民俗文化財（選択）	3	1			3
		国重要美術品	3				3
合計			36	27	238	301	
その他	選定保存技術		0	0	0	0	
	埋蔵文化財包蔵地		868				868

旧法（重要美術品等ノ保存ニ関スル法律）において認定されたもの。

国指定・選定の文化財

国宝を含む国指定・選定の文化財が 21 件あり、これらの種別としては重要文化財（建造物・美術工芸品）、重要有形民俗文化財、史跡、天然記念物に指定されている。このうち最も多いのが重要文化財（建造物）である。特に鎌倉時代から室町時代にかけての寺院建築が塩田地域に集中しているのが特徴で、その代表的なものが国宝安楽寺八角三重塔である。

指定文化財以外には、登録文化財建造物が 9 件、記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財が 3 件、重要美術品が 3 件ある。なお、昭和 25（1950）年の文化財保護法施行に伴い廃止された旧法「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」により認定を受けた重要美術品については、現在も効力を有するものである。

このほか、文化財保護法において保護の対象としている埋蔵文化財は、本市域に 868 件ある。

県指定文化財

長野県文化財保護条例に基づき、有形文化財（県宝）18件、長野県史跡4件、長野県天然記念物3件が指定されている。無形文化財と民俗文化財の指定事例はない。

また、県条例には選定保存技術の制度があるが、上田市内の事例はない。無形民俗文化財の選択制度もあり、「別所岳の幟りの習俗」が含まれている。

市指定文化財

上田市文化財保護条例に基づき、上田市有形文化財123件、上田市無形文化財4件、上田市民俗文化財28件、上田市史跡名勝天然記念物83件が指定されている。このうち、も最も数の多い有形文化財（美術工芸品）85件については、仏教関係の彫刻や古文書などが多い。つづいて数の多い市史跡は、45件のうち古墳や墓所が多い。

また、条例には、選定保存技術の制度があるが、事例はない。

なお、上田市文化財保護条例は平成18年3月6日に施行されたもので、合併前の上田市文化財保護条例（昭和62年上田市条例第18号）、丸子町文化財保護条例（昭和40年丸子町条例第47号）、真田町文化財保護条例（昭和45年真田町条例第9号）又は武石村文化財保護条例（昭和43年武石村条例第5号）の規定に基づき、指定された文化財を継承している。

一覧表

国指定文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
1 ★	国宝 建造物	1	安楽寺八角三重塔	安楽寺	別所温泉2361	S27. 3. 29	1	鎌倉時代末期	八角三重塔婆、初重袈裟付、柿葺、一基、高さ約18.56m
2 ▲		2	信濃国分寺三重塔	国分寺	国分1052	M40. 8. 28	1	室町時代中期	三間三重塔婆、銅板葺、一基、高さ約20.10m
3 ▲		3	前山寺三重塔	前山寺	前山300	T11. 4. 13	1	室町時代後期	三間三重塔婆、柿葺、一基、高さ約18.07m
4 ▲		4	法住寺虚空蔵堂(附)厨子	法住寺	東内4313-イ、ロ	T11. 4. 13	2	室町時代	間口三間、奥行四間、入母屋造、こけら葺、折衷様式
5 ▲		5	中禪寺薬師堂	中禪寺	前山1721	S11. 9. 18	1	鎌倉時代前期	桁行三間、梁行三間、宝形造、茅葺、一棟
6 ▲		6	常楽寺石造多宝塔	常楽寺	別所温泉2347	S36. 3. 23	1	鎌倉時代(13世紀)	一基、安山岩、総高274cm
7 ▲		7	旧常田館製糸場施設	笠原工業(株)	常田1-10-3	H24. 12. 28	7	明治36年ほか	7棟、三階蔵倉庫、四階蔵倉庫、五階蔵倉庫、五階鉄筋蔵倉庫、機織場、事務所兼住宅、文庫蔵
8 ▲	文 化 財	8	木造推仙和尚坐像	安楽寺	別所温泉2361	T12. 3. 28	1	鎌倉時代末期 (嘉慶四年 1329)	桧材、寄木造、彩色、玉眼嵌入、一軸、像高74.4cm
9 ▲		9	木造惠忍和尚坐像	安楽寺	別所温泉2361	T12. 3. 28	1	鎌倉時代末期 (嘉慶四年 1329)	桧材、寄木造、彩色、玉眼嵌入、一軸、像高75.1cm
10 ▲		10	薬師如来坐像 (附)木造神持立像	中禪寺	前山1721	T12. 3. 28	2	平安時代後期 (13世紀前半)	ともに一軸、寄木造
11 ▲		11	銅造觀音菩薩立像	長福寺	下之郷541	S15. 10. 14	1	白鳳時代 (7世紀後半)	銅造、一軸、像高36.7cm
12 ▲	工芸品	12	小文地桐紋付韋胸服	上田市	二の丸 上田市立博物館	S51. 6. 5	1	室町時代後期 (16世紀)	一領、鹿なめし革、表(小紋染)、裏(濃茶染)、身丈89.0cm
13 ▲		13	反射望遠鏡国友一貴斎作 (附) 覚書	上田市	二の丸 上田市立博物館	H24. 9. 6	2	江戸時代	天保五年作、黄銅製、青銅製、ガフス製
14 ▲	古文書	14	紙本墨書き島足島神社文書	島足島神社	下之郷701	S62. 6. 6	94	室町時代後期から 江戸時代初期	94通
15 ▲	重要民俗文化財	15	染屋焼コレクション	上田市	二の丸 上田市立博物館	S39. 5. 29	66	江戸時代末期から 昭和初期	壺・壺類16点、鉢類12点、その他8点 合計66点
16 ▲		16	信濃国分寺跡	上田市ほか	国分1125ほか	S5. 11. 19	1	奈良時代	4, 178. 00m ² / 125, 161. 70m ² (追加指定S43. 3. 19)
17 ▲		17	上田城跡	上田市ほか	二の丸	S9. 12. 28	1	安土桃山時代 (天正11年 1583)	111, 586m ²
18 ▲	史跡・天然記念物	18	鳥羽山洞窟	深山・岡森・一本木謫居神社	腰越429	S53. 2. 8	1	繩文・古墳時代	古墳時代の葬所跡(曝葬)幅25m、奥行15m
19 ▲		19	西内シダレクリ自生地	滝沢正一	平井字1471ほか	T9. 7. 17	1		自生地、上田市平井字上の原一帯
20 ▲		20	東内シダレエノキ	上田市・下和子区	東内1532-2	T9. 7. 17	1		接木子木(7本)、実生子木(5本)
21 ▲		21	四阿山の的岩	上田市東御市真田共有財産組合	菅平高原	S15. 2. 10	1		幅2~3m高さ15m長さ200m 垂直に柱状節理が発達した安山岩の大岩脈

国登録有形文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
25 ▲	建造物	1	上田蚕種協業組合事務棟	上田蚕種(株)	常田3-4-57	H9. 5. 7	1	大正6年(1917)頃	1棟、木造2階建、瓦葺、建築面積764m ²
26 ▲		2	信州大学織維学部講堂	信州大学	常田3-15-1	H10. 9. 2	1	昭和4年(1929)	1棟、木造2階建、鉄板葺、建築面積357m ²
27 ▲		3	旧常田幼稚園舎	上田カルディア会	常田2-30-17	H15. 7. 1	1	大正8年(1919)	1棟、木造2階建、瓦葺、建築面積194m ²
28 ▲		4	依水館主屋	上田市	上丸子1920	H15. 12. 1	1	大正7年(1918)	製糸社、依田社の迎賓館施設、建築面積222.27m ²
29 ▲		5	花屋ホテル	(株)花屋ホテル	別所温泉169	H18. 10. 18	19	大正7年(1918)他	19棟、木造2階建等、瓦葺
30 ▲		6	旧草間歯科医院	玉木 大・玉木洋子	常田2-29-4	H19. 7. 31	1	大正12年(1923)	1棟 木造2階建、下見板張、寄棟造、桟瓦葺、97.53m ²
31 ▲		7	飯島商店	(株)飯島商店	中央1-1-21	H19. 10. 2	3	明治27年頃(1894)他	3棟 店舗棟 木造3階建、鉄板葺、146m ² 事務所棟 木造3階建、瓦葺、231m ² 作業所棟 木造3階建、瓦葺、330m ²
32 ▲		8	信州大学織維学部資料館 (旧上田蚕糸専門学校貯蔵庫)	信州大学	常田3-15-1	H25. 6. 21	1	明治43年(1910)	煉瓦造2階建、瓦葺、建築面積67m ²
33 ▲		9	信州大学織維学部守衛所 (旧上田蚕糸専門学校門衛所)	信州大学	常田3-15-1	H25. 6. 21	1	大正元年(1912) / 昭和4・39年移築他	木造平屋建、鉄板葺、建築面積24m ²

国選択無形民俗文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
34 ▲	文形民俗文化財	1	戸沢のねじ行事	戸沢区	真田町長戸沢	H8. 11. 28	1	室町時代(伝:永正元年(1504))	「ねじ」は、縁起物などをかたどった食物
35 ▲		2	別所温泉の岳の轍行事	岳の轍保存会	別所温泉	H9. 12. 4	1	室町時代(伝:永正元年(1504))	雨乞い行事として地域的特色のある行事
36 ▲		3	八日堂の蘇民将来符頒布習俗	信濃国分寺・蘇民講	国分	H12. 12. 25	1	室町時代以降	1月7・8日に六角柱型の護符(蘇民将来符)を頒布

国重要美術品 【旧法において認定効力を保ち続けているもの】

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
22 ▲	絵画	1	板絵着色三浦屋の図	常楽寺	別所温泉2347	S16. 7. 23	1	江戸時代(享保15年 1730)	高さ116cm×横170cm
23 ▲	書	2	大般若経六百帖箱	常楽寺	別所温泉2347	S8. 7. 25	600	南北朝から室町時代	版本444帖及び写本156帖
24 ▲	書	3	紙本墨書き徳川家康日課念仏	常楽寺	別所温泉2347	S9. 5. 18	1	江戸時代(慶長17年 1612)	縦26cm×横140cm

県指定文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
37 ■	県 建 造 物 物 宝 工 芸 品 考 古 資 料 史 跡 ・ 名 勝 ・ 天 然 記 念 物	1	上田城（南櫓、北櫓、西櫓）	上田市	二の丸	S34. 11. 9	3	江戸時代初期	三棟、桁行五間二重二階建櫓、入母屋造、本瓦葺
38 ■		2	金王石造五輪塔	舞田自治会	舞田1007	S49. 11. 14	1	鎌倉時代初期	一基、高211cm
39 ■		3	西光寺阿弥陀堂	西光寺	富士山3036	S56. 12. 7	1	室町時代後期 (16世紀前半)	一棟、桁行三間(一間吹放し、梁間三間、延面積38.673m ² 、木造平屋建、入母屋造妻入、屋根柿葺
40 ■		4	生島足島神社歌舞伎舞台	生島足島神社	下之郷701	S61. 8. 25	1	明治元年(1868)	一棟、木造平屋建、屋根桟瓦葺切妻造
41 ■		5	文殊堂	天竜寺	西内6368	S63. 8. 18	1	江戸時代	間口三間、奥行四間、入母屋造、銅板葺
42 ■		6	実相院宝篋印塔	実相院	真田町傍陽5921	H3. 8. 15	1	南北朝時代 (貞治6年 1367)	總高213.5cm
43 ■		7	信濃国分寺本堂（薬師堂）	国分寺	国分1052	H9. 2. 20	1	江戸時代末期 (万延元年 1860)	一棟、桁行八間、梁間五間、单層入母屋造、屋根桟瓦葺
44 ■		8	生島足島神社本殿内殿	生島足島神社	下之郷701	H10. 10. 26	1	室町時代後期(16世紀前半から中期)	一棟、桁行柱間三間、梁間柱間二間、屋根切妻厚板張
45 ■		9	生島足島神社撰社諏訪社本殿及び門	生島足島神社	下之郷701	H14. 3. 28	2	江戸時代初期 (慶長15年 1610)	一間社流造銅板葺(元こけら葺)
46 ■		10	旧沢家住宅主屋及び客座敷	上田市	築地314-2	H17. 3. 28	7	17世紀中期～19世紀前半	主屋(木造平屋建茅葺・寄棟造)・客座敷・表門・文庫蔵・土蔵・倉庫・普請文書
47 ■		11	正保の信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S49. 11. 14	1	江戸時代初期 (正保4年 1647)	一枚、縦854cm×横464cm
48 ■		12	絹本著色綱敷天神像	常楽寺	別所温泉2347	H17. 3. 28	1	応永12年(1405)	一幅、軸刷装；画面(縦69.0cm、横36.2cm)・軸(縦169.5cm、横50.8cm)、背面道真像(綱敷天神像)
49 ■		13	木造阿弥陀如来像(附)造内納入品一括	靈泉寺	平井2541-ロ	S55. 3. 13	2	南北朝時代	寄木造、1輦、像高96cm
50 ■		14	中禪寺木造金剛力士立像	中禪寺	前山1721	H13. 3. 29	2	平安時代末	桂材(一部桧材)・寄木造、阿吽一対、像高：阿形219cm、吽形222cm
51 ■		15	太刀	上田市	上田市立博物館	S40. 1. 14	1	江戸時代末期 (弘化4年 1847)	一口、刀身97.5cm、反り2.1cm、山浦壽昌作
52 ■		16	刀	斎藤武司	個人蔵	S41. 3. 17	1	江戸時代末期 (嘉永2年 1849)	一口、刀身72.7cm、反り1.8cm、源清磨作
53 ■		17	唐沢B遺跡出土品	上田市	真田地域教育事務所	H12. 9. 21	32	縄文時代初期	石斧、尖頭器等の石器32点
54 ■		18	鳥羽山洞窟遺跡出土品	上田市	丸子郷土博物館	H19. 1. 11	247	縄文から古墳時代	恵器、石剣、銅鉈、鉄劍、鹿角装刀子、鉄製馬具等
55 ■	史 跡 ・ 名 勝 ・ 天 然 記 念 物	19	真田氏館跡	上田市ほか	真田町本原2984-1	S42. 10. 23	1	戦国時代	真田氏の真田郷在住時代の居館跡 東辺80m 西辺130m 北辺150m 南辺160m
56 ■		20	戸石・米山城跡	私所有42名	上野2505-ホほか	S44. 5. 15	2	宝町時代後期	28,818m ² 、米山城を含む
57 ■		21	塙田城跡	私所有46名	前山309ほか	S45. 4. 13	1	鎌倉から戦国時代	146,038m ²
58 ■		22	菅平唐沢岩陰遺跡	上田市東御市真田 共有財産組合	真田町長1278-937	S48. 3. 12	1		標高1240m 幅15m 奥行2m 高さ3mの岩陰
59 ■		23	菅平のツキヌキソウ自生地	菅平牧場畜産共同 組合	菅平高原1298-228 ほか	S35. 2. 11	1		スイカズラ科ツキヌキソウ属 多年草 高さ70～90cm
60 ■		24	小泉・下塙尻・南条岩鼻の モイワナズナ等	法人3及び私所有 8名	小泉2675-1ほか	S49. 1. 17	2		104,389m ² (うち上田市783,960m ²)、モイワナズナ(アフタ科)が生 育、シンパク・シモフリナデシコが自生、チョウダンボウ(ハヤブサ 科)が生息
61 ■		25	小泉のシナノイルカ	高仙寺	小泉2075	S49. 11. 14	1	約1,400万年前	化石、長さ1.2m

市指定文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
62 ●	有 形 文 化 物 財	1	荒神宮本殿	荒神宮	諏訪町466	S43. 4. 25	1
63 ●		2	石造五輪塔（二基）	下塙尻自治会	下塙尻392-5	S43. 4. 25	2
64 ●		3	頤行寺四脚門	頤行寺	中央2-16-14	S43. 4. 25	1
65 ●		4	上田藩主居館表門及び土塀・濠・土塁	長野県	大手1-4-32	S44. 5. 9	1
66 ●		5	靈泉寺五輪塔	靈泉寺	平井2541-ロ	S45. 1. 1	1
67 ●		6	竹の花五輪塔	成沢しげ子	生田3347	S45. 1. 1	1
68 ●		7	奈良尾石造多重塔（弥勒仏塔）	奈良尾自治会	富士山	S45. 6. 5	1
69 ●		8	信濃国分寺石造多宝塔	国分寺	国分1052	S46. 4. 8	1
70 ●		9	安楽寺経蔵（附）八角輪蔵	安楽寺	別所温泉2361	S46. 6. 5	2
71 ●		10	中原宝篋印塔	中原区	真田町本原 中原	S47. 4. 1	1
72 ●		11	安良居神社本殿	上丸子区	上丸子1924-イ	S47. 7. 1	1
73 ●		12	中禪寺石造五輪塔	中禪寺	前山1721	S48. 4. 9	1
74 ●		13	東昌寺鐘楼	東昌寺	浦野571	S49. 6. 5	1
75 ●		14	尊正塙宝篋印塔	半田清重ほか	真田町傍陽穴沢	S50. 10. 1	1
76 ●		15	日吉社の社殿	大宮諏訪神社氏子	下武石809	S51. 6. 19	1
77 ●		16	南方薬師堂	南方区	塙川706-3	S52. 11. 28	1
78 ●		17	小泉大日堂	高仙寺	小泉2075	S56. 4. 8	1
79 ●		18	宗吽寺石幢	宗吽寺	中央2-14-6	S57. 4. 13	1
80 ●		19	塙野神社廻り舞台	保野自治会	保野429	S58. 4. 8	1

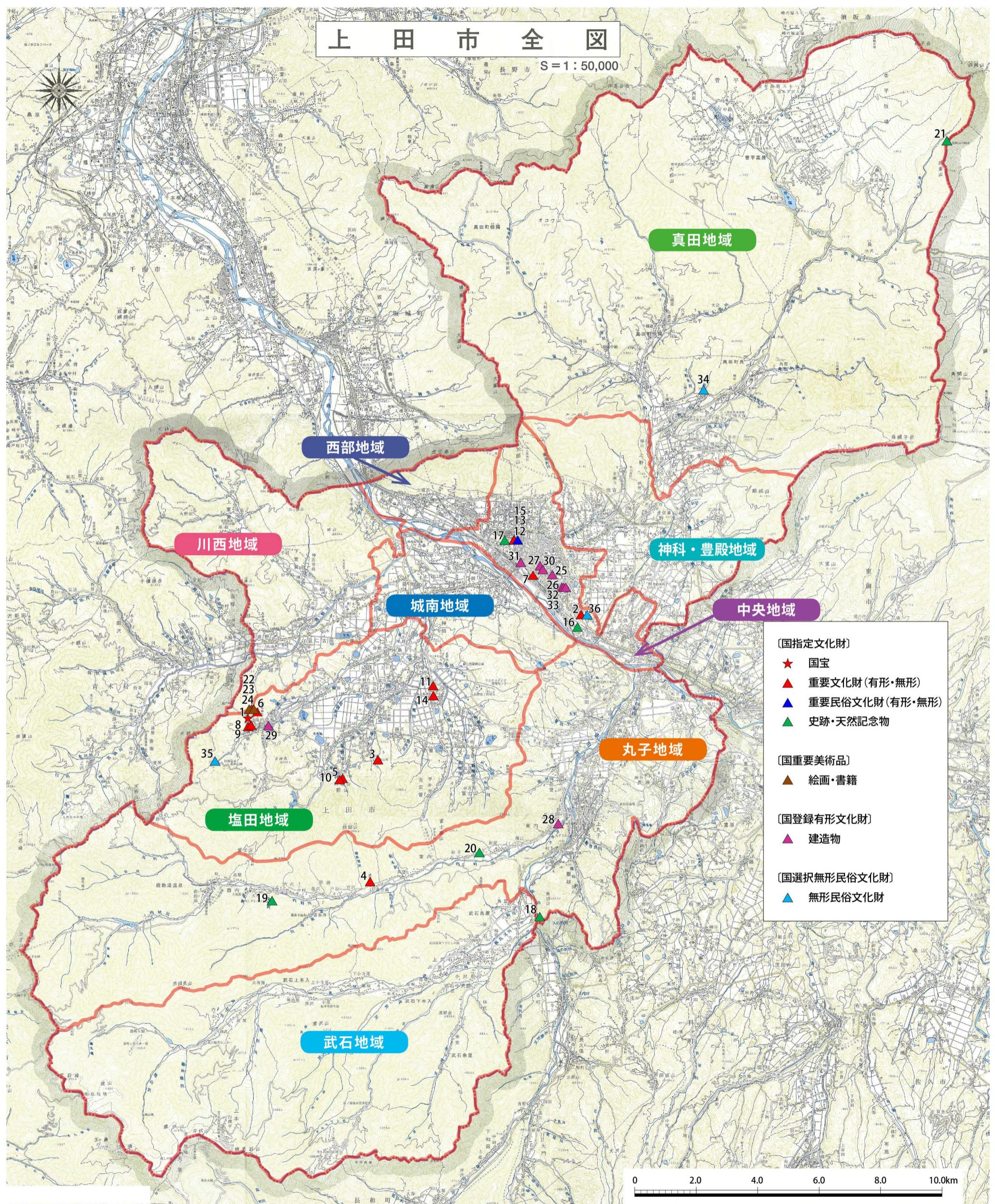
図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所 在 地	指 定 年 月 日	員 数
81 ●	有形物	20	荒神宮石造五輪塔	荒神宮	諫訪町466	S59. 4. 9	1
82 ●		21	常楽寺石造多層塔	常楽寺	別所温泉2347	S59. 4. 9	1
83 ●		22	安曾甚太夫五輪塔	関田 博	古安曾3552-1	S59. 4. 9	2
84 ●		23	上田原石造五輪塔	倉井 勲	上田原712-5	S61. 6. 5	1
85 ●		24	太郎山神社本殿	太郎山並太郎山神社保存会	上田2962	H1. 10. 9	1
86 ●		25	妙見寺 鳴龍	妙見寺	下武石654-2	H1. 12. 20	1
87 ●		26	五加八幡神社石燈籠	五加自治会	五加912	H2. 2. 20	1
88 ●		27	塙野神社拝殿及び本殿	東・西前山両自治会	前山1681	H3. 9. 12	2
89 ●		28	平井諫訪神社奉納殿	西内崇敬会	平井1090	H4. 3. 26	1
90 ●		29	旧上田市立図書館	上田市	大手2-8-2	H5. 2. 3	1
91 ●		30	旧宣教師館	上田市	下之郷812	H5. 5. 6	1
92 ●		31	別所神社本殿	別所神社	別所温泉2338	H6. 11. 1	1
93 ●		32	カネタの煙突	土屋勲彦	上丸子404	H7. 8. 29	1
94 ●		33	常楽寺本堂	常楽寺	別所温泉2347	H9. 4. 9	1
95 ●		34	全芳院本堂	全芳院	腰越81	H17. 1. 28	1
96 ●		35	依水館客殿及び玄関	上田市	上丸子1920	H18. 1. 27	2
97 ●		36	笠原工業常田館製糸場	笠原工業(株)	常田1-10-3	H22. 2. 19	8
98 ●		37	飯沼郷藏	飯沼自治会	生田5257-1	H28. 4. 20	1
99 ●		38	旧千曲会館	信州大学	常田3-15-1	H28. 6. 22	1
100 ●	絵画	37	紙本着色花鳥人物屏風	竜光院	前山1553	S44. 6. 5	2
101 ●		38	板絵着色劉備擅涇渡河の図	常楽寺	別所温泉2347	S47. 6. 8	1
102 ●		39	板絵着色踊り念仏と六歌仙図	常楽寺	別所温泉2347	S47. 6. 8	1
103 ●		40	絹本着色聖観音画像	常楽寺	別所温泉2347	S48. 4. 9	1
104 ●		41	絹本着色染明王画像	常楽寺	別所温泉2347	S48. 4. 9	1
105 ●		42	絹本着色藤娘と鬼の念仏絵	常楽寺	別所温泉2347	S52. 3. 18	1
106 ●		43	板絵着色絵馬富士の巻狩り	富士嶽神社	富士山14556-ハ	S55. 4. 8	1
107 ●		44	仏生誕・涅槃図	藤原田区	藤原田389	S57. 3. 14	2
108 ●		45	絹屋町八幡社絵馬	上田市	上田市立博物館	S60. 9. 6	2
109 ●		46	銅造善光寺如来一光三尊立像	願行寺	中央2-16-14	S43. 4. 25	3
110 ●		47	長泉寺板碑	長泉寺	中丸子1179-1	S45. 1. 1	1
111 ●		48	聖観音立像	小沢根区	武石小沢根336	S46. 2. 15	1
112 ●		52	木造僧形坐像	横沢区	角間観音堂	S47. 4. 1	1
113 ●		53	尾野山木造千手観音立像	尾野山区	生田532	S47. 7. 1	1
114 ●		54	木造阿弥陀如来立像	芳泉寺	常磐城3-7-48	S49. 6. 5	1
115 ●		55	南方荒野板碑	吉池善一	塙川816	S53. 12. 27	2
116 ●		56	石造大姥坐像	富士嶽神社	富士山14556-ハ	S55. 4. 8	1
117 ●		57	木造獅子頭	塙野神社	前山1681	S55. 4. 8	2
118 ●		58	木造狛犬	生島足島神社	下之郷701	S55. 4. 8	2
119 ●		59	木造薬師如来立像	馬背神社	浦野公民館	S56. 2. 6	1
120 ●		60	木造狛犬	馬背神社	浦野公民館	S56. 3. 6	2
121 ●	刻印	49	弥勒菩薩坐像	鳥屋区		S46. 2. 15	1
122 ●		50	木造馬頭観音坐像	実相院	真田町傍陽5921	S47. 4. 1	1
123 ●		51	木造十一面観音立像	実相院	真田町傍陽5921	S47. 4. 1	1
124 ●		61	木製鬼板	手塚八幡社	手塚公民館	S56. 3. 6	2
125 ●		62	藤原田木造千手観音坐像	藤原田区	藤原田272	S57. 3. 14	1
126 ●		63	木造狛犬	塙野神社	保野429	S57. 4. 13	2
127 ●		64	双体道祖神	鳥屋区		H6. 3. 18	1
128 ●		65	掌菩薩惡の碑	妙見寺	下武石654-2	H6. 3. 18	2
129 ●		66	石鐘	正念寺	下武石396	H6. 3. 18	1
130 ●		67	木造菩薩立像	願行寺	中央2-16-14	H6. 11. 1	1
131 ●		68	木造阿弥陀如来坐像	耕雲寺	真田町傍陽11436	H12. 4. 26	1
132 ●		69	西光寺金剛力士像	西光寺	富士山3036	H13. 9. 13	2
133 ●		70	銅製鰐口	観音寺	上田原204	S43. 4. 25	1
134 ●		71	銅製雲板	陽泰寺	上田市立博物館	S43. 4. 25	1
135 ●		72	灰釉四耳壺	深区神社	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
136 ●		73	褐色鍼唐冠崩し当世具足	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
137 ●		74	紺糸鍼白熊毛当世具足	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所 在 地	指 定 年 月 日	員 数
138 ●		75	沓掛家職人資料	沓掛信敏	上田市立博物館	S45. 5. 11	49
139 ●		76	銅製鰐口	中禪寺	前山1721	S45. 6. 5	1
140 ●		77	紺糸鍼金剛力士頭当世具足	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	1
141 ●		78	木造百万塔	常楽寺	別所温泉2347	S48. 4. 9	1
142 ●		79	銅製御正躰(懸仮)	高仙寺	小泉2075	S49. 6. 5	1
143 ●		80	銅製孔雀文磬	高仙寺	小泉2075	S49. 6. 5	1
144 ●		81	東昌寺僧具	東昌寺	浦野571	S53. 4. 8	7
145 ●		82	銅製御正躰	日輪寺	中央2-14-3	S54. 4. 9	1
146 ●		83	鉄製湯釜	生島足島神社	下之郷701	S55. 4. 8	6
147 ●		84	刀 糸巻太刀拵付	菅平区		S56. 6. 26	2
148 ●		85	銅製陣鐘	依田赳夫	上田市立博物館	S58. 4. 8	1
149 ●		86	銅製鉦鼓	荒井区	真田中央公民館	H8. 6. 25	1
150 ●		87	銅製雲板	丸山咲男	上田市立博物館	H8. 6. 25	1
151 ●		88	銅製十一面觀音像御正体	三島神社氏子	真田町傍陽3385	H20. 6. 24	1
152 ●		89	佐久間象山書五反幟	五加八幡社	五加912	S44. 6. 5	2
153 ●		90	加賀白雄自筆画賛屏風	小林智恵子	上田市立博物館	H2. 2. 20	1
154 ●		91	加賀白雄自筆酒中仙屏風	小林智恵子	上田市立博物館	H2. 2. 20	1
155 ●		92	海野町柳沢家日記(本陣日記)	柳沢暢宏	上田市立博物館	S44. 5. 9	146
156 ●		93	原町滝沢家日記(問屋日記)	滝沢助右衛門	上田市立博物館	S44. 5. 9	157
157 ●		94	元禄信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
158 ●		95	黄檗版藏經	安樂寺	別所温泉2361	S44. 6. 5	7334
159 ●		96	紙本墨書武田信玄の朱印状	塙野神社	前山2261	S45. 6. 5	1
160 ●		97	紙本墨書武田勝頼の朱印状	前山寺	前山300	S45. 6. 5	1
161 ●		98	紙本墨書開善寺宛武田信玄判物	海禪寺	上田市立博物館	S54. 4. 9	1
162 ●		99	紙本墨書開善寺宛武田信玄寄進状	海禪寺	上田市立博物館	S54. 4. 9	1
163 ●		100	紙本墨書武田信玄朱印状	向源寺	常盤城2-9-2	S54. 4. 9	1
164 ●		101	紙本墨書武田信玄朱印状(西光寺宛)	西光寺	富士山3036	S55. 4. 8	1
165 ●		102	紙本墨書武田信玄朱印状(小泉家)	小泉重幸	小泉1438	S55. 4. 8	1
166 ●		103	野倉惣帳	野倉自治会	上田市野倉 民俗資料館	S56. 3. 6	1
167 ●		104	信濃国分寺勘定帳	国分寺	国分1049	S57. 4. 13	11
168 ●		105	天保信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S58. 4. 8	15
169 ●		106	真田氏文書	山家神社・信綱寺・実相院・上田市	真田町長4473-口2ほか	S59. 8. 31	17
170 ●		107	上田藩村明細帳	横関武夫	上田市立博物館	S61. 6. 5	77
171 ●		108	午頭天王祭文	国分寺	信濃国分寺資料館	H7. 12. 7	1
172 ●		109	真田氏給人知行地検地帳	洁水 潤	真田地域教育事務所	H11. 3. 26	1
173 ●		110	安樂寺蘭溪道隆尺牘	安樂寺	別所温泉2361	H17. 9. 28	1
174 ●		111	小山真夫調査野帳	小山 直		S50. 11. 13	26
175 ●		112	赤松小三郎佩刀	上田市	上田市立博物館	S58. 4. 8	1
176 ●		113	岩谷堂法藏寺奉加帳	宝蔵寺	御嶽堂84	H9. 12. 24	1
177 ●		114	藏前の大桙	桜井 章	別所温泉184-1	H24. 10. 19	1
178 ●		115	石器	滝沢のぶ子		S50. 10. 1	614
179 ●		116	巴形銅器	小山 直		S50. 11. 13	1
180 ●		117	雁石遺跡魚形土製品	上田市	真田教育事務所	H10. 6. 30	1
181 ●		118	銅三尊仏	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
182 ●		119	銅印	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
183 ●		120	鉄鑿	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
184 ●		121	鉄矛	上田市	信濃国分寺資料館	H27. 7. 23	1
185 ●	無形文化財	芸能	122 尾野山三頭獅子	尾野山区無形文化財保存会	生田2041-1	S51. 7. 30	1
186 ●		123	尾野山式三番叟	尾野山区無形文化財保存会	生田字尾野山	S53. 12. 27	1
187 ●		124	腰越諏訪神社御柱祭御練り	腰越御練り保存会	腰越138	H4. 3. 26	1
188 ●		125	依田神社大神楽獅子舞	御嶽堂依田神社大神楽保存会	御嶽堂字上組	H5. 8. 19	1
189 ●	民俗文化財	有形民俗文化財	126 蘇民将来符	国分寺及び檀信徒	国分1052ほか	S43. 4. 25	1
190 ●		127	八日堂縁日図	国分寺	国分1049	S43. 4. 25	1
191 ●		128	板碑	佐藤邦子	上田市立博物館	S44. 5. 9	10
192 ●		129	藤本蚕種株式会社保存蔵標本	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	2500
193 ●		130	浜村家能面狂言面	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	70
194 ●		131	能衣装上田縞小格子厚板	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	1

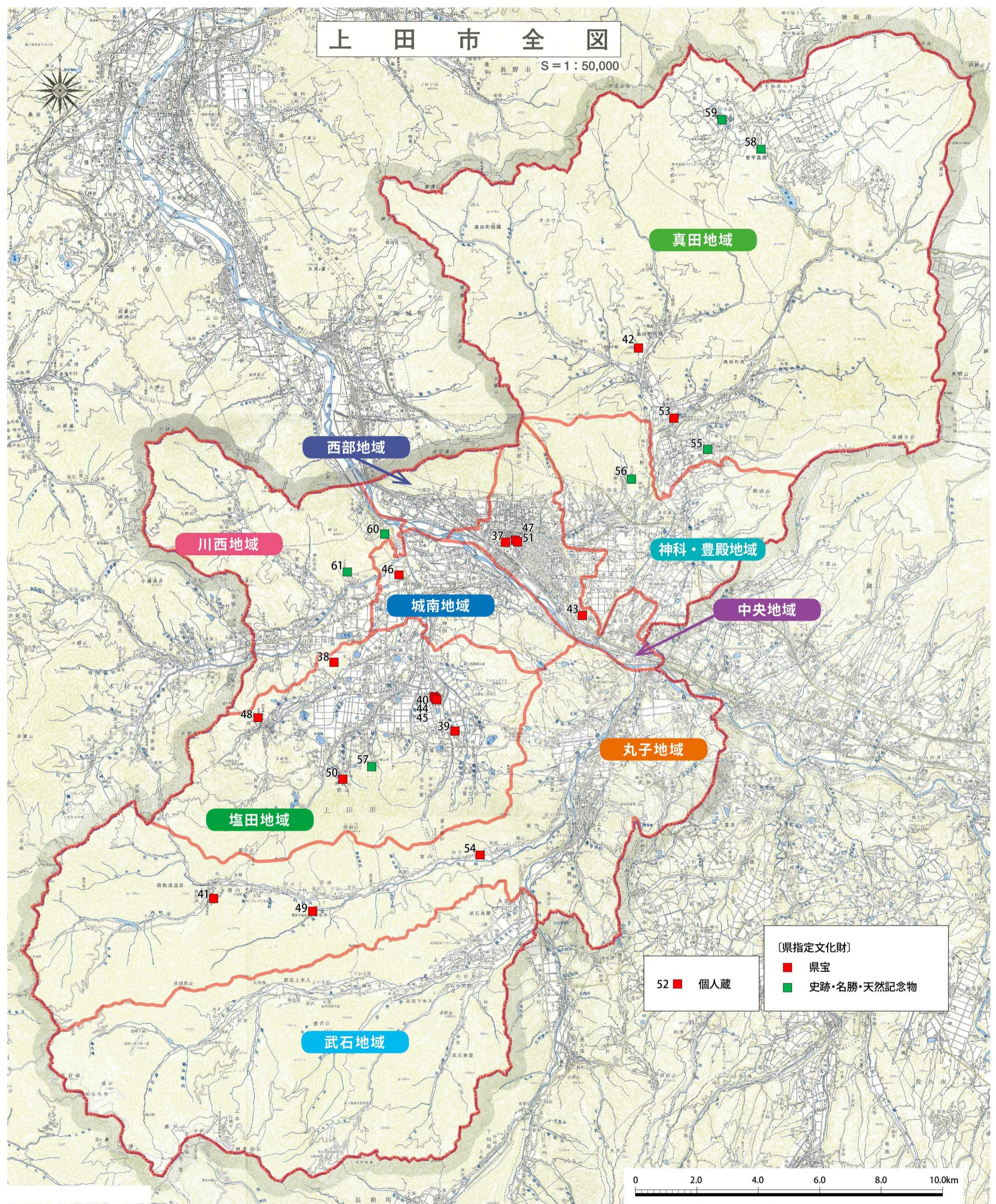
図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所 在 地	指 定 年 月 日	員 数
195 ●	民 俗	132	五位塚の板碑	上室賀自治会	上室賀1109-口	S47. 4. 1	3
196 ●		133	円座	内藤良典	芳田 蚕影神社	S55. 4. 8	1
197 ●		134	男石神社絵馬	赤坂自治会	赤坂公民館3995	S58. 4. 8	71
198 ●		135	地芝居引幕	野倉自治会	野倉718	S61. 6. 5	6
199 ●		136	お舟の天王山車	海野町自治会	中央 伊勢宮神社	S61. 8. 5	1
200 ●		137	下丸子釈迦涅槃図	下丸子区	下丸子325	H16. 8. 29	1
201 ●		138	祇園祭礼屏風	上田市	上田市立博物館	H15. 10. 9	2
202 ●		139	三島神社の円座	三島平区	真田町傍陽三島平	H18. 1. 27	3
203 ●		140	常田獅子	常田獅子保存会	常田区	S43. 4. 24	1
204 ●		141	房山獅子	房山獅子保存会	上・下川原柳区	S43. 4. 24	1
205 ●		142	岳の轍	岳の轍保存会	別所温泉	S44. 6. 5	1
206 ●		143	保野の祇園祭	保野祇園祭保存会	保野	S44. 6. 5	1
207 ●		144	子檀嶺神社御柱祭行事	子檀嶺神社氏子		S46. 2. 15	1
208 ●		145	三ヶ頭獅子	旧上原区三ヶ頭獅子保存会		S54. 5. 1	1
209 ●		146	水上王子神社大神楽獅子舞	水上王子神社神楽保存会	新町	S56. 3. 6	1
210 ●		147	前山三頭獅子	東前山獅子保存会	前山	H1. 3. 8	1
211 ●		148	上室賀三頭獅子	室賀水上神社三頭獅子ささら保存会	上室賀	H5. 2. 3	1
212 ●		149	下室賀三頭獅子	下室賀自治会	下室賀	H5. 5. 6	1
213 ●		150	太郎山神社太々神楽	太郎山神社太々神楽保存会	常磐城 太郎山神社	H7. 12. 7	1
214 ●		151	下之郷三頭獅子	下之郷三頭獅子舞保存会	生島足島神社	H11. 2. 9	1
215 ●		152	横道の十九夜講	横道三区	真田町傍陽横道	H12. 4. 26	1
216 ●		153	一心神社祭典行事	一心神社氏子	武石上本入下小寺尾	H13. 12. 20	1
217 ●	史 跡	154	赤坂将軍塚古墳	赤坂自治会	赤坂1340	S43. 4. 24	1
218 ●		155	二子塚古墳(前方後円墳)	二子神社	上田2498	S43. 4. 25	1
219 ●		156	下青木吉田原古墳	下青木自治会	蒼久保1557-口	S44. 5. 9	1
220 ●		157	秋和大藏京古墳	豊秋霧原野神社	秋和1391	S44. 5. 9	1
221 ●		158	活文禪師遺跡1号 犀沙門堂	上田市	常田2-21-18	S44. 5. 9	1
222 ●		159	活文禪師遺跡2号 龍洞院敷地及び遺墨・遺品・文書	龍洞院	蒼久保232	S44. 5. 9	1
223 ●		160	活門禪師遺跡3号 岩門大日堂跡	岩門自治会	岩門	S44. 5. 9	1
224 ●		161	辰ノ口高塚	青木一之	東内194-3	S45. 1. 1	1
225 ●		162	小松姫(真田信之室)の墓	芳泉寺	常盤城3-7-48	S45. 5. 11	1
226 ●		163	岩谷堂岩窟古墳	宝蔵寺	御嶽堂92	S46. 3. 1	1
227 ●		164	王子塚古墳	王子神社	新町9	S46. 4. 8	1
228 ●		165	寒松院(真田昌幸室)の墓	大輪寺	中央北1-2231	S46. 4. 8	1
229 ●		166	岡城跡	水沢武彦氏他14名	岡及び新町	S47. 4. 1	1
230 ●		167	広山寺古墳	広山寺	本原2205	S47. 4. 1	1
231 ●		168	真田氏本城跡	十林寺区ほか	長4914-1ほか	S47. 4. 1	1
232 ●		169	松尾城跡	横沢区ほか	長2473-ハほか	S47. 4. 1	1
233 ●		170	天白城跡	赤井区ほか	本原3903ほか	S47. 4. 1	1
234 ●		171	横尾城跡・内小屋城跡	横尾区ほか	長6674ほか	S47. 4. 1	2
235 ●		172	恨小屋城跡	曲尾区ほか	傍陽11553-1ほか	S47. 4. 1	1
236 ●		173	洗馬城跡	中村今朝英ほか	傍陽5911-1ほか	S47. 4. 1	1
237 ●		174	真田幸隆・昌幸の墓	長谷寺	真田町長4646	S47. 4. 1	3
238 ●		175	真田信綱の墓	信綱寺	真田町長8100	S47. 4. 1	2
239 ●	天 然	176	他田塚古墳	上田市	下之郷812-44	S47. 6. 8	1
240 ●		177	新屋古墳	湯本睦雄	上野792-イ-ニ	S48. 4. 9	1
241 ●		178	皇子塚古墳	八幡社氏子会	手塚480-2	S48. 4. 9	1
242 ●		179	日向烟遺跡	上田市	真田町長2536	S50. 4. 1	1
243 ●		180	藤沢古墳1号・2号	横沢文二・柳沢治男	長2536	S50. 10. 1	2
244 ●		181	塚穴原第1号古墳	上田市	下之郷812-54	S53. 4. 8	1
245 ●		182	赤松小三郎遺髪の墓	月窓寺	中央6-4-13	S53. 4. 8	1
246 ●		183	成沢寛経翁奥城(墓)	日輪寺	中央2-14-3	S53. 4. 8	1
247 ●		184	竹内善吾武信の墓	呈蓮寺	中央2-7-3	S53. 4. 8	1
248 ●		185	神宮寺古墳	岸田寛道	下室賀1640	S55. 4. 8	1
249 ●		186	東馬焼窯跡	林 義男	古安曾	S56. 3. 6	1
250 ●		187	仙石家靈廟	芳泉寺	常盤城3-7-48	S56. 4. 8	2
251 ●		188	仙石家本陽寺墓所	本陽寺	中央6-3-3	S56. 4. 8	1

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所 在 地	指 定 年 月 日	員 数
252 ●		189	矢花の七つ塚	竹花一雄他2名	上野	S57. 4. 13	4
253 ●		190	畠山発電所跡	香山祐三郎	畠山2558～2560-2番地	S57. 4. 13	1
254 ●	史 跡	191	弘長三年光明寺建立碑	長谷寺	真田町長4646	S58. 3. 7	1
255 ●		192	岩井觀音堂再建碑	長谷寺	真田町長4646	S58. 3. 7	1
256 ●		193	塚穴古墳	赤坂自治会	殿城4916	S58. 4. 8	1
257 ●		194	舟雀古墳群	上田市	諏訪形字西山	S60. 9. 6	5
258 ●		195	タタラ塚古墳	長野県	諏訪形字東山	S63. 3. 7	1
259 ●		196	徳邦和尚火定の跡	大円寺	富士山4231-口	H1. 3. 8	1
260 ●		197	中山城跡	小沢根区		H13. 12. 20	1
261 ●		198	浦野城跡・御射山祭広庭跡	地元所有者ほか	浦野962ほか31筆	H23. 2. 8	7
262 ●		199	岩屋觀音洞窟	横沢区	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
263 ●		200	シンの牢	国(東信森林管理所)	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
264 ●	名 勝	201	鬼の門	国(東信森林管理所)	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
265 ●		202	アラ板の岩壁とネンボウ岩	国(東信森林管理所)	真田町長 角間	S54. 5. 1	2
266 ●		203	天狗の欄干	国(東信森林管理所)	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
267 ●		204	鬼ヶ城	国(東信森林管理所)	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
268 ●		205	鴻の巣	上田市	富士山1959-1	H10. 11. 18	1
269 ●		206	科野大宮社社叢	科野大宮社	常入768	S44. 5. 9	1
270 ●		207	大星神社社叢	大星神社	上田2480	S44. 5. 9	1
271 ●		208	枕状溶岩露出地	上田建設事務所	東内西畠付近一帯	S46. 3. 1	1
272 ●		209	菅平湿原のクロサンショウウオ		菅平高原	S47. 4. 1	1
273 ●		210	大日向の二形カエデ	野村勝太郎	長519	S47. 4. 1	1
274 ●	天 然	211	穴沢彈正塚の一本松	半田清重ほか	傍陽	S47. 4. 1	1
275 ●		212	下小寺尾のカツラの木	宮下一太郎		S47. 4. 27	1
276 ●		213	大宮諏訪神社のサワラの木	大宮諏訪神社氏子		S47. 4. 27	1
277 ●		214	武石	信廣寺・上田市		S47. 4. 27	1
278 ●		215	ナンジャセンジヤの木	上塙尻自治会	上塙尻1409-イ-1	S48. 4. 9	1
279 ●		216	愛染カツラ	常楽寺	別所温泉1666	S49. 6. 5	1
280 ●		217	出早雄神社社叢	下原・上原・大畠区		S50. 10. 1	1
281 ●		218	駒形神社のトチの木	余里区		S51. 6. 19	1
282 ●		219	天神宮のケヤキ	岩下自治会	岩下117	S52. 3. 18	2
283 ●		220	高仙寺参道並木	高仙寺	小泉2075	S54. 4. 9	1
284 ●	記 念 物	221	前山寺参道並木	上田市	前山300	S54. 4. 9	1
285 ●		222	石割りのオナシ	上田市		S54. 5. 1	1
286 ●		223	信広寺のシダレザクラ	信廣寺		S54. 10. 24	1
287 ●		224	大布施のヒガンザクラ	橋詰清門		S54. 10. 24	1
288 ●		225	南方荒野ビャクシン	吉池善一	塙川816	S55. 4. 26	2
289 ●		226	菅平口の枕状溶岩	一之瀬草ほか	長1221-1ほか	S57. 1. 20	1
290 ●		227	山家神社社叢	山家神社	真田町長4473-口2	S57. 3. 2	1
291 ●		228	番匠のカツラ	荻原栄次	本原394	S58. 7. 15	1
292 ●		229	桑の木	上田市	材木町1-2-47	S60. 9. 6	1
293 ●		230	大笹街道のシナノキ群	菅平牧場畜産協同組合ほか	菅平高原 大笹街道	S63. 12. 20	5
294 ●	物	231	緑簾石	上田市		H1. 12. 20	1
295 ●		232	大穴のケヤキ	石神自治会	古安曾2047-口	H4. 5. 13	1
296 ●		233	岩谷堂エドヒガン	宝蔵寺	御嶽堂84	H9. 12. 24	1
297 ●		234	ちがい石の産地	(宗)前山寺・東前山生産森林組合	前山308・轟挾2255-1	H10. 5. 15	2
298 ●		235	ニホンオオカミの頭骨	上田高等学校	大手1-4-32	H18. 2. 16	1
299 ●		236	マダラヤンマ及びその生息地	上田市	富士山4957-1砂原池	H18. 2. 16	2

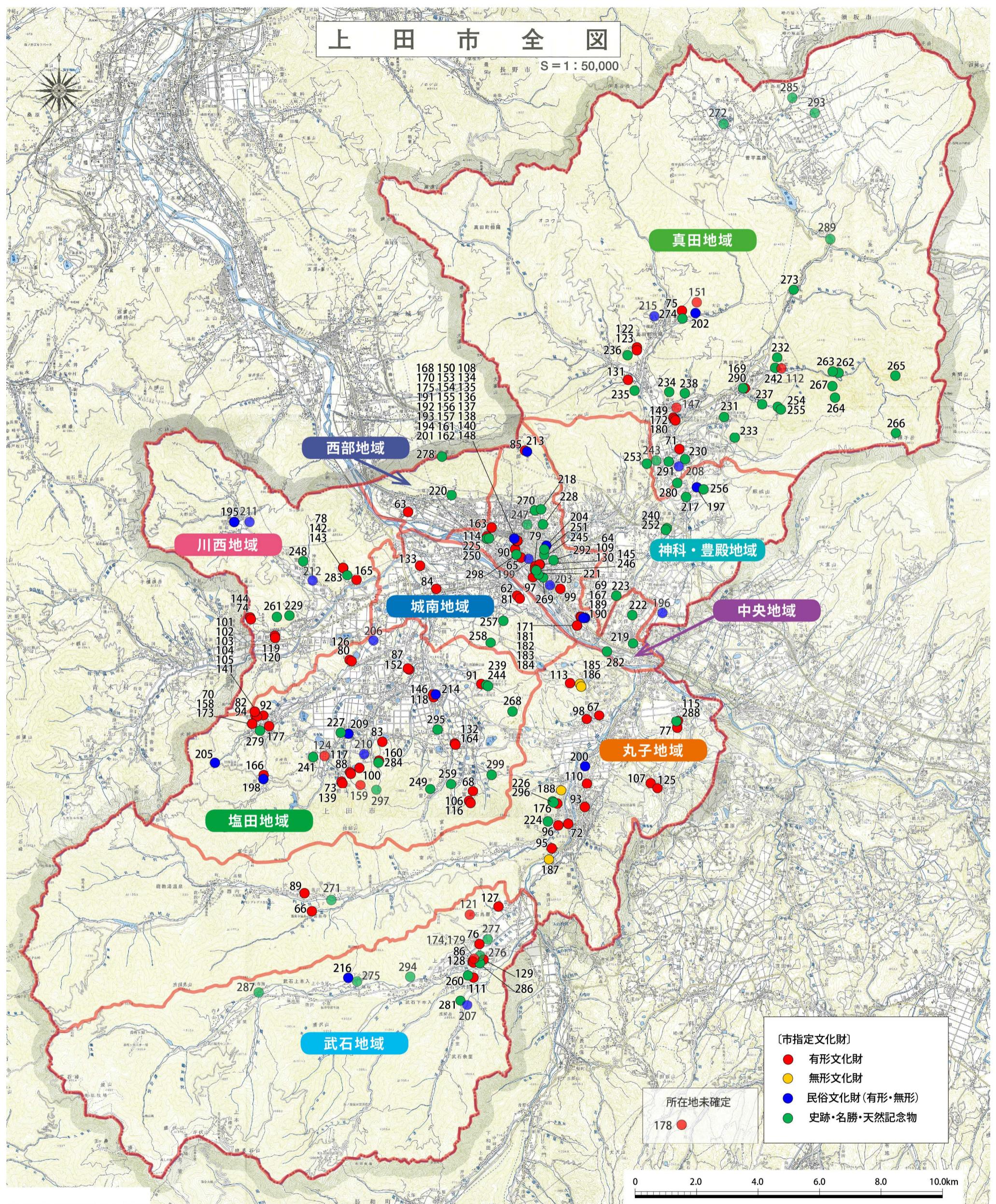
国指定・登録等文化財分布図



県指定文化財分布図



市指定文化財分布図



(2) 現状と課題

地域内分権と文化財保護

平成18年の上田・丸子・真田・武石の1市2町1村の市町村合併により、教育委員会事務局も統合された。それぞれにあった文化財保護部局も再編され、現生涯学習・文化財課が旧上田地域を担い、旧町村には教育事務所が設置され、各地域の文化財保護をそれぞれ担うこととなった。その後、業務の見直しがなされ、国指定文化財については、補助事業の関係からすべて生涯学習・文化財課が、県・市の指定文化財と未指定文化財については各教育事務所が分担して担当することとした。

現在、各地域の教育事務所は、地域公民館の役割の多忙や文化財専門職の不在により、地域で文化財保護することが困難となりつつある。

地域や種類における偏在

文化財件数を、地域別にみると中央と塩田、真田地域に多く、城南や神科豊殿、武石地域が少ない。種別では、建造物や美術工芸品、史跡が多く、天然記念物が少ない傾向にある。

中央地域には、前述のとおり信濃国分寺(跡)〔国・県・市〕、上田城跡〔国〕、旧常田館製糸場施設〔国〕と、各時代を代表する文化財が数多く遺る事に加え、上田市立博物館と信濃国分寺資料館があるため、文化財が集約されていることが要因としてあげられる。塩田地域は仏教文化財、真田地域は真田氏関係や山城を中心に指定が多い。

文化財件数（地域別）

地域名 \ 種別	国指定	県指定	市指定	国登録	国選択	地域別合計
中央地域	7	4	60	7	1	79
西部地域			8			8
神科・豊殿地域		1	7			8
城南地域		1	6			7
塩田地域	12	8	53	1	1	75
川西地域		2	16			18
丸子地域	4	3	25	1		33
真田地域	1	5	42		1	49
武石地域			17			17
その他（個人）		1	4			5
	24	25	238	9	3	299

第3章 文化財把握の方針

1 文化財調査の履歴（報告書名・刊行年・内容・編著者）

（1）旧上田市調査

- ・上田市条里遺構分布調査・1973～1976・条里遺構と水路の分布調査・上田市教育委員会
- ・上田市の原始・古代文化・1974・埋蔵文化財分布調査・上田市教育委員会
- ・上田市神楽調査報告書・1976・市内の神楽について・上田民俗研究会
- ・上田市近代建築調査・1995・近代洋風建築の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・上田市民家調査・1996・上田市の民家 50 棟の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・上田市誌・1999～2004・上田市の自然、歴史、民俗・上田市誌編さん委員会
- ・上田市社寺建築調査・2003～2006 年度・社寺 230 棟の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・川西の石造文化財

（2）旧丸子町調査

- ・丸子町条里的遺構分布調査・1982・条里遺構と水路の分布調査・丸子町教育委員会
- ・丸子町誌・1992・丸子町の自然、歴史、民俗・丸子町誌編纂委員会

（3）旧真田町調査

- ・真田町誌・1997～2002・真田町の自然、歴史、民俗・真田町誌編纂委員会

（4）旧武石村調査

- ・武石村誌・2000・武石村の自然、歴史、民俗・武石村誌刊行会
- ・武石の石造文化財

（5）全県調査に伴うもの

- ・長野県石碑目録・1990・県内の石碑所在調査・長野県教育委員会
- ・長野県歴史の道調査報告書・1978～1995・県内の古代から近世までの道の調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近代化遺産・2009・長野県近代化遺産(建造物等)総合調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近世社寺建築第一次調査報告書・2002・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近世社寺建築第二次調査報告書・1991・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会

- ・長野県の近世社寺建築・1982・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の民俗芸能・1995・長野県民俗芸能緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の諸職・1990・長野県諸職関係民俗文化財調査・長野県教育委員会
- ・長野県方言緊急調査報告書・1986・長野県の方言調査・長野県教育委員会
- ・長野県の民謡・1984・長野賢の民謡緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県選択無形民俗文化財調査報告「味の文化財」・1984・郷土食の調査・長野県教育委員会
- ・長野県の中世城館跡・1983・長野県内の山城の分布調査報告書・長野県教育委員会

2 実施中の文化財調査

上田市を特徴付ける文化財として、信濃国分寺以来の仏教文化財、中世戦国期の城郭群、そして蚕都上田の文化遺産がある。このうち、城郭群については、長野県や宮坂武男氏の悉皆調査があったが、仏教文化財と蚕都上田の文化遺産についての悉皆調査は実施されていなかった。

今回、調査研究が中世で止まっている仏教文化財、中でも盜難の被害が出ている仏像と、取壊しや空き家化が進む養蚕家屋群について悉皆調査を実施している。

(1) 仏教文化財(仏像)調査

上田市の仏教文化財については、古代から中世室町初期あたりまではある程度の調査研究が進んでいたが、以降の時期については、不明な点が多くかった。この要因としては、信濃国分寺や塩田平における古代から中世仏教文化財の質・量ともの豊富さと先学の調査により、特に近世の仏像については調査研究の対象となってこなかったことが挙げられる。

今回、上田市の仏教文化財、特に仏像について実践女子大学の武笠朗教授と本委員会の小倉絵里子委員を中心に市内の寺院やお堂に所在する仏像の悉皆調査を実施している。

(2) 蚕都上田に関わる養蚕家屋等調査

蚕都上田の繁栄を示す文化財として、旧常田館製糸場施設〔国〕をはじめ、信州大学織維学部の建物群などが挙げられる。しかし、製糸工場に繭を供給し、繁栄を支えた養蚕農家の家屋や遺構の悉皆調査はなされてこなかった。これは、かつてはどの地域に行っても当たり前に遍在していたことにより、文化財としての意識や、消滅の危機感が乏しかったことによるものと思われる。

今回、駒澤大学講師で本委員会の太田喜美子委員を中心に、駒澤大学博物館講座修了生により、近代和風建築調査と連動して、昭和20年までの建物の所在調査と、典型例の聞き取り調査を実施している。

3 今後実施すべき文化財調査

(1) 指定の指標づくりに向けた調査

社寺建築調査

社寺建築については仏教文化財と同じく、中世建造物と幕末から近代にかけての立川流や上田出身の竹内八十吉の作品に偏り、近世後期の建物については調査の手が入っていないのが実態である。旧上田市では、平成15~17年度にNPO法人信州伝統的建造物保存技術研究会に委託して、社寺230棟の概要調査を実施しているほか、旧町村の町村誌編纂に際して調査はしているが、今後、建物の老朽化による建て替えや、維持管理の困難さから取り壊しも予想されるため、以前の成果をもとに、補足調査を実施して、指定による保護措置を検討すべきである。

仏教文化財(仏像)調査

平成30年度に、ひととおりの調査は完了する予定であるが、調査した仏像の中に、古代や中世に遡る可能性がある仏像が10点以上確認されている。この詳細な再調査を要する。

(2) 早急に行うべき記録等の調査

地域の習俗や年中行事等の伝統文化

地域コミュニティの充実は、地域内分権においても重要な課題として取り上げられており、自治会を中心にその維持や発展に努力されているが、住民の高齢化や過疎化により、徐々に解体している傾向もある。地域の習俗や伝統についても、これと軌を一にして消滅の危機にある。

市町村誌編纂過程において、一定の調査は実施しているが、その成果をまとめた調査報告書がないため、改めてこれを点検し、調査報告書にまとめ、必要な追加調査を実施する必要がある。

仏教文化財(仏像)調査

(完了予定)

蚕都上田に関わる養蚕家屋等調査

(完了予定)

石造文化財調査

上田市は古代東山道以来、中世鎌倉道、近世街道など交通の要衝として発展してきた。その道筋に沿っては道標や道祖神、馬頭観音など、交通に関する石造文化財が数多く存在している。これらの石造文化財は、近年の道路改良等で原位置から移動したり、一箇所への集約がされている。

また、地域の講や信仰に基づく石造文化財も多種多様に存在し、これらの悉皆調査により記録として保存するとともに、周辺住民への聞き取りにより、原位置の確認や信仰のあり方などが確認され、地域固有の文化の再発見となる。

埋蔵文化財分布詳細調査

上田市の埋蔵文化財の分布調査は、昭和49(1974)年に完了した遺物表採や聞き取りをもとに、図上で作成したものである。このため、精確性に欠けており、各種開発事業から埋蔵文化財を保護するため、試掘調査を基本にした詳細な分布調査が必要である。

4 まとめ

仏教文化財(仏像)を通じて、今まで調査の手が入らなかったり、見過ごされてきた仏像が数多くあることが判明した。大きなお寺の本尊で、誰もが一度は視野に入っているものであっても、専門家の目で、須弥壇から下ろして調査することにより、どうして今まで指定されてこなかったのか、と思われる案件もあった。また、所有者自身もその価値に気づいていないケースも多々あり、調査に際しての所見により、改めて保存の意識を高めていた。さらに、自治会等で守っているお堂にも、古代・中世に遡りえる仏像もあり、今後、指定等により盗難や火災から守るべき案件も数多くあった。

養蚕家屋の調査では、家屋や屋敷の広大さにより、管理が行き届かなくなったり、遂には空き家となっているケースも多く見られた。蚕都上田を支えた養蚕農家の遺構は消滅の危機にあり、保護措置が必要である。

また、同じ上田の中でも、塩田や丸子地域の平野部では、比較的広い敷地をとることができるために、広い屋敷地に建物をコの字状や口の字状に配置する一方、山寄りの傾斜地では、敷地の制限により建物配置が比較的コンパクトになっていることなど、地域的な特徴も明らかになりつつある。

この建物調査と同時に、養蚕や農家の生活に関わる生業や暮らしの様相も、聞き取り調査を通じて明らかになりつつあると同時に、屋敷に祀る神仏等の意味合いが不明になっているものもある。建物というハードの中で営まれるソフトも、伝承・記録すべき時期となっている。

歴史文化基本構想では、「文化財の背景にある自然・歴史・景観・風土・社会を一体的に捉えた保護」が主要な課題となっているが、文化財の悉皆調査・聞き取り調査を通じて、立地や風土、そこにまつわる習俗等を民俗学的な視野で総合的に捉える重要性が示された。

今後、文化財のあらゆる分野で、現地に赴き所有者等から聞き取りする悉皆的な調査を継続し、文化財の背景や取り巻く環境を把握しながら、所有者とともに保護意識を共有することが大切である。

第4章 文化財の保存・活用の基本の方針

1 基本目標の設定

上田市の文化財は第2章で述べたとおり、古代から現代まで、建造物や美術工芸品、史跡、民俗など、どの分野においても一級の資料が豊富にある。これは、古代東山道からはじまり、中世鎌倉道や近世街道、近代の国道と鉄道、そして現代の新幹線や自動車道などの高速交通網などにより、ひと・もの・情報が行き交うなかで、先進の文化を取り入れてきた証であり、上田市民の進取の気風が結実したものといえる。

この進取の気風は特に、古代から中世、中世から近世、幕末から近代という時代の変革期にかけて顕著に顯れ、政治や思想・宗教、学問、製造技術などで幾多の先駆者を輩出し、文化財を残している。

現在、上田市の公民館を定期的に利用して活動している歴史文化系研究会や文化・芸術などの利用者団体（社会教育関係団体）は、約600団体を数える。このように多くの市民が学ぶ機会があるのは、上田市の大きな特徴であり、学びを尊ぶ進取の気風である。こうした研究会やサークルは、その多くで高齢化が懸念され、青年期から壮年期の文化財との関わりは、残念ながら薄いのが実態である。しかし、一線を退いた後の加入者も多く、活動は活発である。また、小中学校における郷土学習も盛んで、少年期に学んだこと、身につけたことを、高齢期に改めて学習する「生涯学習」のサイクルがある。

こうして先進的な技術と思想を持ってつくられ、継承されてきた文化財と、これらに学び守ってきた風土は、これからの中づくりにも欠かせない大切なものである。一方で、歴史や文化財研究の専門性が高まり、文化財保護行政の手続きが一般市民にはわかりにくいこともあり、歴史文化の間口が狭まっていると感じる市民も多い。進取の気風を継承・発展させ、同時に広範な市民が歴史文化に触れて行くには、その取り次ぎ役となる行政やNPO、各種研究会のコーディネーターが不可欠である。

これまで上田市では、さいわいなことに前述の研究会・サークルにおいて、そのコーディネーターが多く存在していたが、専門性の高まりとともにコーディネーターの技量も高い次元で必要とされている。

この課題を解消していくためには、文化財保護について高い見識を持つ「ひと」を行政のみならず、地域の大学やNPOや民間研究会が連携して育てていく必要があり、これによって、地域の歴史的・文化的背景をさらに深く学び究め、上田市が新たな技術と文化を生む土壌となる。

上田市の歴史文化基本構想は、文化財の保存・活用を通して、歴史や文化・風土を学び、継承し、磨き上げていくことを目指す。このためには、改めて産（民）・学・官の連携と協働による文化財の保存・活用を基本目標に据える。

2 基本方針

本市における文化財の保存活用の基本方針は、以下のとおりとする。

(1) 調査・研究の推進

調査・研究の推進

文化財に関する認識を一層深めるため、古文書等の文献史学、考古学、美術史学、建築史学、民俗学、自然科学等、多様な観点からの調査・研究を今後も推進していく。

上田市では特に、次の3点についてさらに調査研究を進めるものとする。

- 1) 古代信濃国分寺から中世塩田平や独鉢山麓の仏教文化財群と、現代に連なる信仰や伝統文化の軌跡
- 2) 古代末の木曾義仲挙兵からはじまる武士社会の動向を示す居館・城跡や古文書
- 3) 幕末から始まる蚕種製造と養蚕、製糸業に関わる史資料の研究と保存

については、上田市を特徴付けるものとして調査研究のさらなる充実を図る。

また、今後重視すべき調査・研究として

- 4) 全国有数の寡雨地帯における農業と、これに関わる溜め池や水路の開発、そして水源となる山への信仰
- 5) 現在の地域の原型となる城下町と街道筋の集落の歴史と民俗
- 6) 菅平高原や美ヶ原高原、温泉を中心とした観光・リゾート開発史

などが挙げられる。

調査・研究成果のアーカイブ機能の充実

上田市の文化財に関する様々な情報や調査・研究成果について、後続の研究や教育の場で活かせるように共有化を推進する。そのため、図書館や博物館等の公共施設では、研究内容の相互共有やアーカイブ機能を充実させるなど、本市の歴史文化に関する情報を閲覧することのできる環境整備を行っていく。また、大学・研究機関のデータベースと相互連携を図っていくことも検討する。

選択文化財となっている3件の無形文化財と、一部の民俗芸能等については、過去の事業で映像化が図られ、マルチメディア情報センターでアーカイブされているが、今後も機会を捉えて無形文化財の映像記録を保存していく。

さらに喫緊の課題として、市町村誌で把握された古文書や公文書を保存し、情報を発信する公文書館の設立が求められている。

(2) 文化財の保存と活用の推進

文化財指定の推進と再構築

上田市は、今後も文化財の指定を推進し、豊かな歴史文化の息づく地域づくりを目指していく。仏像調査によって得られた古代・中世の仏像や、蚕種製造施設や養蚕家屋などの近代化遺産といった新たな文化財についても、その価値を認識し指定・登録を検討する。

これ以外の未指定文化財についても、歴史的な景観を構成する要素と位置付けるな

ど、文化財保護行政以外の制度を組み合わせながら継承していく仕組みづくりを行う。

一方、指定・登録文化財が300件に及び、なかでも件数の最も多い市指定文化財については、旧市町村合併時に継承されたがその内容に齟齬があるため、指定基準の明確化を図っていく。

情報発信

上田市には、「文化財マップ」という指定文化財の所在地と概要を紹介するホームページがある。現在は建造物と記念物といった屋外にある見学可能な文化財を対象としているが、美術工芸品や民俗文化財も、所有者の同意を得ながら順次公開していく。また、広報や上田市ホームページに掲載されている伝統行事の開催日程も掲載し、多くの市民の参加を促していく。

博物館機能の充実

博物館は、地域の文化財や風土を理解し、常設展や特別展を通じて情報を発信・保管する上で欠かせない施設である。特に、漆器や精緻な工芸品の保存施設としての役割が大きい。

上田市には現在、上田市立博物館、信濃国分寺資料館、丸子郷土資料館、ともしび博物館と市立美術館の5館がある。前述の公文書館の設立とあわせて、既存施設の役割を再整理した博物館構想を策定し、文化財の収蔵・管理及び保存・研究環境の充実と、市民や来訪者に系統的かつ分かりやすい展示紹介のできる施設づくりに取り組むものとする。

地域内分権を活用した文化財の保存・活用

上田市は平成18年の市町村合併の際、「地域内分権」という仕組みにチャレンジしている。住民が主体となって住民自治組織をつくり、行政と連携しながら「地域でできることは地域で」の共助の考え方に基づく、新たな住民自治の仕組みを構築することで、地域の個性や特性が生かされたまちづくりを市民協働で推進するものである。上田地域では、旧支所及び公民館の設置単位ごとに6つ、丸子地域、真田地域、武石地域では旧町村ごとに3つ、あわせて9つの協議会が設置され、地域ごとに地域課題の解消や地域づくりを進めている。

文化財の保存・活用においても、この仕組みと連携し、指定・未指定の文化財を地域の核としたまちづくりを進めていく。上田市生涯学習基本構想では、「人と地域のつながり」・「学びをつむぐまちづくりへ」を掲げ、そのメインステージは9つの地域であり、地域の公民館である。上田市生涯学習基本構想ではさらに、「社会教育機関による、文化財のより一層の利用促進と、市民による文化遺産を活用した文化活動の展開が必要です。文化遺産が、観光資源として十分活用されていないため、文化遺産に関する情報をさらに広く広報することが重要です。」と課題を位置付けている。

現在市内では、塩田仏教会や塩田歩こう会などの実行委員会により、札所めぐりのイ

ベントが行われている。また、文化財施設を活用して音楽や演劇などを開催する「文化財 de 文化祭」もある。こうした地域固有の文化財を活用した活動を、積極的に支援していく。さらに、これまで実施してきた文化財建造物の修理の際の見学会や学習・講演会なども、所有者と連携しながら積極的に推進する。

防災・防犯

建造物へのき損や放火、美術工芸品の盗難などが課題となっている。現在、国指定文化財については自動火災報知設備や消火施設は整備されているものの、県指定や市指定については未着手である。火災原因のトップが放火となっている現在、防火体制とともに、き損や盗難に対する防犯体制の整備は急を要する課題であり、順次整備していく。

(3) 文化財と周辺環境の一体的な保全

文化財は、周囲の自然や風土と密接に関係しながら作られ、守られてきた。文化財の理解につながる周辺の自然環境や町並景観などの周辺環境について、一体的な保全に努める。

特に、町並みや景観のベンチマークとなる有形文化財については、景観法、都市計画法及びその他の市条例等に基づき、規制・誘導による保全を図るとともに、歴史まちづくり計画の策定を進め、文化財そのものの保護と、周辺環境の保全を進める。

重点的には、上田地域を特徴づける、信濃国分寺と独鈷山麓の仏教文化財群及び溜め池群ならびに雨乞い信仰の景観、上田城下町と近代化遺産が集積する中心市街地と近世街道筋、四阿山の信仰と山城群の真田地域などが挙げられる。

無形文化財や美術工芸品等の文化財に関しても、保存管理上適切な周辺環境の整備を推進していく。

(4) 歴史文化の学習と人材・後継者の育成

生涯学習・公民館活動等における地域学習の推進

上田市では、地域の公民館や図書館の社会教育施設が果たす役割は大きい。現在、地域公民館に集まる歴史研究会や、それ以外のサークルも数多く存在し、独自に文化財や歴史に関する学習活動を行っている。社会教育施設は、こうした学習活動の場の提供や、助力をしているほか、出前講座で市職員が文化財に関する講師を派遣している。こうした活動をさらに充実させ、まちへの关心や愛着を豊かに育んでいくことを目指すとともに、多くの市民に対し、文化財に関する様々なテーマを生涯学習の場で市民が気軽に学べる機会を提供する。

有形文化財保護における守り手の育成

多くの文化財は、所有者個人や法人、寺院等の宗教法人、地域の神社、自治会などによって守られてきた。しかし近年、自治会においては、少子高齢化と過疎化、住民

の価値観の多様化による政教分離政策等により神社などの地域の文化財の保護が困難となっていること、寺院では壇信徒が急激に減少していることなどによって、文化財の維持管理が困難となってきている。

こうした状況に対応するためには、自治会や地域住民を対象とした文化財の学習活動によって、文化財としての価値を再認識できる仕掛けや、保護の担い手を自治会だけでなく、地域コミュニティへ拡大すること、見学・参拝者等への協力依頼など、積極的な働きかけを所有・管理者とともに進めていく。

無形文化財伝承における後継者育成

地域の習俗や祭り、これらに関わる伝統芸能なども後継者の育成に苦慮している。

上田市のある地域では、小学校と連携して伝統芸能を授業や運動会、文化祭で取り組み、将来その子がいったんはふるさとを離れても、帰ってきたときに理解と愛情が持てるよう、また後継者となれるよう工夫している。またある保存団体では、大人だけで開催していた行事に、青少年育成会やPTAと連携して子どもも参画し、その親や祖父母も参加する仕掛けをして、盛大に祭りを挙行している。

こうした住民の主体的な後継者育成活動の経験を共有・実践していくため、保存団体の連絡協議会組織を設立して実践し、後継者育成をしていく。また、伝統行事の開催を広報・ホームページ等で広く市民に知らせたり、かつて開催していた民俗芸能祭などを開催するなど、無形文化財の保存会が誇りとやりがいを持つ機会を創出する。

（5）文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針

行政の連携体制

歴史文化基本構想は、文化財の保存・活用におけるマスタープランとして周知を図り、今後は、行政内部で共通認識を持ち、一貫した取組みを進めるための体制づくりが必要である。

これまで、本市においては、教育委員会の生涯学習・文化財課が文化財保護行政を執行し、景観や伝統産業、観光といったその他の歴史文化に関連する業務については、都市整備部や商工観光部など関連部局の担当課が、9つの地域のまちづくりについては各地域自治センターや公民館などがそれぞれ行ってきた。しかしながら、文化財や歴史・文化を今後のまちづくりに有効活用するためには、文化財の本質的価値を守ることを基本としながらも、文化財保護行政以外の分野でも歴史文化を尊重したまちづくりの取組みが行われるべきである。そのためには、歴史文化の視点から市の内部の様々な施策を管理するネットワークと組織が必要不可欠である。

都市計画審議会や景観審議会などに文化財や歴史の専門家を積極的に配することも有用である。また、文化財保護審議会内に構想に関する協議の場を設け、文化財課の事業の進捗や結果についての報告や、本構想の評価を行っていくことも必要である。このような市庁内の連携体制を構築することで、一貫したコンセプトに基づくまちづくりの実現を目指していく。

市民、研究会、大学等との連携

本市には、指定・登録文化財以外にも、地域に住む人々の意識や生活に深く根付いた文化財が数多くあり、地域の一体感の共有や自己のアイデンティティの形成に大きな役割を果たしている。現実的には、全ての文化財をこれまでと同じ体制で保護していくことは難しく、これからは地域共有の財産として、社会全体で守っていく観点が不可欠であり、そのための体制づくりが求められる。

これまで本市では、活発に文化財の保存・活用が繰り広げられてきたが、その活動は行政や市民、学術研究機関などが各自に行なうことが多く、充分に連携が図られているとは言い難いものであった。また、文化財の保存・活用に資する市民団体も、調査・研究活動などが主なものであった。しかし、今後は、企業や学術研究機関なども含め全ての市民が一丸となって文化財の保存・活用や歴史文化のまちづくりに取組むことが必要であり、そのための組織づくりが求められている。

例えば本市の塩田地域では、「塩田平文化財保護協会」があり、地域の文化財の保護や経費に対する補助、活用、調査・研究を、地域住民や自治会、企業をふくめた賛助会員を構成し、活動している。こうした組織が全市的に広がることが望まれる。

具体的には、第一に市民レベルでの文化財の調査・研究・管理の促進が期待される。市内には指定・登録文化財のほかにも多くの文化財が所在しているが、これらをすべて行政や所有者だけで管理していくことは困難である。そこで、各地域から新たな文化財の情報提供や文化財の管理状況の報告を行う活動をしていただくことで、基本データベースの情報量の充実や、情報を最新のものに保つことができると考えられる。さらには、調査・研究の際に学術研究機関や専門家らとも連携を図ることで、調査・研究精度の向上を図るとともに、地域の学術研究成果の充実なども併せて図ることができる。

次に文化財の活用や情報発信などが期待できる。近年、取り壊しや空き家となる歴史的な建造物が増加してきている。これらを上田市の空き家バンクに登録して活用し、移住・定住してもらうほか、団体の活動拠点や情報発信の拠点、飲食店などとして活用することで、こうした問題解決の一助となるものと思われる。また、こうした拠点施設において、ワンコイントラスト運動を繰り広げることで、これを団体の運営に係る資金とし、これを活用してさらなる文化財の修理などを推進することができ、市民らにも自らが地元のお宝である文化財を育んでいるという意識を持っていただくことができる。

また、地域団体による文化財の修理活動なども考えられる。団体内に、地元の建築士や大工、専門家などからなる部会を設置し、学術研究機関などとも連携し、文化財の修理などに携わることで、地域産業の活性化と技術の向上、後継者の育成などへと繋げていく。

さらに本市には、信州大学(繊維学部)、長野大学、筑波大学(山岳科学センター菅平高原実験所)、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校の6校の高等教育施設がある。これらの施設や教職員、学生らと連携して、調査・研究・保護を地域住民とともに進めていく。

第5章 関連文化財群の設定

本構想においては、関連文化財群として6つのテーマを設定した。関連文化財群の設定にあたっては、以下の条件を考慮して設定した。

有形・無形を問わず多種多様な文化財を含むこと

上田の特性が顕著に表れていること

行政・市民による取組み等がされており、価値が認識されている、

あるいは今後認識されることが期待できること

これらは、上田市の歴史文化の個性として捉え、市民と行政が共有し、どのように後世に継承するかについて、重点的に検討し取組みを進めるものとする。

関連文化財群	対象地域	含まれる文化財の例
信濃国分寺跡と仏教文化財群	神川/塩田/真田/武石	信濃国分寺/ねじと馬曳き/お練り行事/蘇民将来
水と信仰の農業開発文化財群	真田/丸子/武石/塩田	独鈷山と塩田平の信仰に関わる文化財群/白山信仰/雨乞い行事と溜め池
真田氏の活躍と城郭遺産群	中央/真田/西部/神川/塩田/川西	上田城/山城/石切場/三頭獅子/地形と自然環境
地域の核となる城下町と街道筋の文化財群	中央/西部/塩田/神川/川西/丸子/真田	上田城下町/塩田城下町/砥石城下町/真田の城下町/街道筋の宿場町と集落
蚕都上田の蚕業遺産群	市域全体	旧常田館/上田蚕糸専門学校/上田蚕種協業組合/蚕種製造・養蚕家屋群/風穴
近代の保養・観光開発の文化財群	武石/真田/塩田	温泉/高原/鉄道遺産

関連文化財群ごとの概要として、ストーリーや関連する文化財とその価値、分布状況等について述べる。あわせて、保存活用の基本的な方向性を示す。

概要	
○ストーリー	上田市固有の歴史・地域特性、文化財の分布状況から、上田市らしさを表象するストーリーを提示する。
○関連する文化財とその関連性・価値	ストーリーに関連する文化財を一覧に示し、各文化財とストーリーとの関連性や価値について示す。
○関連する文化財の分布状況	関連文化財群を構成する文化財について、分布状況を示す。

保存活用の基本的な方向性	
○守り伝えるべき価値	各ストーリーにおいて、大切にすべき価値は何か、を述べる
○守り伝える方法	関連文化財群を、どのように守り育していくかについて方針を述べる

関連文化財群- 1 信濃国分寺と仏教文化財群

(1) 概 要

ストーリーの概要

上田市は、古代信濃国に信濃国分寺が置かれた。古代信濃国分寺の滅亡の時期は不詳であるが、遅くとも室町時代には寺の中心機能が、段丘をひとつ上った現在の信濃国分寺に移されていることは、信濃国分寺三重塔（重文）によって明らかとなっている。また、別所温泉常楽寺に伝わる石造多宝塔（重文）の銘文からは、古代末ころに木造多宝塔があったことが記されている。さらに、前山の中禅寺薬師堂、薬師如来坐像（いずれも重文）金剛力士像（県宝）は古代の様式を伝え、古代仏教文化が花開いていたことを示すものとなっている。この他、殿城の法楽寺遺跡では発掘調査により11世紀末から12世紀初頭の銅製三尊仏像も出土しているほか、古代寺院跡と目される布目瓦出土遺跡も分布し、古代仏教文化が神科豊殿地域～中央地域～塩田地域にひろがっていたことを示している。

中世になると、塩田平と独鉢山麓に天台宗の談義所や禅宗寺院が構えられ、京都南禅寺の開山で信州が生んだ無闇普門によって「信州の学海」と称された。この背景には、鎌倉幕府の北条一族の重鎮北条重時が塩田に守護所を置いたことも挙げられている。その遺構として「安楽寺八角三重塔（国宝）」をはじめ、前山寺三重塔、法住寺虚空蔵堂、前述の常楽寺石造多宝塔（いずれも重文）西光寺阿弥陀堂、靈泉寺阿弥陀如来坐像、小泉大日堂、舞田の石造五輪塔（いずれも県宝）など、豊富な仏教文化財が残されている。

本構想策定作業として実施した仏像の悉皆調査においても、古代・中世に遡る未指定の仏像が数多く確認されているほか、近世・近代の活発な造像活動が確認されている。この造像活動の背景には、近世の庄屋や名主、大店の旦那などの帰依・寄進があったことが、仏像の銘文から知られる。

これら古代以来の仏教文化財群が本市に残されているのは、古代においては官道である東山道が当地を通ったこと、中世においては守護所と鎌倉を結ぶ鎌倉道、近世には北国街道や往還が設けられ、寺院を起点として多くの人・物・情報が往来したことによる。

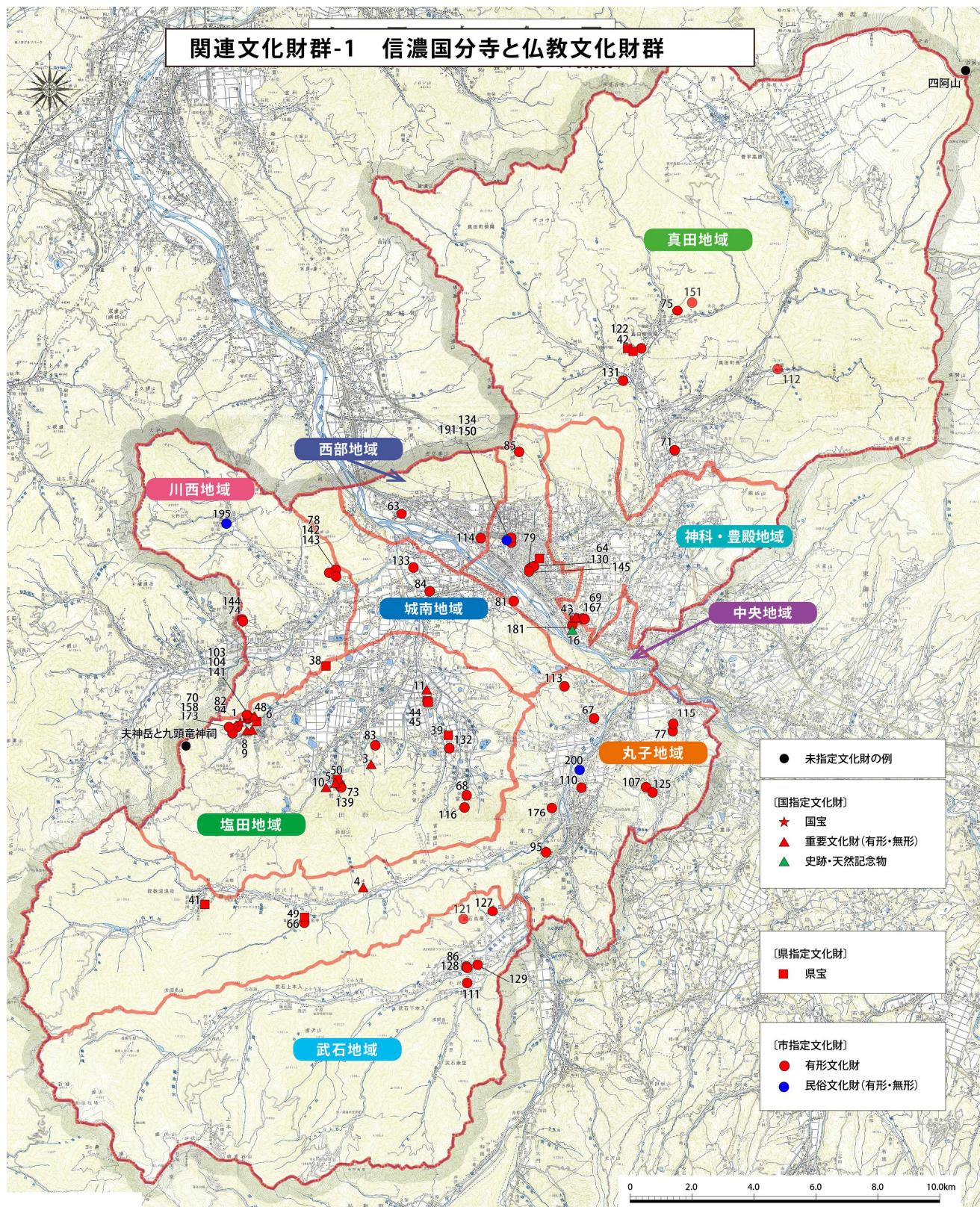
関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
1	安楽寺八角三重塔	国宝 建造物	鎌倉時代末期
2	信濃国分寺三重塔	国指定 建造物	室町時代中期
3	前山寺三重塔	国指定 建造物	室町時代後期
4	法住寺虚空藏堂（附）厨子	国指定 建造物	室町時代
5	中禅寺薬師堂	国指定 建造物	鎌倉時代前期
6	常楽寺石造多宝塔	国指定 建造物	鎌倉時代(13世紀)
8	木造惟仙和尚坐像	国指定 彫刻	安楽寺 鎌倉時代末期(嘉暦四年 1329)
9	木造惠仁和尚坐像	国指定 彫刻	安楽寺 鎌倉時代末期(嘉暦四年 1329)
10	薬師如来坐像 (附)木造神将立像	国指定 彫刻	中禅寺 平安時代後期(13世紀前半)
11	銅造觀音菩薩立像	国指定 彫刻	長福寺 白鳳時代(7世紀後半)
16	信濃国分寺跡	国指定 史跡	奈良時代
38	金王石造五輪塔	県宝 建造物	鎌倉時代初期
39	西光寺阿弥陀堂	県宝 建造物	室町時代後期(16世紀前半)
41	文殊堂	県宝 建造物	天竜寺 江戸時代
42	実相院宝篋印塔	県宝 建造物	南北朝時代(貞治6年 1367)
43	信濃国分寺本堂(薬師堂)	県宝 建造物	江戸時代末期(万延元年 1860)
44	生島足島神社本殿内殿	県宝 建造物	室町時代後期(16世紀前期から中期)
45	生島足島神社摂社諏訪社本殿及び門	県宝 建造物	江戸時代初期(慶長15年 1610)
48	絹本着色綱敷天神像	県宝 絵画	常楽寺 応永12年(1405)
49	木造阿弥陀如来像 (附)造内納入品一括	県宝 彫刻	靈泉寺 南北朝時代
50	中禅寺木造金剛力士立像	県宝 彫刻	平安時代末
新指定	銅造阿弥陀如来及び両脇侍像	県宝 彫刻	鎌倉時代 13世紀
新指定	木造十一面觀音菩薩立像	県宝 彫刻	実相院 平安時代末

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
63	石造五輪塔（二基）	市指定 建造物	
64	願行寺四脚門	市指定 建造物	
66	靈泉寺五輪塔	市指定 建造物	
67	竹の花五輪塔	市指定 建造物	
68	奈良尾石造多重塔(弥勒仏塔)	市指定 建造物	
69	信濃国分寺石造多宝塔	市指定 建造物	
70	安楽寺経蔵（附）八角輪蔵	市指定 建造物	
71	中原宝篋印塔	市指定 建造物	
73	中禅寺石造五輪塔	市指定 建造物	
74	東昌寺鐘楼	市指定 建造物	
75	弾正塚宝篋印塔	市指定 建造物	
77	南方薬師堂	市指定 建造物	
78	小泉大日堂	市指定 建造物	
79	宗吽寺石幢	市指定 建造物	
81	荒神宮石造五輪塔	市指定 建造物	
82	常楽寺石造多層塔	市指定 建造物	
83	安曇甚太夫五輪塔	市指定 建造物	
84	上田原石造五輪塔	市指定 建造物	
85	太郎山神社本殿	市指定 建造物	
86	妙見寺 鳴龍	市指定 建造物	
94	常楽寺本堂	市指定 建造物	

95	全芳院本堂	市指定 建造物	
103	絹本着色聖觀音画像	市指定 絵画	常楽寺
104	絹本着色愛染明王画像	市指定 絵画	常楽寺
107	仏生誕・涅槃図		
110	長泉寺板碑	市指定 彫刻	
111	聖觀音立像	市指定 彫刻	
112	木造僧形坐像	市指定 彫刻	
113	尾野山木造千手觀音立像	市指定 彫刻	
114	木造阿弥陀如来立像	市指定 彫刻	芳泉寺
115	南方荒野板碑	市指定 彫刻	
116	石造大姥坐像	市指定 彫刻	富士嶽神社
121	弥勒菩薩坐像	市指定 彫刻	
122	木造馬頭觀音坐像	市指定 彫刻	
125	藤原田木造千手觀音坐像	市指定 彫刻	
127	双体道祖神	市指定 彫刻	
128	掌善掌惡の碑	市指定 彫刻	妙見寺
129	石幢	市指定 彫刻	正念寺
130	木造菩薩立像	市指定 彫刻	願行寺
131	木造阿弥陀如来坐像	市指定 彫刻	耕雲寺
132	西光寺金剛力士像	市指定 彫刻	
133	銅製鰐口	市指定 工芸品	觀音寺
134	銅製雲板	市指定 工芸品	
139	銅製鰐口	市指定 工芸品	中禪寺
141	木造百万塔	市指定 工芸品	常楽寺
142	銅製御正躰(懸仏)	市指定 工芸品	高仙寺
158	黄檗版藏経	市指定 古文書	安楽寺
143	銅製孔雀文磬	市指定 工芸品	高仙寺
144	東昌寺僧具	市指定 工芸品	
145	銚銅製御正躰	市指定 工芸品	日輪寺
150	銅製雲板	市指定 工芸品	
151	銅製十一面觀音像御正体	市指定 工芸品	
167	信濃国分寺勸進帳	市指定 古文書	
173	安楽寺蘭渓道隆尺牘	市指定 古文書	
176	岩谷堂法藏寺奉加帳	市指定 歴史資料	
181	銅三尊仏	市指定 考古資料	
191	板碑	市指定 有形民俗	
195	五位塚の板碑	市指定 有形民俗	
200	下丸子釈迦涅槃図	市指定 有形民俗	
	夫神岳と九頭竜神祠	未指定	
	四阿山	未指定	
	仏教文化財悉皆調査の仏像	未指定	

文化財の分布



（2）基本的な方向性

守り伝えるべき価値

- ・ 地域の繁栄の象徴としての存在

古代信濃国分寺にはじまる仏教文化財群は、上田市民の進取の気風を示す要素である。同時に、地域の繁栄を示すとともに、地域住民の心のよりどころとして現代まで受け継がれてきた。また、周辺には小規模ながらも門前町や集落が形成され、寺社と周囲の歴史的建造物や田園・自然が融合している。寺社は市民にとって物心両面のベンチマークとして存在してきたことを伝える。

守り伝える方法

- ・ 歴史的景観と生活文化の融合

本関連文化財群は、構成する文化財が市域の広い範囲に分布している。なかでも塩田平と独鉱山麓には集約しており、信仰の対象となる山岳と寺社の景観が密接に結びついている。さらには、門前町の歴史的建造物とも結びついて、良好な景観をつむいできた。現在、その認識が希薄となって開発が進行しつつある。寺社と城郭、集落が持つ歴史的な特徴を踏まえ、快適な生活空間と歴史文化が共生する方策を考えていく必要がある。

関連文化財群- 2 水と信仰の農業開発文化財群

(1) 概 要

ストーリーの概要

上田地域は、年間降水量が 1000mm 前後の寡雨地帯といわれながら水耕農業も発達し、塩田、川西、神科、丸子などの平坦部においては、中世以来の条里水田跡の痕跡も残されている。しかし、その水源の確保は旧上田・丸子・武石地区と真田地区によって大きく異なる。

上田・丸子・武石地区では、溜め池と河川からの灌漑事業が盛んである。特に塩田平の溜め池は数が多く、近世には 300 を超える溜め池があったといい、その後の統合により、昭和 50 年代には 140 余りとなっている。塩田平の溜め池の開拓が史料に残るのは戦国時代末期上田城主真田氏以降で、真田氏時代には、山田池、舌喰池、^{したくい}小島池、甲田池などが修増築もしくは新築された。

上田藩主が仙石氏の元和 8 年～宝永 3 年 (1706 年) には、全国どの大名も領内の新田開発に力を入れた時代で、仙石氏も用水の開削とともにため池の築造・修築に力をそいだ。この時代に成立されたと伝えられるものに、手洗池、^{てあらい}北の入池、上原池、上窪池、塩野池、山田新池などがある。これらの溜め池の築造には、上田藩の普請によるもの、寺院や個人が発起して作ったものなどもあるが、いずれにしても地域の農民が築造し管理してきた遺産である。

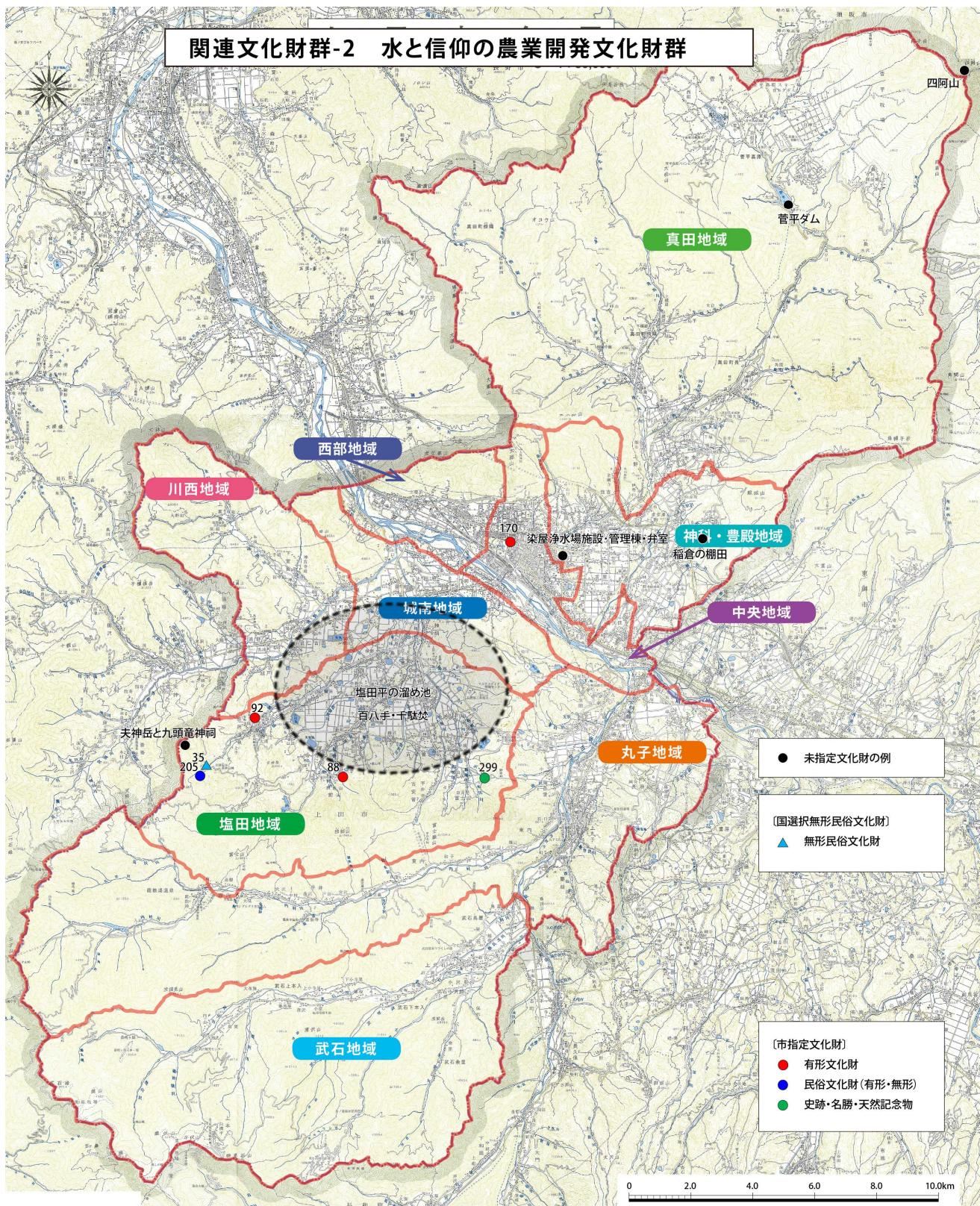
この溜め池や築造にまつわる伝説や民話も多く残されているほか、水源となる山への信仰と、雨乞いの行事の「岳の幟」(選択)や溜め池の堤の上で松明をかざす「百八手」なども多く、上田地域を特徴付ける習俗である。近代には、養蚕の際に発生する蚕のさなぎを餌として鯉の養殖がこの溜め池で行われ、「塩田鯉」として昭和 50 年頃には生産量が 1 千トンを上回り、「塩田鯉」として全国に名をとどろかせた。

一方、真田地区では、菅平高原の主峰四阿山や深い森林を水源とした湧水が豊富で、左岸ほど水源に苦労した形跡はないが、用水の開削には労苦を伴っている。四阿山は北陸の白山に見立てられ、白山大権現は水の山の神として信仰を集めており、毎年 6 月 1 日には山家神社や上田市上下水道局などが地域住民とともに四阿山の清掃登山を実施している。また、神川の上流に昭和 43(1968)年に建設された菅平ダムは、神川総合開発事業(発電・上水道)として、全国有数の少雨地帯である上田・小県のかんがい用水確保を主目的に、菅平発電所とともに建設された利水ダムである。このダムの建設によって上田地域の神川・神科地区に豊富な上水道が確保され、地域の開発に大きく貢献している。

関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
35	別所温泉の岳の幟行事	国選択 無形民俗文化財	雨乞い行事として地域的特色のある行事で、夫神岳山頂の九頭竜神の祠から各家で織った3丈の長幟を奉納したあと山頂から別所温泉街を経て別所神社まで、幟を担いで練り歩く。
88	塩野神社拝殿及び本殿	市指定 建造物	水源の神
92	別所神社本殿	市指定 建造物	岳の幟の終点
170	上田藩村明細帳	市指定 古文書	
205	岳の幟	市指定 無形民俗	
299	マダラヤンマ及びその生息地	市指定天然記念物	
	百八手・千駄焚	未指定	塩田地区 雨乞い行事で、寺院住職の読経・先導で人々が溜め池のまわりで松明をふり、「雨降らせたんまいな」と祈る
	塩田平の溜め池	未指定	塩田地区
	灌漑用水	未指定	市内全域
	菅平ダム	未指定	真田地区
	染屋浄水場施設・管理棟・弁室	未指定	
	夫神岳と九頭竜神祠	未指定	
	四阿山	未指定	
	稻倉の棚田	未指定	棚田百選選定

文化財の分布



(2) 基本的な方向性

守り伝えるべき価値

- ・先人の知恵と苦労により開かれた水田の景観

塩田平を中心とする溜め池群は、水田耕作やかつての水産業と結びついた地域の環境と特徴を示す景観である。溜め池は民話・伝説と結びついて、過酷な自然環境のなかで開発した先人の思いや、英雄・領主との関わり、教訓などが語られており、人格形成や人づくりがなされてきた。

また、水田耕作地に水を供給したり、溜め池や自然の河川から水を分配する水路も、寡雨の過酷な環境を乗り越えて地域を開発した歴史を示す文化財である。

- ・雨乞いなどの伝統行事を伝え・支える地域コミュニティ

天下の奇祭として知られる別所温泉の「岳の幟」行事は、雨乞い行事の代表である。また、大規模な干ばつ時に執り行われる「百八手」や寺社に伝わる雨乞いの修法は、地域の人々が総出で行い、地域のコミュニティを形成してきた行事である。

- ・溜め池や灌漑水路が生み出す豊かな自然環境

溜め池や灌漑水路は人が作り出した水域であるが、長い農耕の歴史が生物たちとの間に密接な関係を築いてきた。例えばトウヨシノボリは、水路を伝って溜め池に進入し、そこで繁殖する。そして、溜め池の豊富なプランクトンを餌に子は成長し、一部は放水の流れに乗って河川にたどり着き産卵する個体も現れる。また、マダラヤンマ(市指定)は、溜め池と、それに接する森林が繁殖の条件となるが、塩田の山沿いの溜め池はその条件に合致している。このように溜め池や灌漑水路は、豊かな自然環境の形成にも寄与している。

守り伝える方法

・ 溝め池の景観と灌漑水路の生活文化の融合

本関連文化財群は、溝め池という「点」と灌漑水路の「線」、そして田園と山々の「面」、さらに人々の営みが融合して形成されている。これらを総合的に保全するには、地域住民の学習と理解が不可欠である。

現在、塩田・川西地域では、農林水産省の「田園空間博物館」事業により、地域を一つの「屋根のない博物館」として紹介・活用しようという構想に取り組んでいる。「とっこ館」を拠点施設として農業・農村の営みを通じてはぐくまれてきた地域資源を、歴史的・文化的視点から見直し、伝統的な農業施設や美しい景観として、魅力のある田園空間を生み出し、これらを地域住民が主体的に活用して歴史教育、都市との交流、自然観察、体験活動などで地域の活性化を目指している。

また、豊殿地区の「稻倉の棚田」は、元禄時代から明治時代にかけて開田されたものといわれ、殿城山の裾から谷間に大小様々な形状の棚田が広がり、水田開発の歴史が伝わっている。この地域では、棚田百選の認定から「稻倉の棚田保全委員会」が設立され、地域住民と行政、JA、ボランティアなど、多くの人と共に保全活動を進めている。

こうした地域住民と行政、企業、ボランティアが結びついて地域の資産を総合的に保全する活動を支援する。専門家とともに地域を学びながら、文化財としての保護を検討する。あわせて、溝め池や棚田の景観は、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と文化財保護法第二条第1項第五号により規定され、特に重要なものは「重要文化的景観」として選定されるが、この可能性も含めて検討していく。

関連文化財群- 3 真田氏の活躍と城郭遺産群

(1) 概 要

ストーリーの概要

中世末、信濃国と上野国の国境付近の山峡の里真田の地から身を起こした真田幸隆(幸綱)は天文15(1546)年ころ武田氏に帰属する。また昌幸の嫡男信之は元和8(1621)年松代十万石へ移封となる。その間およそ80年間の真田一族の懸命な生きざまを中心にその居城上田城、周辺の山城などが築城・奪取・落城・破却等の糺余曲折を経ながら現在に残っている。

真田氏初代とされる幸隆の生きた時代は武田氏の全盛期にあたり、その生涯の多くは信玄と共にあった。幸隆の長男信綱、次男昌輝が長篠の戦いで戦死したことで三男昌幸が真田家を継ぎ、武田家滅亡後は北条、徳川、上杉、豊臣と主家を変えて生き抜く。昌幸は天正13(1585)年自領の沼田を北条氏直に与えよとの家康の命令を拒絶し、秀吉に従う。そして関ヶ原の戦いでは西軍にくみし上田城に篭城して徳川秀忠の進軍を阻む。しかし、関ヶ原合戦で西軍は敗れ、昌幸は嫡男信之の命懸けの助命嘆願により死は免れ高野山麓九度山に蟄居、失意のうちに生涯を閉じる。関ヶ原の戦いでは父と弟信繁が西軍に、信幸は家康の東軍に属す。東軍の勝利後信之は、父の領地であった小県郡と旧来の自領上野国沼田をあわせて領した。信繁は大坂夏の陣では秀頼に属し、豊臣に殉じる。

なお、古代末の武将木曾義仲は、丸子地区の依田城に居城していた治承5年(1181)、以仁王の平清盛打倒の令旨により、塙田地区の手塙光盛らとともに上洛し、京都守護として、また同3年には征夷大将軍となっており、その行動は、古代貴族社会に終焉をもたらし、中世武家社会の幕を開けたと評価されている。

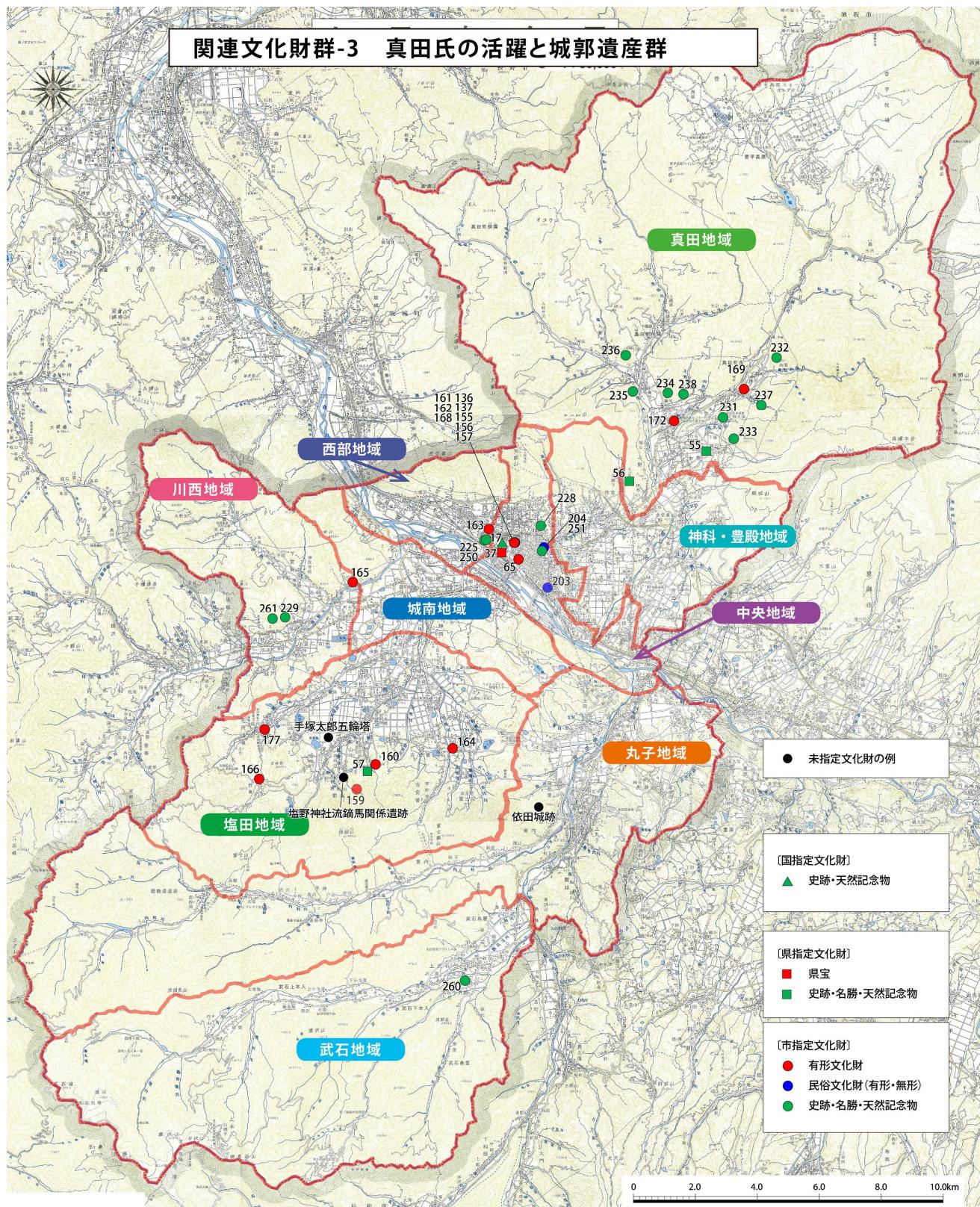
さらに中世初頭には、鎌倉幕府の北条一族の重鎮北条重時が塙田に守護所を置くが、元弘3(1333)年鎌倉幕府の滅亡ののち、当地の村上氏によって取って代わられる。

このように、古代末から中世にかけて活躍した木曾義仲や真田一族はそれぞれの困難な局面でいかなる選択と決断と知略を以て難局を切り抜けたか、その懸命な生きざまの軌跡を、彼らの居館跡や上田城跡、周囲の山々に残る山城や居館跡を保護継承し、その価値を示す。

関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
17	上田城跡	国指定 史跡	安土桃山時代(天正 11年 1583)
37	上田城(南櫓、北櫓、西櫓)	県 宝 建造物	江戸時代初期
55	真田氏館跡	県指定 史跡	戦国時代
56	戸石・米山城跡	県指定 史跡	室町時代後期
57	塩田城跡	県指定 史跡	鎌倉から戦国時代
65	上田藩主居館表門及び土塀・濠・土塁	市指定 建造物	
136	褐色緘唐冠崩し当世具足	市指定 工芸品	
137	紺糸緘白熊毛当世具足	市指定 工芸品	
155	海野町柳沢家日記(本陣日記)	市指定 古文書	
156	原町滝沢家日記(問屋日記)	市指定 古文書	
157	元禄信濃国絵図	市指定 古文書	
159	紙本墨書武田信玄の朱印状	市指定 古文書	
160	紙本墨書武田勝頼の朱印状	市指定 古文書	
161	紙本墨書開善寺宛武田信玄判物	市指定 古文書	
162	紙本墨書開善寺宛武田信玄寄進状	市指定 古文書	
163	紙本墨書武田信玄朱印状	市指定 古文書	
164	紙本墨書武田信玄朱印状(西光寺宛)	市指定 古文書	
165	紙本墨書武田信玄朱印状(小泉家)	市指定 古文書	
166	野倉惣帳	市指定 古文書	
168	天保信濃国絵図	市指定 古文書	
169	真田氏文書	市指定 古文書	
172	真田氏給人知行地検地帳	市指定 古文書	
177	蔵前の大樹	市指定 歴史資料	
203	常田獅子	市指定 無形民俗	
204	房山獅子	市指定 無形民俗	
225	小松姫(真田信之室)の墓	市指定 史跡	
228	寒松院(真田昌幸室)の墓	市指定 史跡	
229	岡城跡	市指定 史跡	
231	真田氏本城跡	市指定 史跡	
232	松尾城跡	市指定 史跡	
233	天白城跡	市指定 史跡	
234	横尾城跡・内小屋城跡	市指定 史跡	
235	根小屋城跡	市指定 史跡	
236	洗馬城跡	市指定 史跡	
237	真田幸隆・昌幸の墓	市指定 史跡	
238	真田信綱の墓	市指定 史跡	
250	仙石家靈廟	市指定 史跡	
251	仙石家本陽寺墓所	市指定 史跡	
260	中山城跡	市指定 史跡	
261	浦野城跡・御射山祭広庭跡	市指定 史跡	
	依田城跡	未指定	
	手塚太郎五輪塔	未指定	
	塩野神社流鏑馬関係遺跡	未指定	
	居館跡	未指定	

文化財の分布



(2) 基本的な方向性

守り伝えるべき価値

- ・ 古代社会に終焉をもたらした木曾義仲の再評価と史跡

木曾義仲は従来、逆賊として語られることが多かったが、近年では古代貴族社会から中世武家社会への画期として再評価されつつある。その挙兵の地が丸子地区の依田城(内山城)であり、臣下に諏訪大社に連なる金刺氏一族で、西塩田地区を本貫とした手塚光盛や中塩田地区の塩田高光、依田地区の依田次郎らがいた。また、彼らの居館跡も明らかになりつつあり、義仲の再評価とともに、その遺構も地域の歴史と、真田氏に連なる進取の気風を示す要素である。

- ・ 上田地域市民の英雄、真田一族の生き方

真田氏は、戦国の動乱の中で、地域と一族を守るために情勢を読み、時機を先取りし行動したものとして上田市民の英雄となっている。その背景には、「真田太平記」や大河ドラマ、立川文庫などの影響もあり、史実と伝説、創作が混然と理解されているところもあるが、山城や上田城に残された文化財群は、その卓越した戦略性と進取の気風を伝えるものである。

守り伝える方法

- ・ 上田城や指定された山城・居館跡とともに、未指定の城郭や居館跡も地域の歴史と気風を伝える要素として保全に取り組む必要がある。

- ・ 上田城跡は、国や県の補助金やふるさと寄付金などを財源に、調査研究活動の進捗とともに史実に忠実な史跡公園としての整備を進める。加えて、都市公園や広域避難場所としての機能を併せ持つ市民の公園として整備を進めていく。

- ・ 山城は、多くが山岳や森林地帯にあり、林業の衰退や里山の荒廃とともに保全の危機にある。西部地区では、西部公民館を拠点に太郎山・虚空蔵山縦走路トレッキングが開催され、山城に繋がる歩道の整備が実施されている。また、「健幸都市うえだ」の活動として、地域の健康ウォーク活動も盛んである。こうした活動と連携して文化財や歴史の学習や保全を進めていく。

関連文化財群- 4 地域の核となる城下町と街道筋の文化財群

(1) 概 要

ストーリーの概要

上田の山々には至るところに山城があり、平地部では上田城をはじめ、岡城などが築かれている。こうした城郭には守りの機能を有した城下町が形成され、現在の集落の原型となった。

上田城には中心市街地となった上田城下町があり、真田の居館には本原地区、砥石・米山城に伊勢山地区、塩田城には東前山が城下町にあたる。さらに、岡城には岡集落が、城下の構えにあたる。

北国街道に沿った塩尻地区は上田宿と坂城宿の助郷として発展している。北国街道沿いではほかに、神川地区の岩下や大屋に良好な街道筋の景観が残されている。

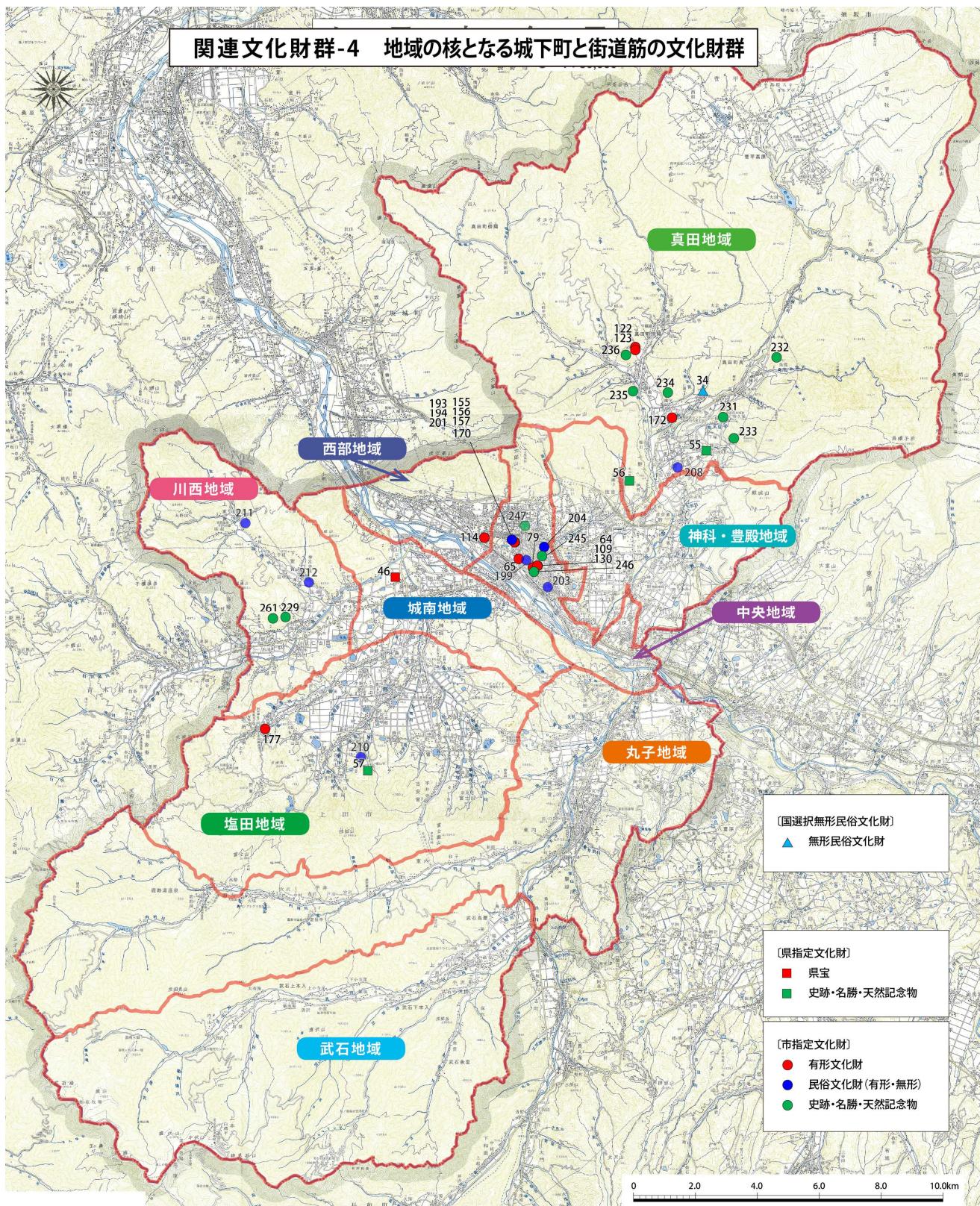
また、松本に向かう保福寺道の街道筋には、城下の坂下地区や浦野宿が往時の建造物や養蚕家屋が集落を形作り、上州街道でも、真田町戸沢地区や大日向地区に良好な集落景観が保たれている。このように近世街道筋の集落においては、伝統的な建造物、寺社や石造物、「戸沢のねじ行事」などの伝統行事や習俗などが残されている。

この他の山城の城下や近世に遡りえる道筋には、地域の核となる集落と建造物群、文化財が集積され、現代に連なる集落・地域の中核として存在し続けている。

関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
34	戸沢のねじ行事	国選択無形民俗	室町時代（伝：永正元年（1504）） 「ねじ」は、縁起物などをかたどった食物
46	旧倉沢家住宅主屋及び客座敷	県 宝 建造物	17世紀中期～19世紀前期
55	真田氏館跡	県指定 史跡	戦国時代 真田氏の真田郷在住時代の居館跡
56	戸石・米山城跡	県指定 史跡	室町時代後期
57	塩田城跡	県指定 史跡	鎌倉から戦国時代
64	願行寺四脚門	市指定 建造物	
65	上田藩主居館表門及び土塀・濠・土塁	市指定 建造物	
79	宗吽寺石幢	市指定 建造物	
109	銅造善光寺如来一光三尊立像	市指定 彫刻	願行寺
114	木造阿弥陀如来立像	市指定 彫刻	芳泉寺
122	木造馬頭観音坐像	市指定 彫刻	実相院
123	木造十一面観音立像	市指定 彫刻	実相院
130	木造菩薩立像	市指定 彫刻	願行寺
155	海野町柳沢家日記(本陣日記)	市指定 古文書	
156	原町滝沢家日記(問屋日記)	市指定 古文書	
157	元禄信濃国絵図	市指定 古文書	
170	上田藩村明細帳	市指定 古文書	
172	真田氏給人知行地検地帳	市指定 古文書	
177	蔵前の大桟	市指定 歴史資料	
193	浜村家能面狂言面	市指定 有形民俗	
194	能衣装上田縞小格子厚板	市指定 有形民俗	
199	お舟の天王山車	市指定 有形民俗	
201	祇園祭礼屏風	市指定 有形民俗	
203	常田獅子	市指定 無形民俗	
204	房山獅子	市指定 無形民俗	
208	三ッ頭獅子	市指定 無形民俗	
210	前山三頭獅子	市指定 無形民俗	
211	上室賀三頭獅子	市指定 無形民俗	
212	下室賀三頭獅子	市指定 無形民俗	
229	岡城跡	市指定 史跡	
231	真田氏本城跡	市指定 史跡	
232	松尾城跡	市指定 史跡	
233	天白城跡	市指定 史跡	
234	横尾城跡・内小屋城跡	市指定 史跡	
235	根小屋城跡	市指定 史跡	
236	洗馬城跡	市指定 史跡	
245	赤松小三郎遺髪の墓	市指定 史跡	月窓寺
246	成沢寛経翁奥城（墓）	市指定 史跡	日輪寺
247	竹内善吾武信の墓	市指定 史跡	呈蓮寺
261	浦野城跡・御射山祭広庭跡	市指定 史跡	
	北国街道家屋群	未指定	塩尻・秋和・岩下・大屋
	保福寺道家屋群	未指定	坂下・浦野
	上州街道	未指定	戸沢・大日向

文化財の分布



(2) 基本的な方向性

守り伝えるべき価値

- ・ 集落まるごと、ひと、もの(有形文化財)、情報(無形文化財)
山城の城下や近世に遡りえる道筋には、地域の核となる集落と建造物群、文化財が集積され、現代に連なる集落・地域の中核として存在し続けている。
これらは、各々が単独で存在しているのではなく、密接に関連しながら伝承されてきた。

守り伝える方法

- ・ 現在、県や市の助成金を活用して、自治会誌や地域史などの編さん・出版が活発に行われている。こうした活動をさらに推進し、地域・集落でその文化財、すなわち住民が有形・無形の文化財を調査し、次世代の地域づくりと人づくりに継承していく。
- ・ 地域や集落の文化財や歴史の悉皆的な調査は、住民自らが地域を知り、次のまちづくりに向けた大切な活動である。こうした活動をさらに推進し、地域誌の編さん等の成果に結びつける。
- ・ 健康ウォークや公民館活動、学校教育と結んで、地域巡検活動を実施し、「地域を知る」活動を推進する。
- ・ 住民自らが文化財や歴史の調査を実施する際、その調査の方法やデータの整理を共有化し、全市的に相互活用できるシステムを構築する。

関連文化財群- 5 蚕都上田の蚕業遺産群

(1) 概 要

ストーリーの概要

江戸中期までの蚕種業は奥州福島の信達地方が本場となっていた。この地とほぼ同じ条件をもつ上田盆地に蚕種業が広まり、幕末には全国一の産地となる。蚕種製造でもっとも重要なことはきょう姐(カイコノウジバエ)のいない蚕でなければならない。この蚕の飼育には歩桑とよばれる桑が最適で、千曲川の氾濫原や虚空蔵山から山口扇状地にかけてのガレ地でよく育った。加えて寡雨という上田盆地の自然条件を最大限に利用して蚕種業が発展してきた。

明治以降は器械製糸が普及し、生糸を大量に生産した。大迫輝通は『日本の製糸都市』で1,000釜以上ある製糸業の盛んな都市を上げているが、上田は最盛期には1,500釜以上を擁し、県内では岡谷・須坂・松本・小諸などとともに製糸都市としても繁栄した。

こうした蚕糸業のなかで、上田を最も特徴付けるのが蚕業の教育と研究である。明治25(1892)年、郡立小県蚕業学校が設立された。ここでは養蚕の実地教育に力を入れ、地域の養蚕業の技術向上に大きな役割を果たした。また、蚕業発展の人材育成に大きく貢献し、全国から集まった生徒たちは、修学後は郷里や国外で活躍して養蚕の発展に尽力した。さらに、明治44(1911)年、わが国で唯一の蚕糸学の国立専門学校である上田蚕糸専門学校が、議会の尽力により誘致・設立され、教育と蚕業に関する研究が行われ、蚕糸関係を中心とする技術革新が進められてきた。

明治21(1888)年、国営で信越本線が開業し、上田地域の蚕業製品が世界へと輸出され、上田の近代化は一気に進む。こうした産・学・官の連携による蚕糸業の発展は近代の上田の大きな特徴となっている。

蚕糸業で栄えた農民の中から、あらたな思想や学問を学ぶ気風が芽生える。神川村の青年、金井正と山越脩蔵は、哲学者西田幾多郎の存在や社会主義を学び、軍拡反対と普通選挙実施を訴えていた。そうしたなか、ヨーロッパ留学から戻った山本鼎と知り合い、児童自由画教育と農民美術運動を興すとともに、猪坂直一とともに信濃自由大学も開講し、これらの運動は、全国的に広がっていく。

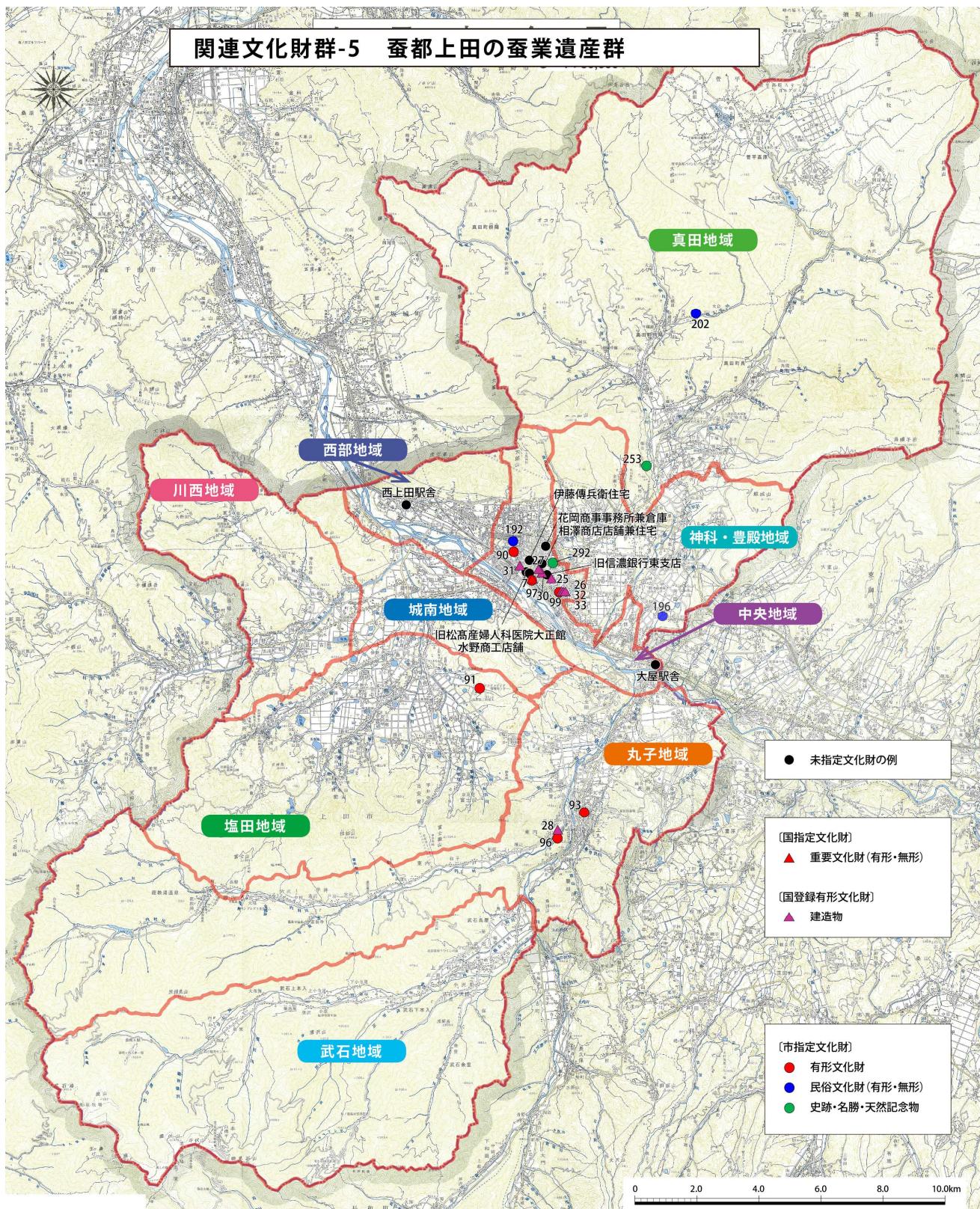
昭和恐慌を契機に、蚕糸業は衰退し、製糸業は昭和59年に、養蚕業は平成11年に終焉を迎える。しかし、蚕都繁栄の証として、旧常田館製糸場施設(重文)をはじめ、養蚕家屋群や蚕種の製造家屋と風穴、駅舎・教会などの近代建築などが市内の至る所に見られるばかりか、上田蚕種協業組合では現在もなお蚕種製造が続けられ、上田蚕糸専門学校は信州大学繊維学部へと発展し、新たなファイバー技術により医療や宇宙服など最先端の研究を続けており、進取の気風は、いまなお上田市民に受け継がれている。

「蚕都上田」という表現は、猪坂直一が執筆した『上田近代史』(昭和45年刊)が初見である。

関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
7	旧常田館製糸場施設	国指定 建造物	明治 36 年ほか
25	上田蚕種協業組合事務棟	国登録 建造物	大正 6 年(1917)頃
26	信州大学織維学部講堂	国登録 建造物	昭和 4 年(1929)
27	旧常田幼稚園舎	国登録 建造物	大正 8 年(1919)
28	依水館主屋	国登録 建造物	大正 7 年(1918) 製糸結社、依田社の迎賓館施設
30	旧草間歯科医院	国登録 建造物	大正 12 年(1923)
31	飯島商店	国登録 建造物	明治 27 年頃(1894)他
32	信州大学織維学部資料館 (旧上田蚕糸専門学校貯蔵庫)	国登録 建造物	明治 43 年(1910)
33	信州大学織維学部守衛所 (旧上田蚕糸専門学校門衛詰所)	国登録 建造物	大正元年(1912) /昭和 4・39 年移築他
90	旧上田市立図書館	市指定 建造物	
91	旧宣教師館	市指定 建造物	
93	カネタの煙突	市指定 建造物	
96	依水館客殿及び玄関	市指定 建造物	
97	笠原工業常田館製糸場	市指定 建造物	
99	旧千曲会館	市指定 建造物	
192	藤本蚕種株式会社保存蔵標本	市指定 有形民俗	
196	円座	市指定 有形民俗	
202	三島神社の円座	市指定 有形民俗	
253	畠山発電所跡	市指定 史跡	
292	桑の木	市指定天然記念物	
	大屋駅舎	未指定	明治 28(1895)年 蚕糸業製品を世界に輸出するため に建設された全国初の請願駅
	西上田駅舎	未指定	大正 9(1920)年 大屋駅と同じく、地域の蚕業製品を 運び出すために開設された請願駅
	旧信濃銀行東支店	未指定	大正 14(1925)年 上田東駅開業とともに開店し、昭 和恐慌により閉鎖した銀行支店
	水野商工店舗	未指定	昭和 2(1927)年 もとは新聞店で、昭和 25(1950)年に 約 300m 廻家して移築した看板建築
	花岡商事事務所兼倉庫	未指定	昭和 5(1930)年 昭和初期の商店建築
	相澤商店店舗兼住宅	未指定 国登録申請中	昭和 10(1935)年 土蔵造の看板建築
	旧松高産婦人科医院大正館	未指定 国登録申請中	大正 4(1915)年 アメリカのパラディアニズムの影響を受けた印象
	伊藤傳兵衛住宅	未指定	大正 12(1923)年 上田瓦斯創立者で、元上田市長の住宅。伝統的な真壁造
	塩尻地区蚕種・養蚕家屋群	未指定	幕末～近代
	岩下地区養蚕家屋群	未指定	幕末～近代
	丸子地区養蚕家屋群	未指定	幕末～近代

文化財の分布



(2) 基本的な方向性

守り伝えるべき価値

・ 蚕種製造業の遺構と養蚕家屋群

上田の蚕種製造は、地域の先人の卓越した研究と技術により世界を席巻した。この技術は現在も上田蚕種協業組合(国登録)に継承されている。また、蚕糸の出荷時期を調整する風穴や冷蔵施設も多く残っており、上田の特筆すべき技術と遺構として重要な要素である。

また、蚕種製造や養蚕を行った養蚕家屋も、全市的に広く分布し、特に西部地区塩尻や丸子地区藤原田などに集中して残されている。これら養蚕家屋のスタイルは、当地方における住宅建築の規範となっており、養蚕を営まなくても住宅は養蚕家屋風にした家屋も散見され、上田の建築文化の特徴を示す。

・ 製糸場施設

現在の笠原工業株式会社に引き継がれた旧常田館製糸場施設(重文・市指定)は、国内でもほぼここにだけ残された木造多層の繭倉庫群と製造施設である。国内の多くの木造多層式繭倉庫が、業種転換により取り壊されていくなか、同社では、発泡スチロールの保管用倉庫として転用されて残ってきたことは、文化財の保存と活用のひとつのヒントとして貴重な例である。

・ 鉄道関連遺産

明治 21(1888)年開通の信越線の遺構は、上田地域の踏入や神川地域の大屋の河川のレンガ橋や、明治 29 年開業の大屋駅舎、大正 9(1920)開業の西上田駅舎などに残されている。この鉄道は、上田の養蚕・製糸だけでなく、上田市の社会全般の大変革をもたらしている。現在は第三セクターのしなの鉄道(株)によって利用されているが、近代化の象徴として重要な遺産として、その周知と保全、文化財を活かした利用者増などの活用を進める必要がある。

守り伝える方法

- ・ 本関連文化財群は、近代化遺産という、比較的新しいカテゴリーの文化財を多く含んでおり、鉄道や旧常田館製糸場施設、リフォームされた養蚕家屋のように、いまなお現役として活用されているものと、維持や世代交代の困難さから消えつつある養蚕家屋、風穴のように忘れ去られつつある遺産が混在している。風穴は近年、日本酒やワイン、そばの種の保存などに活用されつつあるが、新たな価値の付加や利活用の方法の開発などによって、文化財としての保存と活用の両立を図っていく。
- ・ 文化財として特に価値の高いものについては、指定や登録で保護を図っていく一方、現在も活用されている養蚕家屋や駅舎などについては、文化財の本質的価値を見据えたうえで、活用しやすい、住みやすい環境のための現状変更や改修を検討して、持続可能な文化財の保護を検討する。

関連文化財群- 6　近代の保養・観光開発の文化財群

(1) 概　要

ストーリーの概要

上田市には、塩田地区の別所温泉をはじめ、丸子地区の鹿教湯温泉郷(鹿教湯・大塩・靈泉寺)など、多くの温泉に恵まれている。別所温泉は、大和武尊伝説や枕草子の「七苦離の湯」「七久里の湯」の伝承を持つ。また、上田藩主や家臣らの湯治場として利用されてきた。大正の初めまでは大湯と北向觀音の周辺に5、6軒の旅館があるだけの温泉であったが、大正6(1917)年には、前島密や上田郵便局長だった飯島七郎兵衛との縁で立憲改進党の国會議員となり、別所で蚕種・両家業を営んでいた南条吉左衛門が花屋ホテル(国登録)を創業、同7年からの内湯化の推進、大正10年には別所線が開通し、一気に温泉観光地として繁栄する。

鹿教湯温泉郷は、文殊菩薩の化身の鹿が教えた湯として、古くから湯治場として栄え、文殊堂(県指定)が建立されている。昭和31(1956)年には厚生省により、靈泉寺温泉、大塩温泉とともに国民保養温泉地に指定、温泉を利用した鹿教湯病院のリハビリ施設とともに現代湯治医療地として発展してきた。

菅平高原や美ヶ原高原では、高地・冷涼な自然を生かしたスキー場やリゾート地の開発が行われてきた。菅平高原では、昭和2(1927)年に馬場忠三郎が菅平の開発に着手し、菅平の四季の良さやスキーツアーコースの開発・紹介のため「上田山岳会」を創設した。昭和5(1930)にはオーストリアのスキー指導者シュナイダーが来日し、日本で初めて菅平で滑走し、日本の近代スキーが始まった。

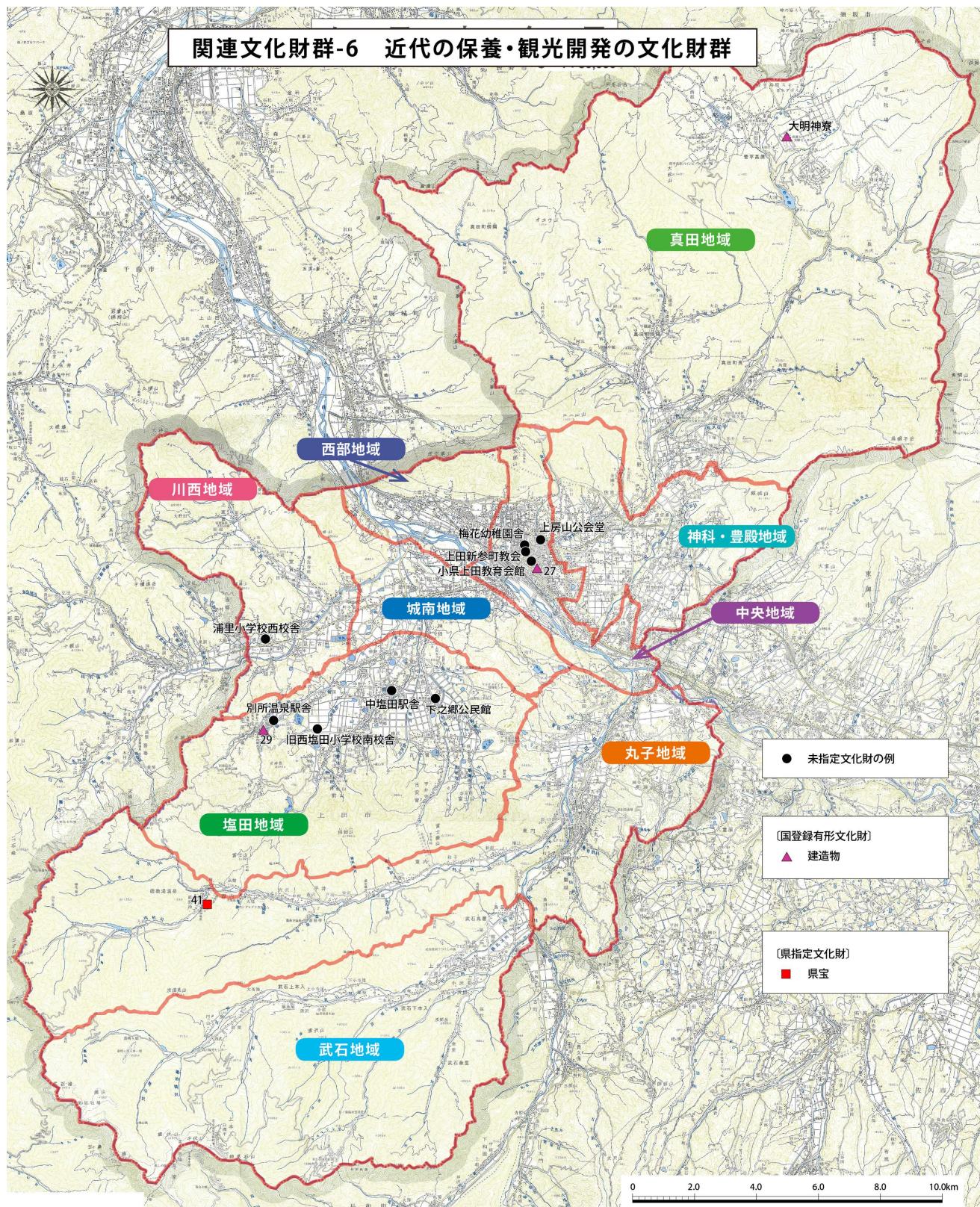
美ヶ原高原の山頂付近は、古代から牧として利用され、明治42(1909)年には美ヶ原牧場が開かれ、本格的な牧場として利用が始まった。昭和5(1930)年に山本小屋が開業し、登山者が増加した。同29年には道標と避難所として「美しの塔」が建設され、同32年には林道が、同56年には観光道路の「ビーナスライン」が開通し、美ヶ原のリゾート開発は一気に進む。一方、この道路の大部分が、八ヶ岳中信高原国定公園にあたり、希少植物が自生する区間があり、着工し始めた美ヶ原線への反対運動が起こった。これに対し、長野県は「扇峠～美ヶ原台上の一部ルート変更」「美ヶ原台上の美ヶ原(高原美術館)～王ヶ頭の車道計画の中止」と計画を変更した上で開通させた歴史もある。

こうした地域の文化財や温泉、自然の資産を活用し、地域を発展させるため、信越線上田駅や中心市街地を発着点とする鉄道網が開発され、さらに中断したものの、上田と松本、上田と菅平を結ぶ計画も構想されながら、近代上田市は発展してきた。その過程では、多くの文人や政治家、学者等が上田を訪れ、新しもの好きの上田市民は、革新的な思想や運動を展開している。

関連文化財

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
27	旧常田幼稚園舎	国登録 建造物	大正 8 年(1919)
29	花屋ホテル	国登録 建造物	大正 7 年 (1918) 他
新登録	筑波大山岳科学センター菅平高原実験所大明神寮	国登録 建造物	
41	文殊堂	県 宝 建造物	天竜寺 江戸時代
	上田電鉄 別所温泉駅舎・中塩田駅舎	未指定	大正 10(1921) 年 大正 10 年開通の上田から別所温泉にいたる上田温泉軌道の駅舎
	下之郷公民館	未指定	大正 5(1916) 年
	上房山公会堂	未指定	昭和 4(1929) 年
	小県上田教育会館	未指定	昭和 13(1938) 年
	梅花幼稚園舎	未指定	明治 35(1902) 年 キリスト教布教のために幼稚園教育を実践した建物
	上田新参町教会	未指定	昭和 10(1935) 年 明治 33 年以来のメソジスト教会。
	浦里小学校西校舎	未指定	昭和 12(1937) 年 地域住民が心血を注いで建てた小学校舎
	旧西塩田小学校南校舎	未指定	昭和 9 、 24 、 26 年の増改築で、校舎の設計規格の変遷が知られる。

文化財の分布



（2）基本的な方向性

守り伝えるべき価値

・ 温泉の発展史と文化財群

温泉地は現在、温泉リゾートとして観光が主となっているが、長野県では古来から湯治場として療養が温泉の主目的であった。そこに近現代の医療とリハビリ機能が付加されて発展したのが鹿教湯温泉である。温泉街の旅館建築と文殊堂(県指定)などの文化財、そして療養施設が一体となって現代に伝わる要素は、長寿県長野を支えた文化として保全する。

別所温泉は、上田藩主や家臣の湯治場として利用され、近代には鉄道の敷設、近代ホテルの建設により、近代リゾート地として周辺の寺社等文化財のPRとともに発展してきた。別所温泉の発展とともに、当地には塩田地区の先進的な人物により、革新的な思想家や学者が招かれ、また新たに地域独特の革新活動が展開されてきた。常楽寺を核とした夏季大学開設や反核平和運動、旅館経営者による革新思想の保護などは、古代以来の別所温泉の歴史と文化財とともに、継承される気質である。

・ リゾート活用と自然保護

美ヶ原の開発では、高度成長期の開発と環境保護が先鋭的に表れた。こうした議論は、1996年の長野オリンピックの道路や会場整備でも顕著に表れ、自然の保護と開発の調和が図られている。2019年にはラグビーワールドカップのイタリア練習会場として菅平高原が決定し、東京オリンピックでも関連開発が予想される。開発と環境保全を天秤にかけるのではなく、両立を目指して議論してきた歴史は、今後も引き継がれるべきことである。

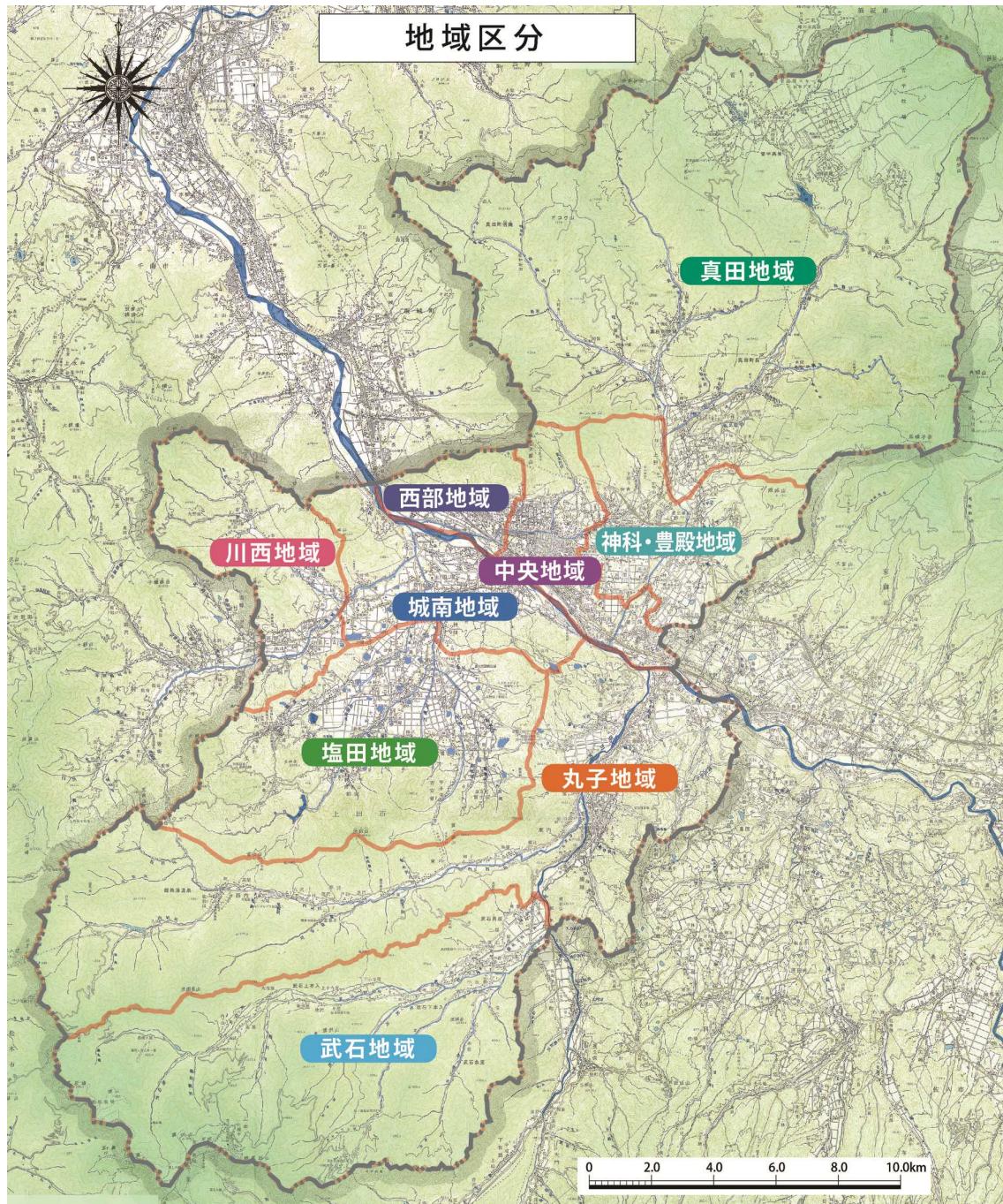
守り伝える方法

- ・ 上田地域の温泉地の旅館は現在、宿泊者数の激減により閉鎖が相次いでいる。この背景には、新幹線や自動車道による首都圏からのアクセスの良好さにより、日帰りや通過地となってしまっていることが挙げられる。滞在型プランの構築や周辺文化財のPR、川魚や松茸、地場グルメとの複合的な戦略により、温泉街と周辺の文化財を保全していく。
- ・ 上田市は市域内で四阿山の2,354mから、盆地部の420～430mと、標高差が2,000m弱を図る。また、昼夜や夏冬の寒暖差も大きい。このため、多種多様な生物が存在していることを、文化財マップ等を活用するとともに、自然保護活動や青少年育成キャンプ、大学と連携して、自然の実態を伝え、開発と保護の両立を図る。

第6章 歴史文化保存活用区域の設定

第二次上田市総合計画では、「地域の特性と発展の方向性」において、「自然や文化などそれぞれの地域の特性を生かしながら、将来の発展に向けて地域が取り組むまちづくりの方向性」を平成18年の市町村合併時に定めた九つの地域において示している。この九つの区域は幾たびかの合併の経緯のなかでも、旧町村の単位と文化的背景を引き継ぐものであり、中学校や公民館の設置単位ともなっている。

歴史文化保存活用区域の設定においても、この総合計画を発展的に踏襲する。



(1) 中央地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
中央地域	上田城跡や信濃国分寺など上田市を代表する歴史的遺産を擁した市の中心地域	歴史的資源や豊かな自然環境を保全・活用した賑わいと交流の拠点を目指します。	歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり 数多く残る歴史遺産の価値を再認識して、観光振興に生かすとともに、こうした遺産との融合・調和を図り誇りをもてるまちづくり」、「歴史的文化遺産ともいるべき、地名等についての認識を深めて、地元住民の意見を聞きながら、歴史的地名等を後世に残すまちづくり
		産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興	農民美術、上田紬や蚕都上田として栄えた歴史的文化に触れながら、地域に伝わる伝統工芸の振興、後継者の育成と技術の継承

歴史文化の特徴

中央地域は、昭和 31 年(1956)に古代以来の信濃国分寺跡と近世後期以降の養蚕家屋(群)を擁する旧神川村の範囲と、戦国～近世の上田城跡と城下町、そしての近代の旧常田館製糸場施設をはじめとする蚕業関係や近代化遺産が多く存在する大正 10 年以前の旧上田町の範囲が存在する。その結果、中央地域ではバラエティかつ秀逸な文化財群により歴史と文化が形成される。

旧神川村は上田城下町からはやや離れた村方であるが、北国街道も通り、国分寺は庶民の信仰を集めて賑わった様子が江戸中期頃に描かれた「八日堂縁日図」からも知られる。室町時代に成立したと考えられる蘇民将来信仰も門前の村人がつくる蘇民講によって組織化されるようになった。「信濃国分寺勧進帳」は、現存する本堂を江戸時代末期に再建するにあたって集められた寄進の内容を書き上げたものだが、藩主松平氏をはじめ、城下の有力商人たちの名が見える一方で、信濃一円から上州、江戸までの庶民の名前もあって、信濃国分寺に対する信仰の広がりを知ることができる。ちなみに本堂は文政12 年(1829)に発願され、30 余年を経た万延元年(1860)に東信地方では最大の近世仏堂建築として竣工した。

一方旧上田町では、天正11 年(1583)真田氏による上田城築城と、以降の城下町の形成により地区の地割りが確定した。この城下町の形成に伴い、多くの社寺が他地域から移築造営され、多くの文化財が残されているばかりでなく、この地割りが現在にまで連なる町並み景観の原型となっている。

徳川幕府の時代には、城主が真田氏から仙石氏、松平氏と代わる中、城下町は北国街道上田宿をはじめ上州道、保福寺道等を通じた物資の集散地として栄える。様々な産業が育ち、特に上田紬は養蚕とともに大きな発展をみせた。

近代になると、中央地域全体に近代化の波が押し寄せる。現在のしなの鉄道、旧信越本線は明治18 年(1885)に高崎から横川まで、同21 年(1888)に直江津から軽井沢ま

でが開通し、同26年（1893）に碓氷峠を越える難工事が完成したことにより全通した。上田駅は明治21年（1888）8月に直江津線の仮終点として開業した。一方、上田から軽井沢までの間には田中・小諸の2駅しかなかったため、神川地区と北信・中信・東信域の利便と養蚕・製糸業発展のため大屋駅開設の請願が出され、明治29年（1896）1月に新駅が実現した。さらに大正7年（1918）には大屋と丸子を結ぶ丸子鉄道が開業するが、同14年（1925）にはこれが大屋から上田東まで延伸された。

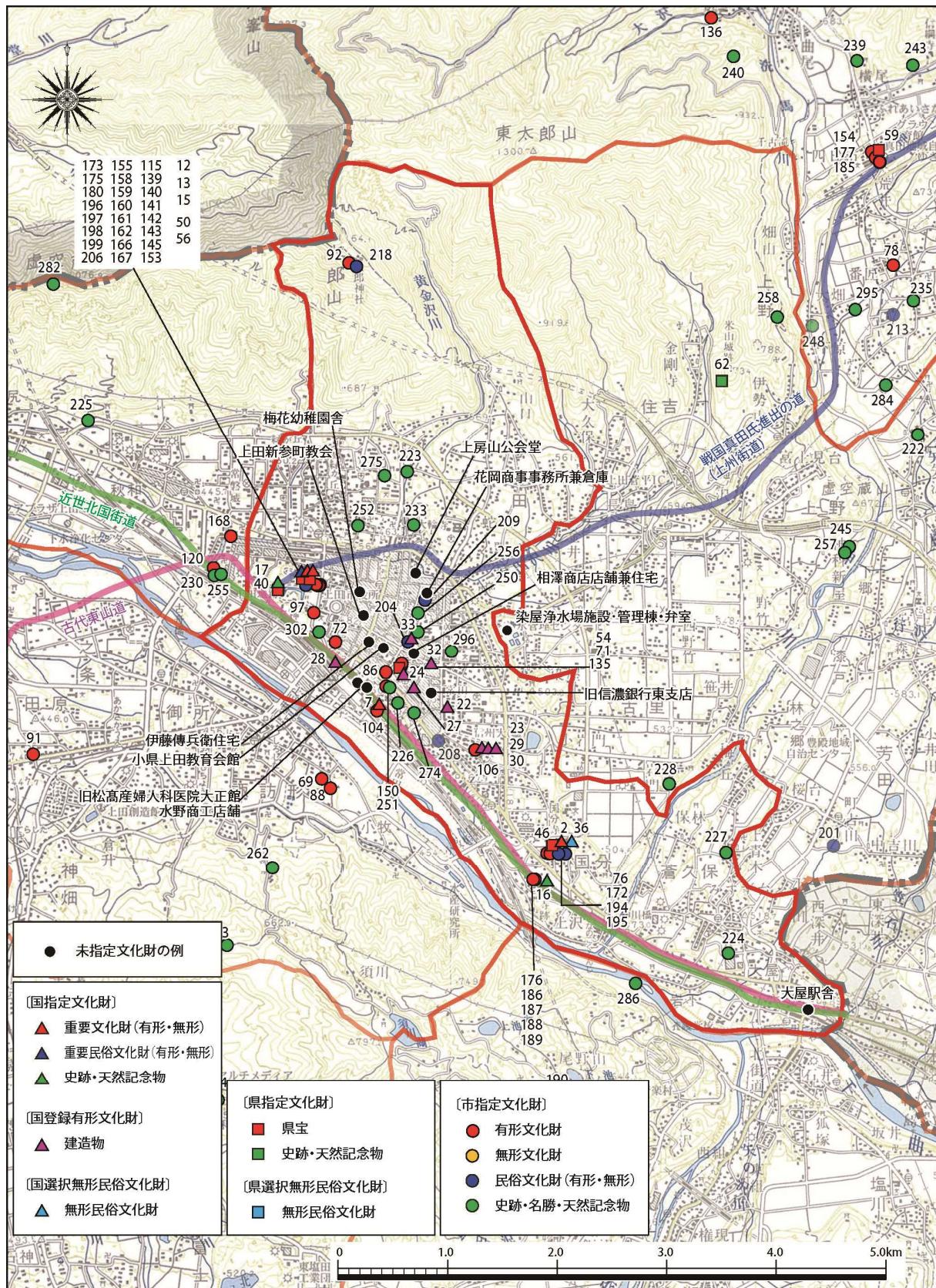
近代化の様相は、城下町地域では製糸工場や公共建築・学校建築・医院・商店・教会等の近代建築に残され、城下町の伝統的な景観の中にアクセントを添えている。一方神川地区では主屋・土蔵・蚕室・倉庫・門・塀などを構えた養蚕家屋の大遺構が形成されるとともに、大屋駅周辺では、蚕業製品出荷のターミナルとして、旅館や料亭等の歓楽街が発展し、その遺構は現在も散見できる。

こうしたなか、神川村の青年、金井正と山越脩蔵は、哲学者西田幾多郎の存在や社会主義を学び、軍拡反対と普通選挙実施を訴えていた。こうしたなか、ヨーロッパ留学から戻った山本鼎と知り合い、児童自由画教育と農民美術運動を興すとともに、猪坂直一とともに信濃自由大学も開講する。これらの運動は、全国的に広がっていくとともに、その後の上田市の社会教育や生涯学習の大きな指針となっている。

保存活用の方向性

旧神川村の信濃国分寺を中心とするエリアについては、平成17年に策定した史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画によって国分寺跡周辺の国分の養蚕家屋群や北国街道沿いの養蚕家屋等について保存活用の方向を定めている。この範囲外となっている神川以東の範囲についても、大屋駅前から岩下、国分に向かう旧北国街道沿線は、街道筋の町並みを軸に養蚕家屋群や、大屋駅周辺の近代建築、レンガ橋梁等の近代化遺産が形成されており、これらを景観の規範として活用した町並み整備が必要である。

旧上田町における城下町の街道筋に残る町屋や社寺、養蚕家屋、土蔵、近代建築の町並みは、本区域の歴史文化の発展の重層性を際立たせている。すでに策定されている上田城跡の保存活用計画とともに、この町並みや建造物を活かした修景指針の策定は、上田城跡の魅力をさらに輝かせるものとして必要となっている。



中央地域 文化財分布図

(2) 西部地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
西部地域	歴史的、文化的資源を保全しながら、恵まれた環境を生かすとともに、商業機能などを活用して、賑わいを創出するまちづくりを目指します。 旧北国街道沿いは歴史的建造物が今も残る閑静な住宅地	歴史的遺産等の積極的な活用による地域の振興	地域資源の調査を行い、必要なものの保全を図るとともに、観光資源につなげていくなどの利活用を推進
		地域が誇れる自然環境の保全、整備と有効活用	地域の伝統文化や昔から伝わる行事の継承を推進
		多様な地域の資源を活用し、将来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てるまちづくり	矢出沢川沿いの遊歩道、公園、北国街道、歴史の散歩道、山城などを生かしたトレッキングコースを設定し、新たな観光資源の創出や健康づくりへ活用
			子どもが自然に親しめる広場・公園を整備し、自然に親しみ、郷土の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りを持てる子どもたちを育成
			学校と地域が連携し、地域ならではの行事への参加や伝承を通じて、地域ぐるみで子どもの郷土理解と育成を推進

歴史文化の特徴

西部地域は、虚空蔵山の南麓を北国街道が通り、この街道筋の町並みと景観が色濃く残る地域である。特に上塩尻は上田宿の助郷として発展し、参勤交代の休憩所ともなり、加賀の殿様の雪隠といわれる遺構もある。

また西部地区の中でも、秋和、上塩尻、下塩尻は、幕末から蚕種製造と養蚕業が発達し、養蚕家屋群を形成している。この地区に蚕種製造業と養蚕業が発達した背景には、千曲川の川風が岩鼻の狭隘地を抜けることによって強風となり、蚕の有害虫の発生が抑えられたり、田畠とならない痩せた河原や虚空蔵山の急斜面が桑園として活用された自然環境も大切な要素である。

城下町の北側から北国街道に沿って形成される町並みも、少しづつ新しい住宅に建て替えられたり、更地となっている土地も多いが、その地割りのため、街道筋の雰囲気をよく残している。特に新町自治会から諏訪部自治会にかけてのエリアでは、北国街道と松本に向かう保福寺道との分岐や、城下を隔てる矢出沢川にかかる高橋、そして舟形など、近世城下町と街道の様相が凝縮されている。さらに、保福寺道を古舟の渡しに向かって下る坂下には、幕末から近代の大養蚕家屋がまとまって残り、往時の繁栄を色濃く伝えている。

保存活用の方向性

北国街道筋、保福寺道沿道に残る養蚕家屋や土蔵の町並みが本区域の歴史文化の特徴となっている。この町並みや建造物、虚空蔵山の山城跡や近代請願駅の西上田駅舎、さらに千曲川と虚空蔵山の自然景観をとりこんだ修景指針と保存活用計画の策定が必要である。

(3) 城南地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
城南地域 千曲川や半過岩鼻をはじめ上田原古戦場など、原風景が多く残る地域	千曲川をはじめ産川や浦野川、小牧山や上田原古戦場、半過岩鼻など奇景や原風景の残る豊かな自然や農地を大切に保全するとともに、秩序ある都市空間づくりを進めます。	「上田 道と川の駅」を活用した地域振興の推進	千曲川・半過岩鼻などの自然環境、上田原古戦場・天白山などの歴史的資源及び芝生広場・ウォーキングコースなどの公園施設を生かした観光振興の推進
		歴史的・地域的資源の保全と活用	地域の歴史や文化を伝承し、地域に誇りと愛着を持ち歴史的・地域的資源の保全を推進
			歴史的資源を活用し、地域住民同士の交流を通していきいきと生活できる地域づくりの支援

歴史文化の特徴

城南地域は、千曲川を挟んで上田城の南対岸に位置し、城下地区と川部地区の2地区によって構成される。西部地区の諏訪部字唐臼付近が古代東山道の曰理駅に推定され、そこから千曲川を渡った対岸の中之条～上田原～築地に字界が条里を斜行していることや地名から古代東山道が推定される地域である。戦国期には、村上氏と武田氏の激戦地である上田原古戦場が地域の中心にある。周辺には合戦で亡くなった武将の墓や供養の寺が点在する。近世には、ほぼ同じルートに上田城下から松本に向かう保福寺道が通り、これに沿うように大規模な養蚕家屋の集落が発達している。

大正10年(1921)、塩田地区の別所温泉と青木村の田沢温泉・沓掛温泉への湯治客を輸送する軌道線として三好町駅(現在の城下駅)～上田原駅～青木駅を通る「青木線」と、上田原から分岐して別所駅(現在の別所温泉駅)間の「川西線」(現在の別所線)の2路線が開業している。温泉リゾートにおける鉄道敷設の歴史では、比較的早期に位置するものと思われる。

第二次世界大戦中は、上田飛行場や上田原地下工場など置かれ、ここに向かう軍用道路も敷設されており、これらの遺跡は現在多く残っている。

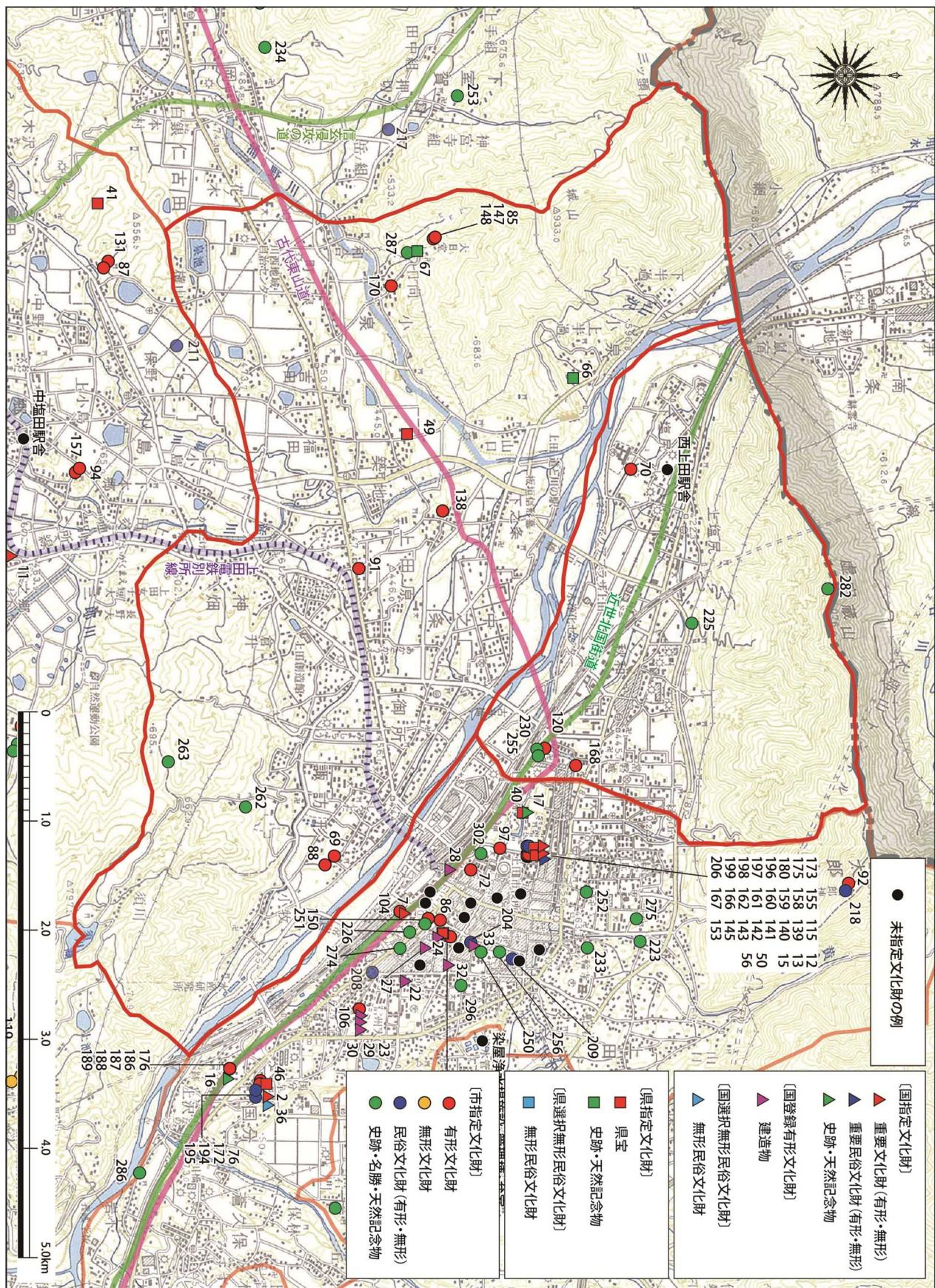
城南地域における自然景観では、千曲川と半過岩鼻の景観はひときわ目をひくものである。岩鼻は、半過岩鼻と千曲川を挟んで北に対する塩尻岩鼻からなる。半過岩鼻は1,500万年前の海に堆積した別所層の泥岩中に貫入した角閃石石英ひん岩で、隆起後に侵食を受けて岩体が露出したものである。対する塩尻岩鼻は緑色凝灰岩で、もとは一続きであった。その後千曲川断層と千曲川の活動により、高さ110m余の切り立った崖となった。中腹に見える大きな凹みは、千曲川の河床が今よりも高かったころ川の水がぶつかって削り取った跡であるが、その奇景から巨人「でえら坊」、「大鼠と唐猫」、「小泉小太郎」伝説がある。さらに、岩肌には北海道などに分布する植物「モイワナズナ」や野鳥「チョウゲンボウ」の繁殖地としての価値も高い。

保存活用の方向性

保福寺道にそった街道筋に発達した養蚕家屋の集落は、上田と松本を結んだ街道の存在を想起させるものであり、あるいは古代東山道にまで思いを馳せることが出来る景観であるため、これを保存整備する計画の策定が必要である。また、別所線は上田市の「別所線に乗ろう」運動と連携して、特に当地域では千曲川橋梁の保存を目指す。

半過岩鼻については、直下に建設された「上田道と川の駅」を運営する「おとぎの里」の活動と連携して、地質学的な意味や、伝説、動植物について周知と保護を図っていく。

西部地域 城南地域 文化財分布図



(4) 神科豊殿地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
神科豊殿地域	砥石米山城跡、矢沢城跡などの歴史資源、神川、太郎山、稻倉棚田などの自然資源を有する	広域交通の結節点である上田菅平インターを上田市の玄関口として、史跡や田園、自然資源など地域資源の連携と活用により産業・観光振興や地域間交流の促進を進めます。	地域の農業振興と地域内の財産・資源の活用	地域の財産である砥石米山城跡、矢沢城跡、稻倉棚田、未整備の伊勢崎城跡（富士見台、神科新屋地籍）、矢花古墳群等を再認識・再発見し、広く発信

歴史文化の特徴

神科豊殿地域は、昭和32年(1957)年に神科村が、翌33年に豊殿村が上田市に合併している。豊殿村と上田市の合併は、昭和28年政府が公布した町村合併促進法により合併したもので、上田市にとっては、これが最初の昭和の大合併により誕生した編入相手の村であった。こういう事情もあり、合併後にも村役場を市役所支所として存続させて上田市役所豊殿支所となり、以降の合併相手の役場も市役所支所として存続されることとなる。現在の地域自治センターの第1号ともいえる。

当地域は、神川によって西の神科地区と東の豊殿地区に分けられる。神科地区は、北に太郎山を背負い、麓の扇状地は近代には桑園、現代にはリンゴなどの果樹園として開発されてきた。地域の大部をなす染屋台地には古代末から中世にかけて開拓されたと推定される染屋台条里水田跡遺跡が拡がるが、遺跡調査の成果では確認されていない。一方豊殿地区は、東に殿城山が聳え、東側の神川段丘上に水田地帯が広がる農村の景観を色濃く残す地域である。

当地域は、戦国時代に真田氏や武田氏、村上氏らが戦を繰り広げた砥石米山城跡をはじめ、真田・上州から上田盆地に抜ける上州道を抑える山城群が数多く存在する。砥石城下の伊勢山地区や畠山地区、米山城下の金剛寺地区、矢沢城下の矢沢地区など、山城の麓には城下町も発達した。また、上州道筋の金井・蛇沢地区や、上田から東御市祢津地区に向かう祢津街道筋の中吉田地区には、街道の町並み景観が見て取れる。そして、北国街道の大屋付近から北上して真田地域で上州道に合流する道筋(現在の長野県道176号下原大屋停車場線の前進)も発達しており、下吉田から漆戸、下郷、赤坂地区に大きな養蚕家屋が集積している。このように、山城の城下町や街道筋の街では、近代に養蚕家屋群も形成し、現在の集落の基をなしている。

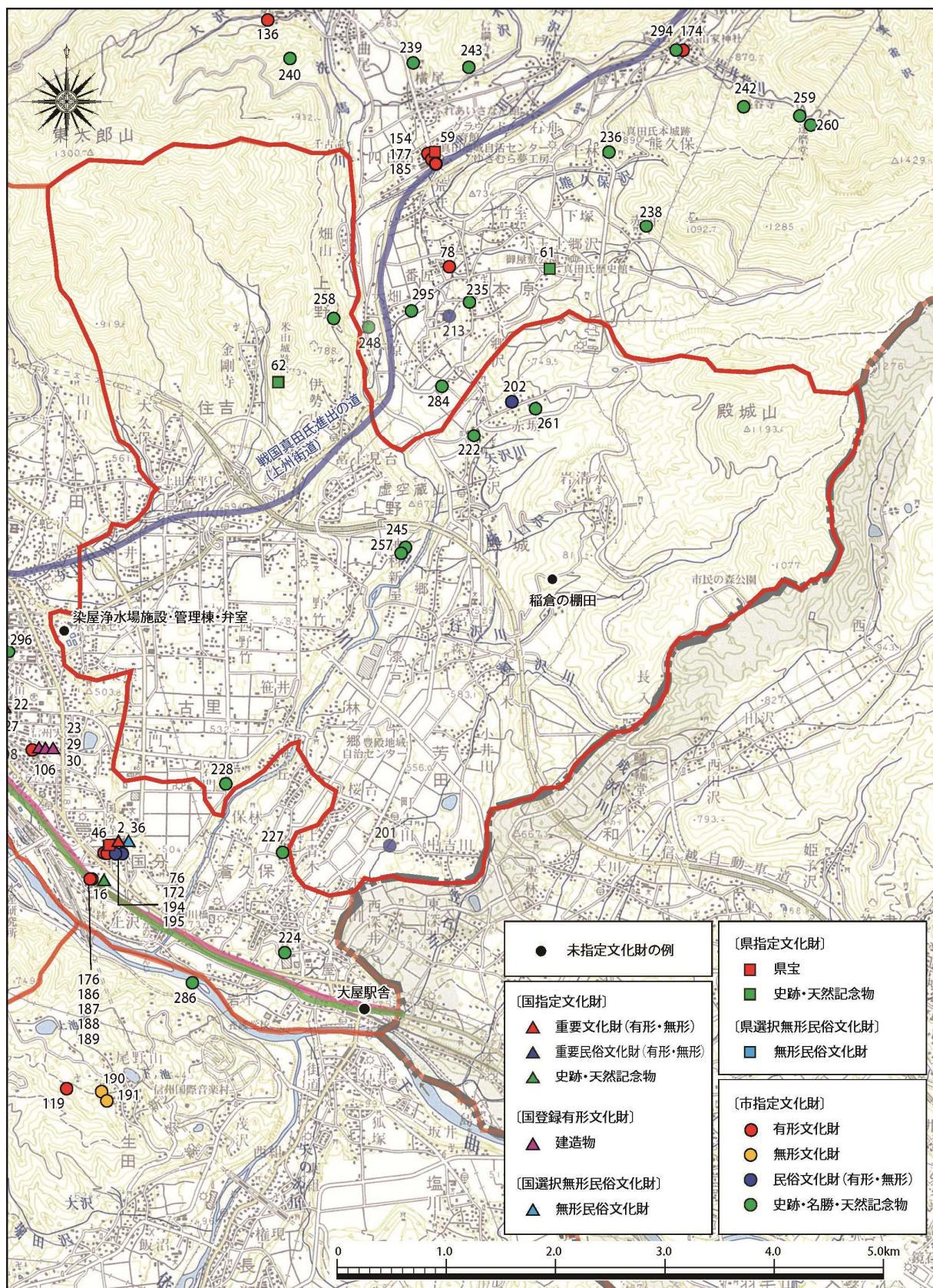
また、明治35年(1902)には、近代化の象徴ともいえる発電所が神川沿岸の畠山地区に築造され、上田の町に初めて電灯を灯した史跡が残されていることは、蚕都上田の記念碑的な遺跡となっている。昭和2年(1927)には真田傍陽線が神科豊殿地域を通り、昭和47年(1972)に廃線となっている。同線の伊勢山トンネルはその後、ブナシメジの生産に活用されている。

地域の北東端の殿城山麓に所在する「稻倉の棚田」は、元禄期頃から開拓が進んだ

と伝え、平成11年(1999)農林水産省の「棚田百選」に選定され、地域住民らが中心となつてその活用を進めている。

保存活用の方向性

地域を貫く上州道と祢津街道その沿線や支道の養蚕集落景観の保全とともに、山城跡やその城下町の景観保全など、神川や山々の自然環境と歴史的景観を総合的に把握できる計画の策定が必要である。



神科豊殿地域 文化財分布図

(5) 塩田地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
塩田地域	重要な観光資源である別所温泉と多くの史跡・文化財の集積	豊富な資源と貴重な財産を見つめ直し、生かします。 貴重な史跡・文化財を保全し、次世代へ継承します。	地域特性を生かした観光振興	史跡や文化財を結ぶ道路・遊歩道の整備等、観光ルートの整備促進
			史跡・文化財の保全と次世代への継承に向けた取組の推進	史跡・文化財の保護保全に取り組む地域団体との連携協力の促進

歴史文化の特徴

塩田地域は、南に独鈷山塊、西に夫神山塊が聳え、年間降水量 900mm の寡雨という自然環境のなかにある。山々や水源の神仏に対する雨乞いの習俗と伝説、現在 140 余りの溜め池や灌漑用水の開拓によって克服してきた歴史は、この地域を最も特徴付けるものである。

塩田地域の地名や神社名からは、律令期前後の氏族等の名があり、このころから中央の勢力と結びついた開発が進んでいたようである。古代末には仏教文化圏が確立し、あわせて延喜式内社 2 社を置くほどの宗教的な文化圏を形成している。特に独鈷山麓や夫神山麓に多くの寺社が建立されてきた。文化的に大きく発達した塩田地域には、北条氏による守護所がおかれ、鎌倉道が塩田城跡から鎌倉に東行していた。守護所の設置と相まって、中世新仏教も入り「信州の学海」と称される仏教文化が隆盛した。

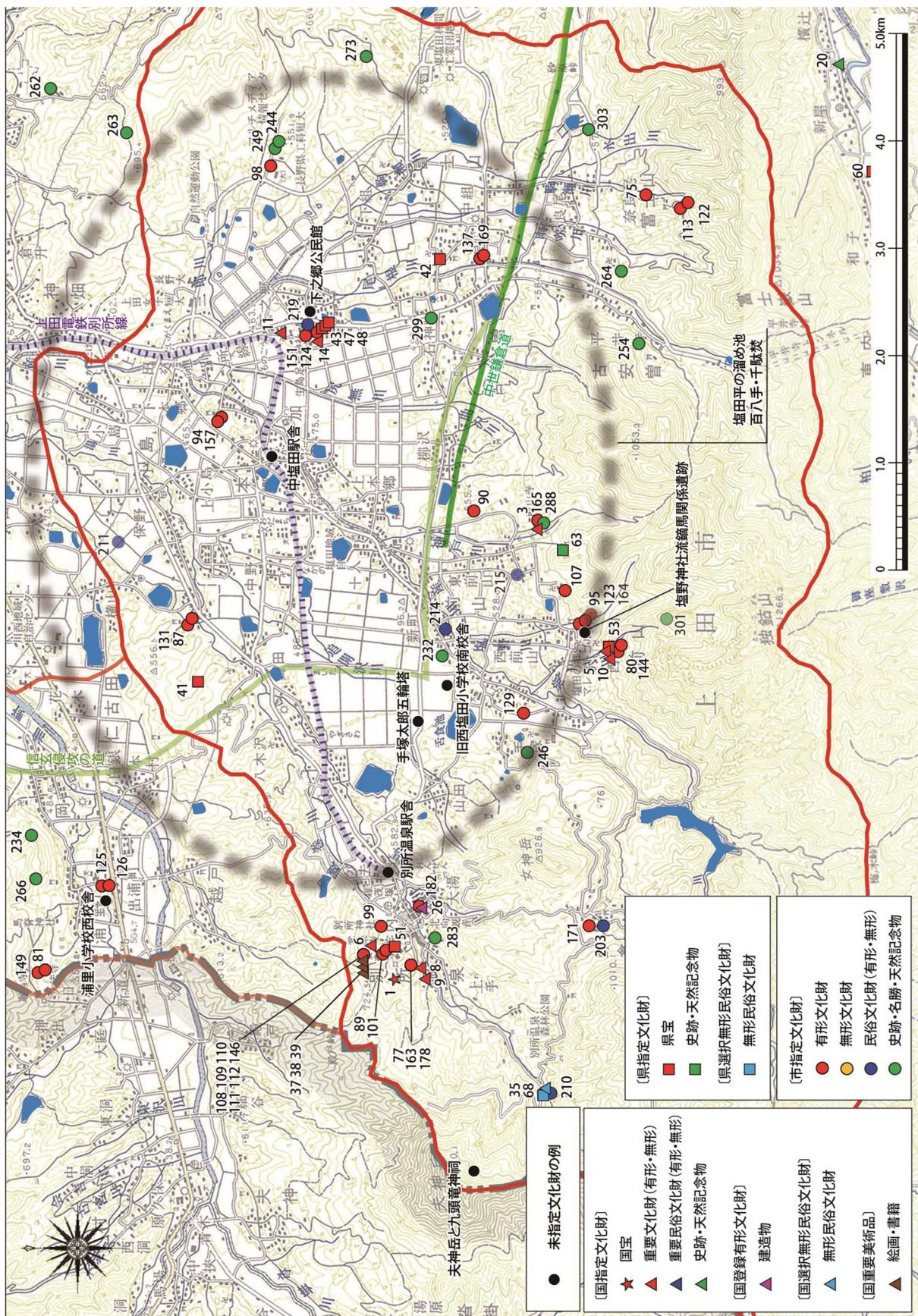
厳しい自然環境を克服して開拓した豊かな穀倉地帯は、戦国期には武将たちの合戦の的となり、村上氏・武田氏、真田氏がその霸権を競っていた。塩田城跡や寺社の安堵状などに武将たちの姿が知られる。近世には、上田藩を中心に溜め池の築造と新田開発が盛んとなる。上田城下から別所にむかう別所道もあり、沿線の小島・保野・舞田・八木沢等の街道の町並みや塩田地区の農村の景観が形成されている。

大正 10 年(1921)、塩田地区の別所温泉への湯治客を輸送する軌道線として三好町駅(現在の城下駅)～上田原駅～別所駅(現在の別所温泉駅)間の「川西線」(現在の別所線)が開業している。温泉リゾートにおける鉄道敷設の歴史では、比較的早期に位置するものと思われる。この鉄道敷設により、別所温泉には川端康成や北原白秋、川口松太郎、池波正太郎らの文人やタカクラテルや山本宣治らの革新思想家も招き、上田市の革新的な運動や思想形成に影響を及ぼしている。

保存活用の方向性

塩田地域には、上田市の関連文化財群のすべてに大きく関わる、厚みのある歴史文化が伝わるが、かつての穀倉地帯や山麓が宅地開発され、歴史的な景観が損なわれつつある。今後は、優良な宅地としての機能と歴史的景観を両立し、本地区の雨乞いや祇園祭、三頭獅子等との祭礼行事とも結びつけながら塩田地区の魅力を一体的に高めるため、具体的な保存・活用方策を講じていく必要がある。

塩田地域 文化財分布図



(6) 川西地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
川西地域	東山道に由来する古刹や史跡が多く点在	史跡などの地域資源の有効活用を進めます。	交流・体験を中心とした地域興しの展開	地域で活動する諸団体と連携を図りながら、自然豊かな環境を生かした都市部の子どもたちとの交流事業を推進

歴史文化の特徴

川西地域は、古代東山道が通った地域である。道筋はほぼ後の保福寺道に重なるものと想定されている。東山道が通った証として、浦野地区には馬背神社がある。馬背神社は延喜式内社子檀嶺神社(青木村)の東山麓に位置し、式内社に次ぐ社格を有している。また、塩田平の仏教文化圏の北辺にも位置し、東昌寺や高仙寺などは中世にまで遡る寺院と推定されている。さらに、平成17年には小泉字長谷田で推定東山道ルートに幅12mの道路遺構が検出され、東山道が具体的な姿を見せている。また、室賀峠の入口にあたる岳之鼻遺跡からは瓦塔片が出土しているほか、東山道と室賀峠の分岐にあたる高田遺跡からは布目瓦も出土し、古代の寺院などの施設が色濃く想定される地域である。

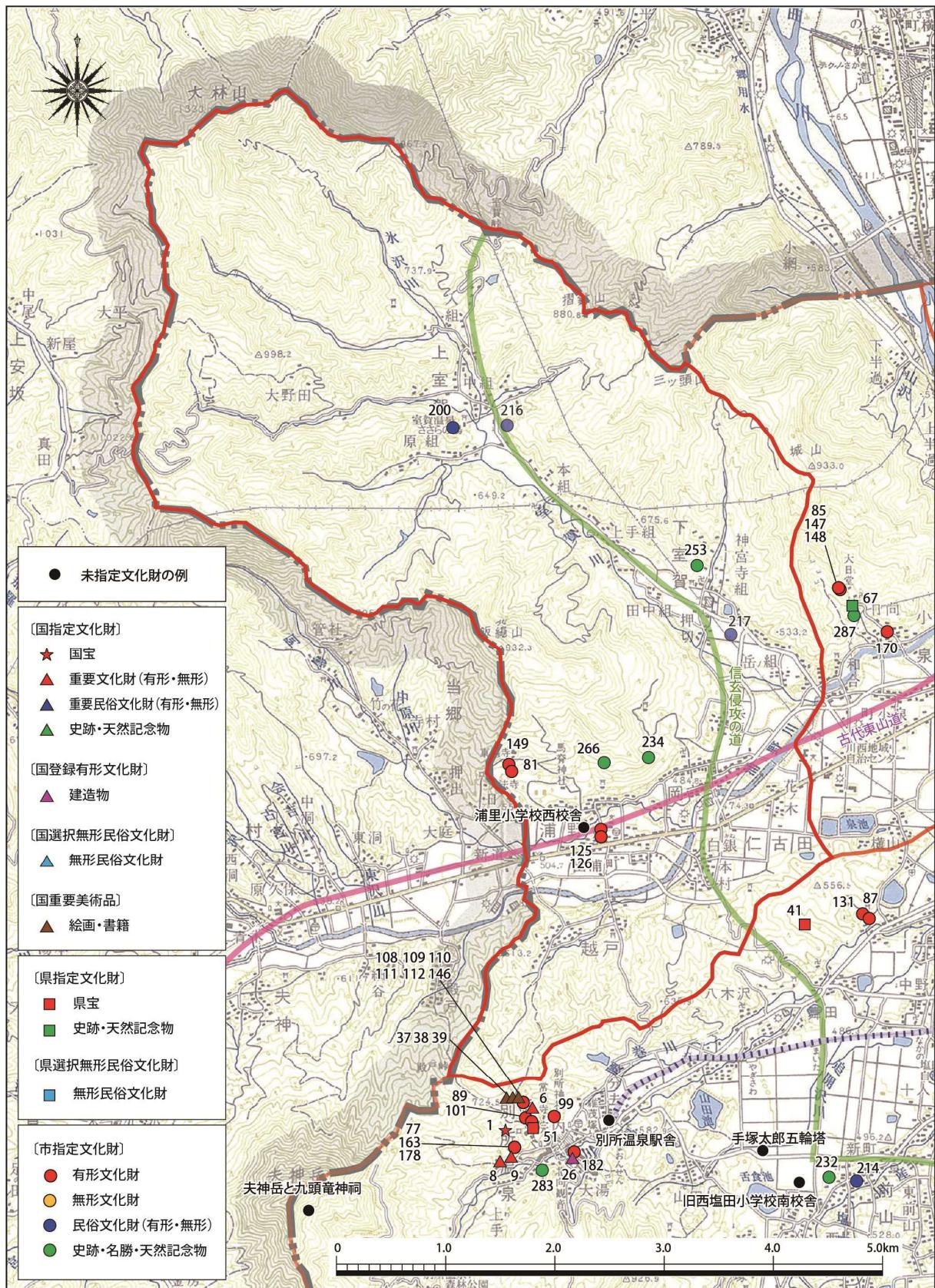
戦国期には武田信玄が岡城を攻略し、丸馬出を三方に持つ信玄流の縄張りに修築している。この地は、宿敵上杉謙信との決戦の地川中島・善光寺平へ向かう室賀峠へ繋がる道であり、信玄の小県西部の抑えであると同時に、北信濃攻略の足がかりとなっている。

近世には、上田城下から松本に向かう保福寺道が通り、沿線の町小泉、岡、浦野地区には街道筋の町並みが良好に残り、この町並みが近代の養蚕家屋群へと発展している。特に浦野地区は浦野宿となっていたため、宿場町の景観とともに枠形や高札場跡なども残っている。

なお第二次世界大戦末期には、仁古田山中に地下飛行場建設工場が着手されたり、飛行機の燃料に使うといって松脂を採取した跡なども周辺の山々に残っている。

保存活用の方向性

本区域は、古くから交通の要衝として栄え、街道の沿道や周辺地域には、街道と歴史的関連性を持つ様々な文化財が残されている。保福寺道や室賀峠の沿道に分布する文化財を、道の持つ歴史のストーリーと関連づけながら市民とともに理解を深めていく取組みを推進していく。



川西地域 文化財分布図

(7) 丸子地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
丸子地域	依田川を中心に、水と緑の豊かな自然環境に恵まれた地域	丸子温泉郷や信州国際音楽村などの観光・文化資源を効果的に連携させながら、地域内外の交流を促進します。	自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり	歴史的資産の有効活用を検討し、誇りの持てるまちづくりを推進

歴史文化の特徴

丸子地域には、依田川に沿って中山道長久保宿や諏訪地域と大屋地区を結ぶ大門道と、内村川に沿って松本地域と上田市を結ぶ三才山峠道が通っている。大門街道沿いには近代、依田川の良好な水質を利用した製糸工場が群をなし、すぐ北の大屋駅を通じて世界へ生糸を輸出した。また、このため丸子地域は、製糸工場の企業城下町として発展し、街道筋は商店街として発展した。一方、三才山峠道沿道の地域や製糸工場が進出しなかった飯沼地区、藤原田地区などでは良好な養蚕家屋が集積している。

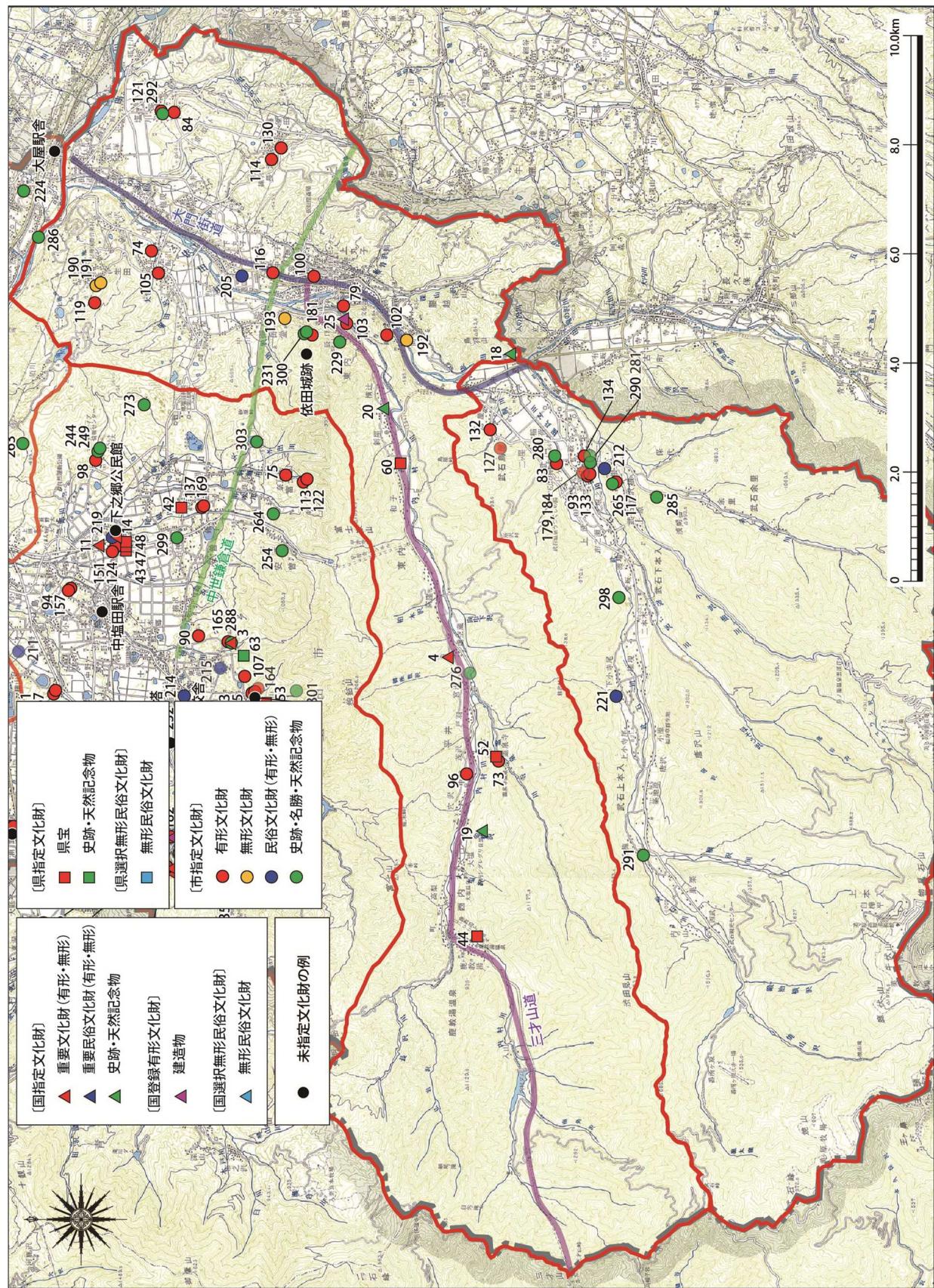
丸子地域の発展に上田丸子電鉄丸子線と西丸子線は欠かせなかった。丸子線は、大正7年(1918)に大屋～丸子町間を、その後大正14年(1925)には上田東～大屋間が開通し、昭和44年(1969)まで運行した。また、時同じくして大正15年(1926)に、塩田地区から乗り入れる西丸子線が別所線下之郷駅を始発に丸子町の中心部西丸子駅を結ぶ路線が開業した。同線は昭和36年(1961)の豪雨によって二ツ木トンネルと依田川鉄橋が破損するなど、全線で被害が出たのをきっかけに休止し、2年後に全線廃止された。西丸子線は当初から乗者数が少なかったようだが、丸子線と西丸子線が別の終着駅で、丸子駅と西丸子駅のエリアには町役場をはじめ、商店街や飲食店街、工場が形成し、現在もその面影を色濃く残す。戦後、丸子地域の製糸業は、金属機械工業へと業種転換し、製糸工場に関する遺構はごく僅かとなった。

三才山峠道は、独鉛山塊の南麓に位置し、沿道には塩田の仏教文化財群と対を成すように中世の仏教文化財が多く残る。三才山峠の麓には、鹿教湯温泉、大塩温泉、靈泉寺温泉の三つの温泉がある。鹿教湯温泉は仏教説話、大塩温泉は信玄の隠し湯、靈泉寺温泉は鬼女紅葉伝説と結びついて、いずれも江戸時代以来の湯治場として栄え、戦後、鹿教湯温泉は温泉クアハウスと病院との連携によるリハビリ機能を拡充させ、発展している。

保存活用の方向性

「高齢化社会」の到来で「健康長寿」が必要とされている現在、改めて温泉療養と現代医療、リハビリ、クアハウス機能を展開しながら、地域の歴史や文化に触れる企画が求められる。また、大規模な養蚕家屋が数多く残るが、その維持について課題を抱えており、具体的な援助策等による保存が求められる。

丸子地域 武石地域 文化財分布図



(8) 真田地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
真田地域	真田氏発祥の郷として歴史に培われた数多くの歴史・文化資源が点在	自然、歴史・文化、スポーツリゾート、農業などの地域資源の連携推進により、地域産業の活性化と交流促進のまちを目指します。	地域資源を生かした観光振興	真田氏発祥の郷の歴史や自然を背景に、地域の生活・文化などに触れる参加・体験型観光の推進等産学官民連携による観光地づくり

歴史文化の特徴

真田地域は、四阿山に源を発する神川とその支流によって形成された河岸段丘上に集落が発達してきた。古代には四阿山を加賀白山に見立てた白山信仰も入り、延喜式内社山家神社をはじめ、地域内のいたるところに白山信仰の遺跡や遺物がある。寺院関係では、白山比咩の化身といわれる十一面観音菩薩像が三島社御正体や実相院十一面観音菩薩立像にあらわれている。

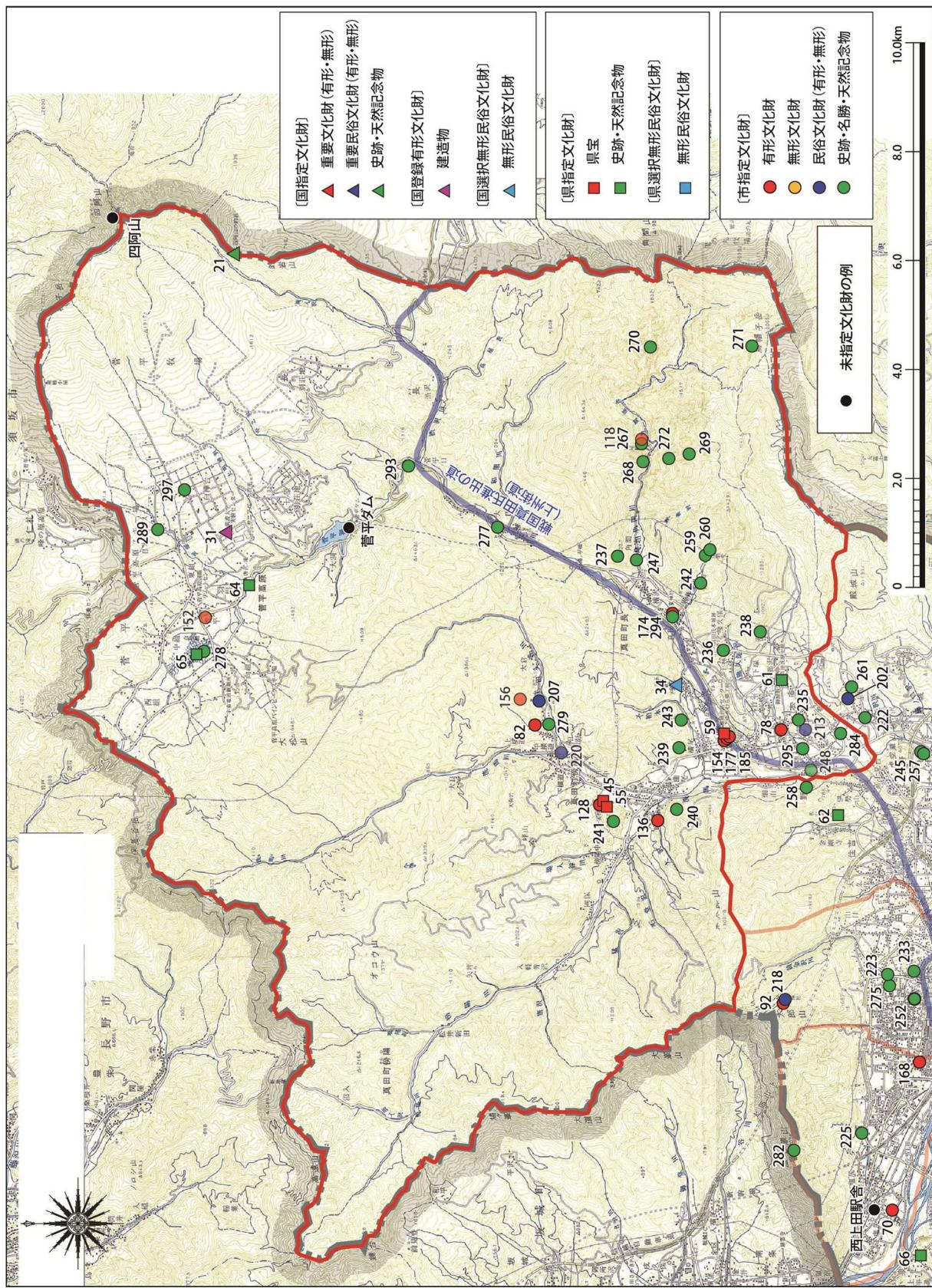
戦国時代にはこの地に真田氏が興る。真田氏は上州と上田を結ぶ上州道にそって領地を拡大し、沿線の山々に山城を築き、あるいは奪取しながら地域を守り治め、山城の城下には城下町が発達していった。また、上州道沿線はもちろん、上州道から金剛寺峠を越えて地蔵峠越えに松代へ至る松代道、上州道から分岐して菅平越えで須坂に向かう大坂道もあり、それぞれに街道筋には集落が発達している。

近代には、ローカル鉄道真田傍陽線が開通している。上田駅と真田町の傍陽駅、真田駅を結んでいた。昭和2年(1927)に開通し、昭和47年(1972)に廃止された。上田駅を起点とし、中央地域の川原柳駅から国道144号線に沿う形で本原駅を経由して真田駅を結んでいた。また本原駅から分岐して現在の長野県道35号線に沿って傍陽駅までを結んでいた。この開通により菅平の観光開発が進み、真田傍陽線は菅平高原や群馬県への交通手段として、あるいは高原野菜、リンゴなどの農産物を輸送するための路線としても盛んに利用された。

真田地域の北、標高1,300~1,400mに位置する菅平高原の開拓は、縄文・弥生時代以降は、江戸時代初頭に松代藩によってあったようだが、本格的には幕末以降、上田藩の手になる。地域は養蚕業と高原野菜を主とする農業、畜産業によって発達する。昭和初期、スキー・リゾート開発が始まり、地域の農家は、冬季の現金収入の途としてホテル・旅館業を興していく。

保存活用の方向性

真田地域は、北の四阿山から南に向かって高低差のある地形により、地形・景観が認知されやすい。この特長を活かして、周囲の山々と山城、城下町と街道筋の町並みを幹線道路からも認知しやすくするとともに、歴史的な有形文化財や祭礼行事等に誘導する施策を確立する。



真田地域 文化財分布図

(9) 武石地域歴史文化保存活用区域

総合計画の記述

	地域の特性	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
武石地域	御柱祭とお練り、火渡り刃渡りの一心様など伝統文化の里		地域の特性を生かした教育の推進とスポーツの振興	地域の課題や歴史など生涯にわたる学習機運の醸成と、スポーツの振興、健康・体力づくり活動の充実

関連文化財群

- ・蚕都上田の蚕業遺産群
- ・近代の保養・観光開発の文化財群

歴史文化の特徴

武石地域は、室町時代に依田庄武石郷として歴史上に名を出し、妙見寺の鳴龍が室町時代の文化財として残っている。それ以前、平安時代後期の阿弥陀如来立像が正念寺に伝わっており、武石地域の祖先が平安時代後期の下総の武家武石氏であるという伝承が地域の社寺に伝わっている。

近世、『信府統記』によれば、武石の通りを「この路往還にあらず、松本より上田・小諸等の城下を除けて中山道長久保へ出る道なり」と記され、正規の道ではないが、上田・小諸の城下をさけて江戸へ通じる最短距離の道であったことが分かる。

近代には風穴による蚕種製造や養蚕が盛んになっている。

保存活用の方向性

武石地域は、歴史上、大きな街道が通ったり、山城が数多く置かれた地域でもないが、このことがこの地域を逆に際立たせており、山間の農村の原風景を維持している。特に、毎春の「余里の一里花桃」は「世界中で一番きれいな二週間」といわれ、まさしく桃源郷の様相を呈する。また、武石川の巣栗渓谷や焼山の滝など、マイナーな魅力に溢れた地域の景観を守りながら発展させる計画が必要である。

第7章 保存活用計画策定に向けて

1 基本的な考え方

保存活用計画は、上田市歴史文化基本構想に掲げる目標の実現に大きな役割を担う6つの「関連文化財群」と9つの「歴史文化保存活用区域」について、具体的な施策の方向性や方策等を定めることにより、そのまとまりを活かした保存・活用の取り組みを、関係する各主体との協働並びに上位・関連計画等との調整のもとに、計画的に推進していくことを目的として策定するものである。

保存活用計画は、上田市が作成主体となり、対象となる区域の市民や関連する各種活動団体、専門家等と連携・協力して作成する。保存活用計画に示す文化財とその周辺環境の整備の方針は、本構想に示す各方針に即すものとし、関連文化財群や地域自治としてのまとまりの視点を踏まえた保存・管理及び整備・活用を推進する。文化財とその周辺環境の整備にあたっては、都市計画行政や景観行政、農林行政、観光行政等の関連する行政部局との連携のもと、地域コミュニティや活動団体等との協働のもと、地域に根ざした保存・活用の取り組みを推進する。

2 保存活用計画に定める事項

保存活用計画には次の事項を定めることを基本とする。

- (1) 計画の対象区域
- (2) 対象区域における歴史文化の特徴
 - 上田市の歴史文化の中における対象区域の歴史文化の位置付け
 - 当該保存活用計画の対象とする文化財の整理 等
- (3) 文化財の保存・管理及び整備・活用の方針及び方策
 - 対象区域において、歴史文化を活かしたまちづくりを進める際の重点的な取り組みの方向性
 - 個々の文化財や関連文化財群の保存・管理及び整備・活用の方向性
 - 地域の魅力や活力の向上につなげるための具体的な取り組みの方向性
 - (拠点の創出やネットワークの創出、景観づくりなど)
- (4) 体制整備の方針
 - 対象区域における歴史文化の担い手の状況に応じた、各主体の役割や主体間連携の方針 等
- (5) 具体的な事業計画
 - 短期・中期・長期等の各段階に応じた、具体的な取り組みや事業の内容 等

第8章 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針

1 文化財保護行政の体制と課題

第4章(5)「文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針」では、体制整備について「歴史文化の視点から市の内部の様々な施策を管理するネットワークと組織が必要不可欠」であり、「一貫したコンセプトに基づくまちづくりの実現を目指していく。」と目標を掲げた。

この実現に向けて、都市計画審議会や景観審議会などに歴史の専門家や文化財や担当職員を積極的に参加させる。また、文化財保護審議会内に構想に関する協議の場を設け、文化財保護事業の進捗や結果についての報告や、本構想の評価を行っていくことも必要である。このような市庁内の連携体制を構築し、目標を達成する。

2 地域における文化財保護

総合計画でも掲げられているとおり、9つの地域ごとに市民の視点で歴史文化資源を活用しながら地域市民参加で守り生かしていくことを検討する。地域で文化財に関する様々な事業の企画や助言、情報交換等を行い、市民参加による文化財保存・活用を推進する役割を担う組織について検討する。

その効果としては、第一に市民レベルでの文化財の調査・研究・管理の促進が期待される。市内には指定・登録文化財のほかにも多くの文化財が所在しているが、これらをすべて行政や所有者だけで管理していくことは困難である。そこで、各地域から新たな文化財の情報提供や文化財の管理状況の報告を行う活動することで、基本データベースの情報量の充実や、情報を最新のものに保つことができると考えられる。さらに、調査・研究の際に学術研究機関や専門家らとも連携を図ることで、調査・研究精度の向上を図るとともに、地域の学術研究成果の充実なども併せて図ることができる。

次に文化財の活用や情報発信などが期待できる。近年、取り壊しや空き家となる歴史的な建造物が増加してきている。これらを活用し、団体の活動拠点や情報発信の拠点、飲食店などとして活用することで、こうした問題解決の一助となるものと思われる。

また、地域団体による文化財の修理活動なども考えられる。団体内に、地元の建築士や大工、専門家などからなる部会を設置し、学術研究機関などとも連携し、文化財の修理などに携わることで、地域産業の活性化と技術の向上、後継者の育成などへと繋げていく。

さらに本市には、信州大学(繊維学部)、長野大学、筑波大学(山岳科学センター菅平高原実験所)、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校の5校の高等教育施設がある。これらの施設や教職員、学生らと連携して、調査・研究・保護を地域住民とともに進めていく。